

第14章 評価書の補正

環境影響評価書の作成にあたっては、大臣意見を勘案するとともに、環境影響評価書の記載事項について検討を加え、必要な追記・補正を行った。

補正前の環境影響評価書からの主な相違点を、表 14-1 に示す。

なお、表現の適正化及び誤字・脱字等の訂正については、適宜行っている。

表 14-1 補正前の環境影響評価書からの主な相違点

■本編

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 3-34 6) 車両基地 (工場) (中部車両基地 (工場))	敷地面積は、約 65ha を想定している。	敷地面積は、約 65ha を想定している。 <u>車両の整備については基本的に検修庫内で実施することから、車両基地での作業に伴う騒音の影響は非常に小さくなる。</u>
p 3-40 ウ. 山岳トンネル部 (非常口を含む)	工事の実施にあたり、非常口等に工事施工ヤード等を設ける。工事施工ヤードでは、周囲に工事用のフェンスを設置するとともに、発生土の仮置き、濁水処理設備の設置、必要に応じてコンクリートプラント等を設置する予定としている。また、周辺に住居等が存在する場合は、非常口出口に防音扉を設置する。なお、工事施工ヤードの面積は 0.5~1.0ha を標準として考えている。	工事の実施にあたり、非常口等に工事施工ヤード等を設ける。工事施工ヤードでは、周囲に工事用のフェンス (<u>仮囲い等</u>) を設置するとともに、発生土の仮置き、濁水処理設備の設置、必要に応じてコンクリートプラント等を設置する予定としている。 <u>工事施工ヤードの復旧にあたっては、可能な限り植栽工を施すなど緑化に配慮する予定としている。</u> また、周辺に住居等が存在する場合は、非常口出口に防音扉を設置する。なお、工事施工ヤードの面積は 0.5~1.0ha を標準として考えている。 <u>工事施工ヤードの設置においては、できる限り改変を小さくするとともに、良好な自然植生が残る箇所は避けるよう計画する。また、仮囲い等については、色彩などにより周辺と調和するよう地域の景観に配慮していく。</u>
p 3-44 (4) 工事に伴う工事用道路、発生土及び工事排水の処理等	(4) 工事に伴う工事用道路、発生土及び工事排水の処理 工事で使用する道路は、既存道路を活用する。 発生土 ⁽⁵⁾ は本事業内で再利用、他の公共事業等への有効利用に努める。また、新たに発生土置き場が必要となる場合には、事前に調査検討を行い、周辺環境への影響をできる限り回避又は低減するよう適切に対処する。なお、発生土置き場は、県及び関係市町の協力を得て選定していくことを考えている。 工事排水は、各自治体において定められた排水基準等に従い適切に処理する。	(4) 工事に伴う工事用道路、発生土及び工事排水の処理等 工事で使用する道路は、既存道路を活用し、必要に応じて新たに設置する。 発生土 ⁽⁶⁾ は本事業内で再利用、他の公共事業等への有効利用に努める。新たに発生土置き場が必要となる場合には、事前に調査検討を行い、周辺環境への影響をできる限り回避又は低減するよう適切に対処する。なお、発生土置き場は、県及び関係市町の協力を得て選定していくことを考えている。また、場所の選定にあたっては、 <u>地質調査や測量等を実施し、森林法や河川法等の関係法令に基づいて都県や河川の管理者等と協議を行いつつ、生物多様性の保全上重要な自然環境・地域、具体的には環境省が選定した「特定植物群落」、 「日</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>本の重要湿地 500」等のほか、自然植生、<u>湿地、希少な動植物の生息地・生育地、まとまった緑地等、動植物の重要な生息地・生育地や自然度の高い区域、土砂の流出があった場合に近傍河川の汚濁のおそれがある区域等を出来る限り避けるとともに、第 10 章に示す調査及び影響検討を実施し、第 9 章に示す環境保全措置を詳細なものにしていく。設計段階においては、発生土の土質に応じたのり面勾配の確保や擁壁の設置、排水設備の設置を検討するとともに、工事完了後には、できる限り早期に土砂流出防止に有効なのり面への播種や緑化を実施することにより、発生土置き場からの流出土砂による河床上昇・溪床への堆積に伴う災害危険度の増大、発生土置き場の崩壊に伴う土砂災害、発生土置き場からの濁水に伴う河川への影響が生じないように努める。なお、緑化されるまでの期間においても沈砂池を設置することなどにより土砂の流出や濁水を防止する対策を実施する。発生土を運搬する際には、飛散流出等により周辺環境に影響を及ぼさないよう、ダンプトラックへのシート設置等の流出防止策を実施し、沿道への影響を低減していく。さらに、工事中及び完成後において周辺環境に影響を及ぼさないための管理計画を、置き場ごとに作成して、適切に管理を進める。これらの調査や影響検討の結果、環境保全措置の内容及び管理計画については公表するとともに、関係する住民の方々への説明やご意見を伺う機会を設けていく。第三者が最終的に管理を行うこととなる場合には、この管理計画を引き継ぎ、清掃による排水設備の機能確保等、適切な管理が継続して行われるようにしていく。</u></p> <p>工事排水は、各自治体において定められた排水基準等に従い適切に処理する。なお、沢や河川等の表流水へのトンネル湧水の放流にあたっては、表流水へ影響する可能性のある箇所では専門家等の助言や地方公共団体との協議を踏まえて多地点で放流を行うなど、できる限り影響を回避、低減すべく計画していく。また、河川等からの取水については、取水箇所における流量測定を行い、流量が取水量に対して非常に豊富であると確認出来た場合において、水生生物や生態系に影響を及ぼす恐れがないことについて専門家に助言を得るとともに、他に水を利用する関係者との協議を行った上で取水する。</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 3-45 (5) 工事実施期間	その際には、極力夜間作業が少なくなるような工事計画を立て、十分な安全対策を講じるとともに、付近の住民に対し事前に工事の実施期間、内容等について周知徹底する。	その際には、極力夜間作業が少なくなるような工事計画を立て、十分な安全対策を講じるとともに、 <u>関係機関と適宜協議を行い、工事説明会などの場を通じて</u> 付近の住民に対し事前に工事の実施期間、内容等について周知徹底する。
p 4-2-1-85 表 4-2-1-49 土壌の汚染に係る環境基準	(項目、環境上の条件) 1, 1-ジクロロエチレン、検液 1L につき 0.02mg 以下であること。	(項目、環境上の条件) 1, 1-ジクロロエチレン、検液 1L につき <u>0.1mg 以下</u> であること。
p 4-2-1-86 表 4-2-1-50 ダイオキシン類による土壌の汚染に係る環境基準	—	以下を追記 <u>備考</u> 1. <u>基準値は、2, 3, 7, 8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。</u> 2. <u>土壌中に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出又は高圧流体抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計又はガスクロマトグラフ四重極形質量分析計により測定する方法(以下「簡易測定方法」という。)により測定した値(以下「簡易測定値」という。)に2を乗じた値を上限、簡易測定値に0.5を乗じた値を下限とし、その範囲内の値を測定した値とみなす。</u> 3. <u>環境基準が達成されている場合であつて、土壌中のダイオキシン類の量が250pg-TEQ/g 以上の場合(簡易測定方法により測定した場合にあつては、簡易測定値に2を乗じた値が250pg-TEQ/g 以上の場合)には、必要な調査を実施することとする。</u>
p 4-2-2-32 2) 湧水等の分布	環境省及び岐阜県により選定された湧水等には重複したものがあり、対象事業実施区域及びその周囲においては、表 4-2-2-9 及び図 4-2-2-3 に示すとおり 7 箇所となっている。	<u>「湧水保全ポータルサイト」の「代表的な湧水」と岐阜県選定の「岐阜県の名水」には重複したものがあり、対象事業実施区域及びその周囲においては、表 4-2-2-9 及び図 4-2-2-3 に示すとおり 7 箇所となっている。</u>
p 5-2-34 表 5-2-4-11 土壌の予測結果	(大深度部) ・土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域が4箇所存在するため、トンネル、駅及び非常口(都市部)等の工事における土地の掘削等により基準不適合土壌が拡散する可能性がある。	(大深度部) ・土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域が4箇所存在するため、トンネル、駅及び非常口(都市部)等の工事における土地の掘削等により基準不適合土壌が拡散する可能性がある。 <u>また、要措置区域は1箇所存在するものの、該当区域は回避するよう計画することから、影響はない。</u>
p 7-2-29 表 7-2-1(14) 環境影響評価項目に係る調査、予測及び評価の手法並びにその選定理由	(温室効果ガス、影響要因の区分) (工事の実施) ・建設機械の稼働 ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	(温室効果ガス、影響要因の区分) (工事の実施) ・建設機械の稼働 ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 ・ <u>建設資材の使用及び廃棄物の発生</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(温室効果ガス、工事の実施、予測の基本的な手法)</p> <p>1. 予測項目 建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る建設工事に伴う温室効果ガス</p> <p>2. 予測の基本的な手法 事業特性を勘案し、類似事例等を参考にする方法により必要に応じて定量的検討を踏まえ、温室効果ガス発生量の削減への取り組みを勘案して定性的に予測する。</p> <p>3. 予測地域 対象事業実施区域とする。</p> <p>4. 予測対象時期 工事期間中とする。</p>	<p>(温室効果ガス、工事の実施、予測の基本的な手法)</p> <p>1. 予測項目 建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、<u>建設資材の使用及び廃棄物の発生</u>に係る建設工事に伴う温室効果ガス</p> <p>2. 予測の基本的な手法 <u>工事の実施において建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、建設資材の使用及び廃棄物の発生に伴う温室効果ガス排出量を積算する方法により定量的に検討し、温室効果ガス排出量の削減への取り組みを勘案して定性的に予測する。</u></p> <p>3. 予測地域 対象事業実施区域とする。</p> <p>4. 予測対象時期 工事期間中とする。</p>
<p>p 8-1-1-41 表 8-1-1-21 環境保全措置の検討の状況</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由) 変更区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できるため、環境保全措置として採用する。</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できるため、環境保全措置として採用する。</u></p>
	<p>—</p>	<p>以下を追記 (環境保全措置) <u>工事の平準化</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>工事の平準化により片寄った施工を避けることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の局地的な発生を低減できるため、環境保全措置として採用する。</u></p>
	<p>—</p>	<p>以下を追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>建設機械の適正な稼働について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生が低減できるため、環境保全措置として採用する。</u></p>
<p>p 8-1-1-41 b) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容</p>	<p>本事業では、建設機械の稼働による二酸化窒素及び浮遊粒子状物質に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「排出ガス対策型建設機械の稼働」、</p>	<p>本事業では、建設機械の稼働による二酸化窒素及び浮遊粒子状物質に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「排出ガス対策型建設機械の稼働」、「工</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の使用時における配慮」、「建設機械の点検・整備による性能維持」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」及び「VOCの排出抑制」を実施する。	「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の使用時における配慮」、「建設機械の点検・整備による性能維持」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」、「VOCの排出抑制」、「 <u>工事の平準化</u> 」及び「 <u>工事従事者への講習・指導</u> 」を実施する。
p 8-1-1-42 表 8-1-1-22(5) 環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 変更区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。	(環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。</u>
p 8-1-1-43 表 8-1-1-22(7) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-1-43 表 8-1-1-22(8) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-1-53 ①車両交通量	各予測地点における資材及び機械の運搬に用いる車両の台数を表 8-1-1-27 に示す。	各予測地点における資材及び機械の運搬に用いる車両の台数を表 8-1-1-27 に示す。 <u>また、設定した走行速度は、渋滞による速度低下等も考慮するため現地により実測した結果を踏まえて設定した。</u>
p 8-1-1-53 表 8-1-1-27 資材及び機械の運搬に用いる車両等の台数	注 1. 表中の年間発生台数は、片道の台数を示す。	注 1. <u>運行時間帯 8:00～17:00 (12:00 台を除く)。</u> 注 2. 表中の年間発生台数は、片道の台数を示す。
p 8-1-1-65 表 8-1-1-31 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>工事の平準化</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>工事の平準化により資材及び機械の運搬に用いる車両が集中しないことで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の局地的な発生を低減できるため、環境保全措置として採用する。</u>
	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運行について、工事従事者への講習・指導を実施することにより発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-1-1-65 b) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環	本事業では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による二酸化窒素及び浮遊	本事業では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による二酸化窒素及び浮遊

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
環境保全措置の実施の内容	遊粒子状物質に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮」及び「環境負荷低減を意識した運転の徹底」を実施する。	粒子状物質に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮」、 <u>「環境負荷低減を意識した運転の徹底」</u> 、 <u>「工事の平準化」</u> 及び <u>「工事従事者への講習・指導」</u> を実施する。
p 8-1-1-66 表 8-1-1-32(4) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-1-67 表 8-1-1-32(5) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-1-95 表 8-1-1-53 環境保全措置の検討の状況	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由) 変更区域をできるだけ小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できるため、環境保全措置として採用する。	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できるため、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-1-1-95 表 8-1-1-53 環境保全措置の検討の状況	—	追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>建設機械の適正な稼働について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、粉じん等の発生を低減できるため、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-1-1-96 表 8-1-1-54(4) 環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 変更区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できる。	(環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できる。</u>
p 8-1-1-97 表 8-1-1-54(6) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-1-110 表 8-1-1-60 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な走行について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、粉じん等の発生を低減できるため、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-1-1-110 b) 環境保全措置の実施	本事業では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による粉じん等に係る環	本事業では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による粉じん等に係る環

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	環境影響を低減させるため、環境保全措置として「荷台への防塵シートの敷設及び散水」「資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口や周辺道路の清掃及び散水、タイヤの清掃」及び「工事の平準化」を実施する。	影響を低減させるため、環境保全措置として「荷台への防塵シートの敷設及び散水」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口や周辺道路の清掃及び散水、タイヤの清掃」、「工事の平準化」及び「 <u>工事従事者への講習・指導</u> 」を実施する。
p 8-1-1-111 表 8-1-1-61(4) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-2-10 5) 調査期間等	現地調査の調査時期は、表 8-1-2-5 のとおり、騒音が年間を通して平均的な状況であると考えられる平日の 24 時間とした。	現地調査の調査時期は、表 8-1-2-5 のとおりである。 <u>調査範囲が広域に渡ることで、調査員数に限りがあること、また、天候による調査日選定の関係もあったことから、同一日における一斉調査は困難であり、地域毎に調査日が異なっているが、騒音が年間を通して平均的な状況であると考えられる平日の 24 時間とした。</u>
8-1-2-16 b) 予測式	$\Delta L_d = \begin{cases} -5 + 15.2 \sinh^{-1}(\delta ^{0.42}) & 0 \leq \delta < 0.073 \\ 0 & 0.073 < \delta \end{cases}$	$\Delta L_d = \begin{cases} -5 + 15.2 \sinh^{-1}(\delta ^{0.42}) & 0 \leq \delta \leq 0.073 \\ 0 & 0.073 < \delta \end{cases}$
p 8-1-2-22~27 図 8-1-2-5(1)~(6) 予測結果及び予測地点位置図	—	以下を追記 学校、病院及び福祉施設等
p 8-1-2-28 表 8-1-2-16 環境保全措置の検討の状況	(仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策、適否の理由) 住居等周辺環境を考慮した仮囲い等の高さの検討を行ったうえで仮囲い・防音シート等を設置することで、遮音による騒音の低減効果が見込まれることから、環境保全措置として採用する。	(仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策、適否の理由) <u>仮囲いについて、住居等周辺環境を考慮した高さの検討を行ったうえで防音シート等を設置することで、遮音による騒音の低減効果が見込まれることから、環境保全措置として採用する。なお、防音シートの遮音性能は、透過損失 10dB とされている</u> (ASJ CN-Model 2007)
	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>建設機械の騒音発生の抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、騒音の低減が見込まれるため、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-1-2-28 1) 環境保全措置の実施 主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	本事業では、建設機械の稼働による騒音に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「低騒音型建設機械の採用」、「仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策」、「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の使用時における配慮」、「建設機械の点検・整備による性能維持」及び「工事の平準化」を実施する。	本事業では、建設機械の稼働による騒音に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「低騒音型建設機械の採用」、「仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策」、「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の使用時における配慮」、「建設機械の点検・整備による性能維持」、「 <u>工事の平準化</u> 」及び「 <u>工事従事者への講習・指導</u> 」を実施する。

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 8-1-2-29 表 8-1-2-17(2)環境保全措置の内容	住居等周辺環境を考慮した仮囲い等の高さの検討を行ったうえで仮囲い・防音シート等を設置することで、遮音による騒音の低減効果が見込まれる。	仮囲いについて、住居等周辺環境を考慮した高さの検討を行ったうえで防音シート等を設置することで、遮音による騒音の低減効果が見込まれる。 <u>なお、防音シートの遮音性能は、透過損失 10dB とされている (ASJ CN-Model 2007)</u>
p 8-1-2-30 8-1-2-17(7)環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-2-31 b) 基準又は目標との整合性の検討	よって、建設機械の稼働による騒音は、基準又は目標との整合が図られていると評価する。	よって、建設機械の稼働による騒音は、基準又は目標との整合が図られていると評価する。 <u>なお、特定建設作業に該当する場合は、騒音規制法に基づく実施の届出を行う。</u>
p 8-1-2-36 表 8-1-2-21 予測条件	注 1. 昼間は 6 時～22 時とした。	注 1. 昼間は 6 時～22 時とした。 <u>注 2. 表中の発生交通量は、両方向の合計交通量を示す。</u>
p 8-1-2-38～43 図 8-1-2-7(1)～(6) 予測結果及び予測地点位置図	—	以下を追記 学校、病院及び福祉施設等
p 8-1-2-44 表 8-1-2-23 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) 適 (適否の理由) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による騒音発生の抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、発生する騒音を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-1-2-44 イ) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	本事業では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による騒音に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮」、「環境負荷低減を意識した運転の徹底」及び「工事の平準化」を実施する。	本事業では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による騒音に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮」、「環境負荷低減を意識した運転の徹底」、「 <u>工事の平準化</u> 」及び「 <u>工事従事者への講習・指導</u> 」を実施する。
p 8-1-2-45 表 8-1-2-24(5)環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-2-47 b) 基準又は目標との整合性の検討	これらの地点では現況の騒音レベルが基準を超過しており、また、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による寄与は小さい。	これらの地点では現況の騒音レベルが基準を超過しており、また、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による寄与は小さい。 <u>なお、既に環境基準を超過している地点については、道路管理者と連絡、調整を密に図り、更なる環境影響の低減に努める。</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 8-1-2-51 表 8-1-2-29 換気装置の パワーレベル (A 特性)	注 1. PWL:換気装置 1 台のパワーレベル ※既存の装置における測定値より推定	注 1. PWL:換気装置 1 台のパワーレベル(既存の装置における測定値より推定) 注 2. <u>同程度の既存換気装置を 80%運転した時における測定値について、送風機ハンドブックに基づいて動力換算しパワーレベルを推定。また、既存換気装置の測定にあたっては、JIS B 8346 (送風機及び圧縮機—騒音レベル測定方法) に基づいて実施。</u> 注 3. <u>計画している換気装置は、同形式の軸流式換気装置を予定</u>
p 8-1-2-51 表 8-1-2-31 消音設備の減衰量	注 1. ΔL1:消音設備による減衰量 ※メーカーカタログによる	注 1. ΔL1:消音設備による減衰量(メーカーカタログによる)。また、サイレンサのメーカーカタログ値は、ISO 7235 (Acoustics-Measurement procedures for ducted silencers-) を参考に減音量を測定。
p 8-1-2-54 表 8-1-2-34 環境保全措置の検討の状況	(換気ダクトの曲がり部の設置、適否の理由) 換気施設のダクトに曲がり部を設置することで回折による減衰効果により、騒音を低減できることから、環境保全措置として採用する。	(換気ダクトの曲がり部の設置、適否の理由) 換気施設のダクトに曲がり部を設置することで回折による減衰効果により、騒音を低減できる(「実務的騒音対策指針等」(日本建築学会) に減音効果が記載されており、道路の換気設備の予測事例では、約 3dB の減音を見込んでいる)ことから、環境保全措置として採用する。
p 8-1-2-54 7)環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	本事業では、鉄道施設(換気施設)の供用による騒音に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「環境対策型換気施設の採用」、「消音設備及び多孔板の設置」、「換気ダクトの曲がり部の設置」及び「換気施設の点検・整備による性能維持」を実施する。	本事業では、鉄道施設(換気施設)の供用による騒音に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「環境対策型換気施設の採用」、「消音設備及び多孔板の設置」、「換気ダクトの曲がり部の設置」及び「換気施設の点検・整備による性能維持」を実施する。 また、 <u>環境対策型換気施設の詳細な設計時には、主な騒音源の騒音値等を踏まえ設備を覆うコンクリートの厚さを検討する。</u>
p 8-1-2-55 表 8-1-2-35(3) 環境保全措置の内容	換気施設のダクトに曲がり部を設置することで回折による減衰効果により、騒音を低減できる。	換気施設のダクトに曲がり部を設置することで回折による減衰効果により、騒音を低減できる(「実務的騒音対策指針等」(日本建築学会) に減音効果が記載されており、道路の換気設備の予測事例では、約 3dB の減音を見込んでいる)。
p 8-1-2-63 エ)予測地点	予測地点は、予測地域の内、住居等の分布状況と環境対策工の種類を考慮し、列車の走行(地下を走行する場合を除く。)に係る騒音の影響を適切に予測することができる地点として、表 8-1-2-38 に示す市町の代表地点及び表 8-1-2-39 に示す路線近傍の学校、病院等 ⁽¹⁾ を設定した。予測高さは、いずれも地表から 1.2m とした。	予測地点は、予測地域の内、住居等の分布状況と環境対策工の種類を考慮し、列車の走行(地下を走行する場合を除く。)に係る騒音の影響を適切に予測することができる地点として、表 8-1-2-38 に示す市町の代表地点及び表 8-1-2-39 に示す路線近傍の学校、病院等 ⁽⁴⁾ を設定した。 <u>市町の主な代表地点については、環境対策工の種類を考慮したうえで、基本的には線路近傍で最も住居の集積が多いと考えられる</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		箇所を選定したが、別に選定した路線近傍の学校、病院等の位置も考慮し、地点が偏らないように配慮した。
p 8-1-2-73 表 8-1-2-44 環境保全措置の検討の状況	(個別家屋対策、適否の理由) 家屋の防音工事等を行うことにより、騒音の影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。 (沿線の土地利用対策、適否の理由) 新幹線計画と整合した公共施設(道路、公園、緑地等)を配置する等の土地利用対策を推進するよう関係機関に協力を要請することで、鉄道施設との距離を確保することにより、住居等における騒音を低減できることから、環境保全措置として採用する。	(個別家屋対策、適否の理由) 対象となる家屋の所有者と話をした上で、 <u>防音型アルミサッシへの取替や防振パッキングといった家屋の防音工事等を行うことにより、騒音の影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u> (沿線の土地利用対策、適否の理由) 新幹線計画と整合した <u>住宅開発の抑制や公共施設(道路、公園、緑地等)の配置等の土地利用対策を推進するよう関係機関に協力を要請することで、鉄道施設との距離を確保することにより、住居等における騒音を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-1-2-75 表 8-1-2-45(5)環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 家屋の防音工事等を行うことにより、騒音の影響を低減できる。	(環境保全措置の効果) 対象となる家屋の所有者と話をした上で、 <u>防音型アルミサッシへの取替や防振パッキングといった家屋の防音工事等を行うことにより、騒音の影響を低減できる。</u>
p 8-1-2-75 表 8-1-2-45(6)環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 新幹線計画と整合した公共施設(道路、公園、緑地等)を配置する等の土地利用対策を推進することで、鉄道施設との距離を確保することにより、住居等における騒音を低減できる。	(環境保全措置の効果) 新幹線計画と整合した <u>住宅開発の抑制や公共施設(道路、公園、緑地等)の配置等の土地利用対策を推進することで、鉄道施設との距離を確保することにより、住居等における騒音を低減できる。</u>
p 8-1-2-76 b) 基準又は目標との整合性の検討	評価の指標となる表 8-1-2-46 の「新幹線鉄道騒音に係る環境基準」は、新幹線鉄道騒音による被害を防止するための音源対策、障害防止対策(個別家屋対策)、土地利用対策等の各種施策を総合的に推進するに際しての行政上の目標となるべきものとされている。	評価の指標となる表 8-1-2-46 の「新幹線鉄道騒音に係る環境基準」は、新幹線鉄道騒音による被害を防止するための音源対策、障害防止対策(個別家屋対策)、土地利用対策等の各種施策を総合的に推進するに際しての行政上の目標となるべきものとされている。また、「 <u>新幹線鉄道騒音対策要綱</u> 」(昭和 51 年 3 月 5 日閣議了解)においても、 <u>音源対策、障害防止対策、沿線地域の土地利用対策等の対策実施を強力に推進するものとされている。</u> <u>生活環境の保全に配慮すべき住居等が多く存在している集落の区域や病院等の保全施設が近くにあるところにおいては、音源対策として防音防災フードを設置することを基本に考えており、結果として、地上区間の多くの延長にわたってこの考え方により防音防災フードを設置することを想定している。</u> <u>しかしながらその一方で、観光振興の観点等から、走行するリニア車両を一定の区間見えるようにしてほしい、との地元自治体からの要請もあるという現状がある。</u> <u>走行するリニア車両の騒音を音源対策</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>として抑制するためには、防音防災フードのように隙間のない構造とする必要があり、透明材でフードを構成することは極めて困難であり、現状のコンクリート製のフードとする必要があることから、走行するリニア車両を見えるようにするためには、防音防災フードを設置するのではなく、防音壁とする以外に現実的な方策はないと考えている。</u></p> <p><u>したがって、連続した防音壁区間を確保するため、新幹線鉄道騒音から通常の生活を保全する必要がある箇所に該当しない、河川部、農用地、工業専用地域となっている区間の他、これらに挟まれた比較的家屋の少ない区間についても防音壁とすることを想定している。仮に、こうした場所について類型指定がなされる場合、Ⅱ類型であったとしても防音壁という音源対策だけでは基準を達成することができないため、まずは類型指定がなされないよう、関係機関に要請をするとともに、類型指定がなされた場合は公共施設（道路、公園、緑地等）の配置、宅地開発の抑制といった土地利用対策を関係機関に要請していくが、それらの対策によっても環境基準が達成できない場合には、障害防止対策（個別家屋対策）を実施することにより、環境基準が達成された場合と同等の屋内環境を保持して、基準との整合を図っていく。</u></p> <p><u>これらの点を踏まえて、音源対策としての環境対策工の配置については、関係機関による土地利用対策の考え方も勘案し、現状の住居等の分布状況や土地利用の状況に基づいて、県および沿線市町と協議して決定し、計画の進捗に合わせて今後各段階で実施する説明会等の場で住民の皆様に説明し、ご理解を深めて頂く考えである。</u></p> <p><u>また、土地利用対策については、昭和50年に環境庁大気保全局長から各都道府県の知事に通知された環大特第100号において、「新幹線鉄道沿線地域を含む土地利用計画を決定し、又は変更しようとする場合は、この基準の維持達成に資するよう配慮すること」とされていることから、工事期間中や供用後を含め、この趣旨に沿った取扱いが継続して進められるよう、関係機関に協力を要請していく。</u></p> <p><u>完成後は、環境対策工の配置を踏まえて測定地点を選定し、騒音測定を行う。その結果、環境基準との整合が図られていない場合には、原因を究明のうえ、必要な環境保全措置を講じていく。</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 8-1-3-10 5) 調査期間	現地調査の調査時期は表 8-1-3-5 に示す、振動が年間を通して平均的な状況であると考えられる平日の 24 時間とした。	現地調査の調査時期は表 8-1-3-5 に示すとおりである。 <u>調査範囲が広域に渡ること、調査員数に限りがあること、また、天候による調査日選定の関係もあったことから、同一日における一斉調査は困難であり、地域毎に調査日が異なっているが、振動が年間を通して平均的な状況であると考えられる平日の 24 時間とした。</u>
p 8-1-3-20～25 図 8-1-3-4(1)～(6) 予測結果及び予測地点位置図	—	以下を追記 学校、病院及び福祉施設等
p 8-1-3-26 表 8-1-3-16 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>建設機械の振動発生抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、振動の発生を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-1-3-26 1) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	本事業では、建設機械の稼働に係る振動による環境影響を低減させるため、環境保全措置として「低振動型建設機械の採用」、「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の使用時における配慮」、「建設機械の点検・整備による性能維持」及び「工事の平準化」を実施する。	本事業では、建設機械の稼働に係る振動による環境影響を低減させるため、環境保全措置として「低振動型建設機械の採用」、「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の使用時における配慮」、「建設機械の点検・整備による性能維持」、「 <u>工事の平準化</u> 」及び「 <u>工事従事者への講習・指導</u> 」を実施する。
p 8-1-3-27 表 8-1-3-17(6) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-3-29 b) 基準又は目標との整合性の検討	よって、建設機械の稼働による振動については、基準又は目標との整合は図られていると評価する。	よって、建設機械の稼働による振動については、基準又は目標との整合は図られていると評価する。 なお、 <u>特定建設作業に該当する場合は、振動規制法に基づく実施の届出を行う。</u>
p 8-1-3-32 表 8-1-3-21 予測条件	注 1. 昼間は 8 時～19 時とした。	注 1. 昼間は 8 時～19 時とした。 注 2. <u>表中の発生交通量は、両方向の合計交通量を示す。</u>
p 8-1-3-34～39 図 8-1-3-6(1)～(6) 予測結果及び予測地点位置図	—	以下を追記 学校、病院及び福祉施設等
p 8-1-3-40 表 8-1-3-23 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) 資材及び機械の運搬に用いる車両の走行

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		による振動発生抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、振動の発生を低減できることから、環境保全措置として採用する。
p 8-1-3-41 表 8-1-3-24(5) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-1-3-44 イ) 予測の基本的な手法	鉄道施設（換気施設）の供用に係る振動には、事例の引用により予測を行った。	鉄道施設（換気施設）の供用に係る振動について、 <u>高速横浜環状北線・南線、都市高速道路中央環状品川線、都市高速道路外郭環状線等、道路の換気所の環境影響評価で一般的に用いられている手法である、事例の引用により予測を行った。</u>
p 8-1-3-50 イ) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	本事業では、鉄道施設（換気施設）の供用による振動に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「環境対策型換気施設の採用」、「防振装置の設置」及び「換気施設の点検・整備による性能維持」を実施する。	本事業では、鉄道施設（換気施設）の供用による振動に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「環境対策型換気施設の採用」、「防振装置の設置」及び「換気施設の点検・整備による性能維持」を実施する。 <u>「防振装置の設置」にあたっては、換気設備の仕様を踏まえて防振装置（防振ゴム、吊金具など）を検討する。</u>
p 8-1-4-7 ② 基準又は目標との整合性の検討	また、緩衝工端部中心から 80m の距離においては最大でも 20Pa を下回ることから、今後、路線近傍の住居分布等の周辺環境に留意し、トンネル、防音防災フードの配置に応じて適切な位置に緩衝工を設置し、必要な延長を確保することにより、基準値との整合が図られることを確認した。	また、緩衝工端部中心から 80m の距離においては最大でも 20Pa を下回ることから、今後、路線近傍の住居分布等の周辺環境に留意し、トンネル、防音防災フードの配置に応じて適切な位置に緩衝工を設置し、必要な延長を確保することにより、基準値との整合が図られることを確認した。 <u>また、環境対策工の具体的な設置位置を決める際には、可能な限り 80m 以内に民家が存在しないよう検討する。また、80m 以内に民家が存在する場合などはトンネル等の出入り口に設置する緩衝工延長を評価書で予測した 150m から延ばすなどの対策を行い基準との整合が図られるよう検討していく。</u>
p 8-1-5-5 表 8-1-5-4 換気装置パワーレベル	注 1. PWL0: 換気装置 1 台のパワーレベル ※ 既存の装置における測定値より推定	注 1. PWL0: 換気装置 1 台のパワーレベル（既存の装置における測定値より推定） <u>注 2. 同程度の既存換気装置を 80% 運転した時における測定値について、送風機ハンドブックに基づいて動力換算しパワーレベルを推定</u> <u>注 3. 計画している換気装置は、同形式の軸流式換気装置を予定</u>
p 8-2-1-18 表 8-2-1-8 環境保全措置の検討の状況	（工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由） 工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できることから、環境保全措置として採用する。	（工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由） <u>設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 8-2-1-19 表 8-2-1-9(2) 環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。	(環境保全措置の効果) <u>設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。</u>
p 8-2-1-22 表 8-2-1-11 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、公共用水域への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-2-1-23 b) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	本事業では、トンネルの工事による水の濁りに係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「工事排水の適切な処理」、「工事排水の監視」及び「処理設備の点検・整備による性能維持」を実施する。	本事業では、トンネルの工事による水の濁りに係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「工事排水の適切な処理」、「工事排水の監視」、 <u>「処理設備の点検・整備による性能維持」及び「放流時の放流箇所及び水温の調整」</u> を実施する。
p 8-2-1-23 表 8-2-1-12(4) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-2-1-27 表 8-2-1-14 環境保全措置の検討の状況	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由) 工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できることから、環境保全措置として採用する。	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-2-1-28 表 8-2-1-15(2) 環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 工事に伴う変更区域を必要最小限とすることで、水の濁りの発生を低減できる。	(環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。</u>
P8-2-1-33 オ. 調査期間	なお、水の汚れの現地調査期間を水の濁りの現地調査期間とともに表 8-2-1-4 に示す。	<u>現地調査期間は、豊水期及び低水時の 2 回とし、調査日を水の濁りの現地調査期間とともに表 8-2-1-4 に示す。</u>
p 8-2-1-41 表 8-2-1-22 環境保全措置の検討の状況	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由) 工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の汚れの発生を低減できることから、環境保全措置として採用する。	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由) <u>設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の汚れの発生を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-2-1-42 表 8-2-1-23(2) 環境保	(環境保全措置の効果) 工事に伴う変更区域をできる限り小さく	(環境保全措置の効果) <u>設置する諸設備を検討し、設置する設備や</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
全措置の内容	することで、水の汚れの発生を低減できる。	<u>その配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の汚れの発生を低減できる。</u>
p 8-2-1-46 表 8-2-1-25 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、公共用水域への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-2-1-46 b) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	本事業では、トンネルの工事による水の汚れに係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「工事排水の適切な処理」、「工事排水の監視」及び「処理設備の点検・整備による性能維持」を実施する。	本事業では、トンネルの工事による水の汚れに係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「工事排水の適切な処理」、「工事排水の監視」、 <u>「処理設備の点検・整備による性能維持」及び「放流時の放流箇所及び水温の調整」</u> を実施する。
p 8-2-1-47 表 8-2-1-26(4) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-2-1-51 表 8-2-1-31 環境保全措置の検討の状況	(下水道への排水、適否の理由) 下水道の利用が可能な地域では、処理した上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。	(下水道への排水、適否の理由) 下水道の利用が可能な地域では、 <u>下水道の管理者と協議して処理方法を確定し、処理した上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
p 8-2-1-52 表 8-2-1-32(1) 環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 下水道の利用が可能な地域では、処理をした上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。	(環境保全措置の効果) 下水道の利用が可能な地域では、 <u>下水道の管理者と協議して処理方法を確定し、処理をした上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。</u>
p 8-2-3-34 表 8-2-3-11 環境保全措置の検討の状況	(適切な構造及び工法の採用、適否の理由) 工事の施工に先立ち地質、地下水の調査を実施し、覆工コンクリート、防水シートの設置等を行うと共に、必要に応じて薬液注入工を実施する等により、地下水への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。	(適切な構造及び工法の採用、適否の理由) <u>本線トンネルについては、工事の施工に先立ち事前に先進ボーリング等、最先端の探査技術を用いて地質や地下水の状況を把握したうえで、必要に応じて薬液注入を実施することや、覆工コンクリート、防水シートを設置することにより、地下水への影響を低減できる。</u> <u>また、非常口(山岳部)についても、工事前から工事中にかけて河川流量や井戸の水位等の調査を行うとともに、掘削中は湧水量や地質の状況を慎重に確認し、浅層と深層の帯水層を貫く場合は水みちが生じないように必要に応じて薬液注入を実施するとともに、帯水層を通過し湧水量の多</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>い箇所に対しては、覆工コンクリートや防水シートを設置し地下水の流入を抑えることなどにより、地下水への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
<p>p 8-2-3-35 表 8-2-3-12(2)環境保全措置の内容</p>	<p>(時期・期間) 計画時</p> <p>(環境保全措置効果) 工事の施工に先立ち地質、地下水の調査を実施し、覆工コンクリート、防水シートの設置等を行うと共に、必要に応じて薬液注入工を実施することなどにより、地下水への影響を低減できる。</p>	<p>(時期・期間) 計画時及び工事中</p> <p>(環境保全措置効果) <u>本線トンネルについては、工事の施工に先立ち事前に先進ボーリング等、最先端の探査技術を用いて地質や地下水の状況を把握したうえで、必要に応じて薬液注入を実施することや、覆工コンクリート、防水シートを設置することにより、地下水への影響を低減できる。</u> <u>また、非常口（山岳部）についても、工事前から工事中にかけて河川流量や井戸の水位等の調査を行うとともに、掘削中は湧水量や地質の状況を慎重に確認し、浅層と深層の帯水層を貫く場合は水みちが生じないように必要に応じて薬液注入を実施するとともに、帯水層を通過し湧水量の多い箇所に対しては、覆工コンクリートや防水シートを設置し地下水の流入を抑えることなどにより、地下水への影響を低減できる。</u></p>
<p>p 8-2-3-35 ウ. 事後調査</p>	<p>地下水の水位は、地質等調査の結果を踏まえ水文地質的に検討を行い、予測しているが、<u>破碎帯を通過する地域及び洪積層の浅層部を通過する地域については、状況によって工事中に集中的な湧水が発生する可能性があり、一部の水道水源等に与える影響の予測に不確実性があることから、「8-2-4 水資源」に示すとおり、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u></p>	<p>地下水の水位は、地質等調査の結果を踏まえ水文地質的に検討を行い、予測しているが、<u>本線トンネル及び非常口（山岳部）において、破碎帯を通過する地域及び洪積層の浅層部を通過する地域については、状況によって工事中に集中的な湧水が発生する可能性があり、一部の水道水源等に与える影響の予測に不確実性があることから、「8-2-4 水資源」に示すとおり、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u></p>
<p>p 8-2-3-38 ウ)環境保全措置の効果及び当該環境保全措置を講じた後の環境の変化の状況</p>	<p>環境保全措置の効果を表 8-2-3-14 に示す。環境保全措置を実施することで、地下水に係る環境影響が低減される。</p>	<p>環境保全措置の効果を表 8-2-3-14 に示す。環境保全措置を実施することで、地下水の<u>低下</u>に係る環境影響が低減される。</p>
<p>p 8-2-4-31 ア)環境保全措置の検討の状況</p>	<p>さらに、事業者により実行可能な範囲内でトンネルの工事及び鉄道施設（トンネル）の存在に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。</p>	<p>さらに、事業者により実行可能な範囲内でトンネルの工事及び鉄道施設（トンネル）の存在に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。</p> <p><u>検討にあたっては、「適切な構造及び工法の採用」、「薬液注入工法における指針の順守」を基本とした上で、さらに影響を低減させる措置を実施する。また、その結果を踏まえ、必要な場合には、損なわれる環境の有する価値を代償するための措置</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		を検討した。
<p>p 8-2-4-32 表 8-2-4-7 環境保全措置の検討の状況</p>	<p>—</p> <p>(適切な構造及び工法の採用、適否の理由) 工事の施工に先立ち、地質、地下水の調査を実施し、覆工コンクリート、防水シートの設置等を行うと共に、必要に応じて薬液注入工を実施するなどにより、地下水への影響を低減できることから環境保全措置として採用する。</p> <p>(代替水源の確保、適否の理由) 水量の不足など重要な水源の機能を確保できなくなった場合は、速やかにその他の水源を確保することで、水資源の利用への影響を代償できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>以下を追記 (環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、公共用水域への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p> <p>(適切な構造及び工法の採用、適否の理由) <u>本線トンネルについては、工事の施工に先立ち事前に先進ボーリング等、最先端の探査技術を用いて地質や地下水の状況を把握したうえで、必要に応じて薬液注入を実施することや、覆工コンクリート、防水シートを設置することにより、地下水への影響を低減できる。</u> <u>また、非常口(山岳部)についても、工事前から工事中にかけて河川流量や井戸の水位等の調査を行うとともに、掘削中は湧水量や地質の状況を慎重に確認し、浅層と深層の帯水層を貫く場合は水みちが生じないように必要に応じて薬液注入を実施するとともに、帯水層を通過し湧水量の多い箇所に対しては、覆工コンクリートや防水シートを設置し地下水の流入を抑えることなどにより、地下水への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p> <p>(代替水源の確保、適否の理由) <u>低減のための環境保全措置を実施した上で、水量の不足などやむを得ず重要な水源の機能を確保できなくなった場合は、代償措置として、水源の周辺地域において、速やかにその他の水源を確保することで、水資源の利用への影響を代償できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
<p>p 8-2-4-33 ①環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容</p>	<p>本事業では、トンネルの工事及び鉄道施設(トンネル)の存在による水資源に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「工事排水の適切な処理」、「工事排水の監視」、「処理設備の点検・整備による性能維持」、「適切な構造及び工法の採用」、「薬液注入工法における指針の順守」、「地下水等の監視」、</p>	<p>本事業では、トンネルの工事及び鉄道施設(トンネル)の存在による水資源に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「工事排水の適切な処理」、「工事排水の監視」、「処理設備の点検・整備による性能維持」、<u>「放流時の放流箇所及び水温の調整」</u>、「適切な構造及び工法の採用」、「薬液注入工法における指針の順守」、</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	「応急措置の体制整備」及び「代替水源の確保」を実施する。	「地下水等の監視」、「応急措置の体制整備」及び「代替水源の確保」を実施する。
p 8-2-4-34 表 8-2-4-8(5)環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 工事の施工に先立ち、地質、地下水の調査を実施し、覆工コンクリート、防水シートをの設置等を行うと共に、必要に応じて薬液注入工を実施することなどにより、地下水への影響を低減できる。	(環境保全措置の効果) <u>本線トンネルについては、工事の施工に先立ち事前に先進ボーリング等、最先端の探査技術を用いて地質や地下水の状況を把握したうえで、必要に応じて薬液注入を実施することや、覆工コンクリート、防水シートを設置することにより、地下水への影響を低減できる。</u> また、非常口（山岳部）についても、 <u>工事前から工事中にかけて河川流量や井戸の水位等の調査を行うとともに、掘削中は湧水量や地質の状況を慎重に確認し、浅層と深層の帯水層を貫く場合は水みちが生じないように必要に応じて薬液注入を実施するとともに、帯水層を通過し湧水量の多い箇所に対しては、覆工コンクリートや防水シートを設置し地下水の流入を抑えることなどにより、地下水への影響を低減できる。</u>
p 8-2-4-35 表 8-2-4-8(9)環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 他の環境保全措置を実施した上で、水量の不足等重要な水源の機能を確保できなくなった場合は、代償措置として、水源の周辺地域において、その他の水源を確保することで、水資源の利用への影響を代償できる。なお、本措置については、他のトンネル工事においても実績があることから確実な効果が見込まれる。	(環境保全措置の効果) <u>低減のための環境保全措置を実施した上で、水量の不足などやむを得ず重要な水源の機能を確保できなくなった場合は、代償措置として、水源の周辺地域において、速やかにその他の水源を確保することで、水資源の利用への影響を代償できる。</u> なお、本措置については、他のトンネル工事においても実績があることから確実な効果が見込まれる。
p 8-2-4-35 7) 事後調査を行うこととした理由	地下水の水位については、地質等調査の結果を踏まえ水文地質的に検討を行い予測しているが、 <u>破碎帯を通過する地域及び洪積層の浅層部を通過する地域については、状況によって工事中に集中的な湧水が発生する可能性があり、一部の水道水源等に与える影響の予測に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u>	地下水の水位については、地質等調査の結果を踏まえ水文地質的に検討を行い、 <u>予測しているが、本線トンネル及び非常口（山岳部）において、破碎帯を通過する地域及び洪積層の浅層部を通過する地域については、状況によって工事中に集中的な湧水が発生する可能性があり、一部の水道水源等に与える影響の予測に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u>
p 8-2-4-36 8-2-4-9(1)事後調査の内容	(地下水の水位、調査内容) 1. 井戸の利用状況等（井戸の形式、使用量、標高等） ○調査期間 ・工事着手前 ○調査地域・地点 ・予測検討範囲及びその周囲の個人井戸を中心とした水源 ○調査方法 ・聞き取り調査等	(地下水の水位、調査内容) 1. 井戸の利用状況等（井戸の形式、使用量、標高等） ○調査期間 ・工事着手前 ○調査地域・地点 ・予測検討範囲及びその周囲の個人井戸を中心とした水源 ○調査方法 ・聞き取り調査等

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>2. 地下水の水位、水温、pH、電気伝導率、透視度</p> <p>○調査期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事着手前：トンネル工事前の1年間、月1回の観測を考えている。 ・工事中：月1回の観測を基本とすることを考えている。 ・工事完了後：トンネルの工事完了後3年間、4季の観測を基本とすることを考えている。なお、状況に応じて調査期間は別途検討する。 <p>○調査地域・地点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測検討範囲内で、準備書における文献調査及び現地調査で把握した既存の井戸及び湧水等から調査地点を検討する。 ・予測検討範囲内で、上記「井戸の利用状況等」の調査を踏まえ、井戸の分布状況、標高、地形や地質、トンネルとの位置関係等を考慮の上、一定の集落の単位で調査地点を検討する。 ・地域の意見を踏まえ、必要に応じて予測検討範囲の周囲についても調査地点を検討する。 ・自治体からの調査の要請のあった井戸についても検討する。 <p>○調査方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地下水調査および観測指針（案）」（平成5年、建設省河川局）に準拠する。 	<p>2. 地下水の水位、水温、pH、電気伝導率、透視度</p> <p>○調査期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事着手前：トンネル工事前の1年間、月1回の観測を考えている。 ・工事中：月1回の観測を基本とすることを考えている。 ・工事完了後：トンネルの工事完了後3年間、4季の観測を基本とすることを考えている。なお、状況に応じて調査期間は別途検討する。 <p>○調査地域・地点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>非常口（山岳部）も含む</u>予測検討範囲内で、準備書における文献調査及び現地調査で把握した既存の井戸及び湧水等から調査地点を検討する。 ・<u>非常口（山岳部）も含む</u>予測検討範囲内で、上記「井戸の利用状況等」の調査を踏まえ、井戸の分布状況、標高、地形や地質、トンネルとの位置関係等を考慮の上、一定の集落の単位で調査地点を検討する。 ・<u>断層や破砕帯の性状や連続性、及び地域の意見を踏まえ、必要に応じて</u>予測検討範囲の周囲についても調査地点を検討する。 ・自治体からの調査の要請のあった井戸についても検討する。 <p>○調査方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地下水調査および観測指針（案）」（平成5年、建設省河川局）に準拠する。
<p>p 8-2-4-37 表 8-2-4-9(2) 事後調査の内容</p>	<p>(調査内容)</p> <p>1. 河川の流量、水温、pH、電気伝導率</p> <p>○調査期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事着手前：トンネル工事前の1年間、月1回の観測を考えている。 ・工事中：月1回の観測を基本とすることを考えている。 ・工事完了後：トンネルの工事完了後3年間、4季の観測を基本とすることを考えている。なお、状況に応じて調査期間は別途検討する。 <p>○調査地域・地点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事着手前：予測検討範囲内で、トンネル計画路線周辺の主な河川を対象にその流域の下流地点等から調査地点を検討する。 ・工事中：工事着手前の調査地点を基本とし、工事の進捗状況等を踏まえ必要に応じて調査地点を増減させることを考えている。 ・工事完了後：トンネルの工事中の調査地点を基本とし、状況を踏まえて必要に 	<p>(調査内容)</p> <p>1. 河川の流量、水温、pH、電気伝導率</p> <p>○調査期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事着手前：トンネル工事前の1年間、月1回の観測を考えている。 ・工事中：月1回の観測を基本とすることを考えている。 ・工事完了後：トンネルの工事完了後3年間、4季の観測を基本とすることを考えている。なお、状況に応じて調査期間は別途検討する。 <p>○調査地域・地点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事着手前：<u>断層や破砕帯の性状や連続性も考慮の上、非常口（山岳部）も含む</u>予測検討範囲内で、トンネル計画路線周辺の主な河川を対象にその流域の下流地点等から調査地点を検討する。 ・工事中：工事着手前の調査地点を基本とし、工事の進捗状況等を踏まえ必要に応じて調査地点を増減させることを考えている。 ・工事完了後：トンネルの工事中の調査地点を基本とし、状況を踏まえて必要に

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>応じて調査地点を増減させることを考えている。</p> <p>○調査方法</p> <p>・「水質調査方法」（昭和46年環水管30号）に準拠する。</p>	<p>て調査地点を増減させることを考えている。</p> <p>○調査方法</p> <p>・「水質調査方法」（昭和46年環水管30号）に準拠する。</p> <p>※なお、河川における調査については、<u>定常的なものと考えられる流水等が新たに確認された場合はその流量等の把握を行った上で、水系ごとに、流量の少ない源流部や支流部を含めて複数の地点を定める。</u></p> <p>注の追記</p> <p>※河川の流量の測定にあたっては、<u>専門家等の助言を踏まえて計測地点や計測頻度に係る計画を策定のうえで、実施する。</u></p>
p 8-2-4-40 表 8-2-4-10 環境保全措置の検討の状況	<p>（下水道への排水、適否の理由）</p> <p>下水道の利用が可能な地域では、処理した上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>（下水道への排水、適否の理由）</p> <p>下水道の利用が可能な地域では、<u>下水道の管理者と協議して処理方法を確定し、処理した上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる</u>ことから、環境保全措置として採用する。</p>
p 8-2-4-41 表 8-2-4-11 (3) 環境保全措置の内容	<p>（環境保全措置の効果）</p> <p>下水道の利用が可能な地域では、処理をした上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。</p>	<p>（環境保全措置の効果）</p> <p>下水道の利用が可能な地域では、<u>下水道の管理者と協議して処理方法を確定し、処理をした上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。</u></p>
p 8-3-2-2 わ) 予測結果	<p>トンネル区間の地質は、「第4章 図4-2-1-13」に示すとおりであり、岩盤部では、地山が安定しているため地盤沈下が生じることはないと予測する。未固結層部及び土被りが小さい区間等で地山が緩むおそれのある箇所では、地質の状況に応じて適切な補助工法を採用し、地山の安定を確保するため、地盤沈下が生じることはないと予測する。</p>	<p>トンネル区間の地質は、「第4章 図4-2-1-13」に示すとおりであり、岩盤部では、地山が安定しているため地盤沈下が生じることはないと予測する。未固結層部及び土被りが小さい区間等で地山が緩むおそれのある箇所では、地質の状況に応じて適切な補助工法を採用し、地山の安定を確保するため、<u>地盤沈下は小さいと予測する。</u></p>
p 8-3-2-3 ア) 事後調査を行うこととした理由	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が蓄積されていると判断でき予測の不確実性の程度が小さいこと、また採用した環境保全措置についても効果に係る知見が蓄積されていると判断できることから、環境影響評価法に基づく事後調査はしない。</p>	<p>ア) 事後調査を行うこととした理由</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が蓄積されていると判断でき予測の不確実性の程度が小さいこと、また採用した環境保全措置についても効果に係る知見が蓄積されている。しかしながら、<u>トンネル（山岳部）の土被りが小さく、地質的に未固結である区間においては、地表面の沈下量の予測に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u></p>
p 8-3-2-3 イ) 事後調査の項目及び手法	—	追記
p 8-3-2-4 ウ) 事後調査の結果により環境影響の程度が著	—	追記

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
しいことが判明した場合の対応の方針		
p 8-3-2-4 イ) 事後調査の結果の公表方法	—	追記
p 8-3-3-16 表 8-3-3-6 環境保全措置の検討の状況	<p>(発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底、適否の理由)</p> <p>発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壤汚染を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>(発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底、適否の理由)</p> <p>発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壤汚染を回避できることから、環境保全措置として採用する。</p>
	—	<p>以下を追記</p> <p>(環境保全措置)</p> <p><u>仮置場における掘削土砂の適切な管理</u></p> <p>(実施の適否)</p> <p><u>適</u></p> <p>(適否の理由)</p> <p><u>掘削土砂の仮置場に屋根、側溝、シート覆いを設置する等の管理を行うことで、重金属等の有無を確認するまでの間の雨水等による重金属等の流出を防止し、土壤汚染を回避できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
	—	<p>以下を追記</p> <p>(環境保全措置)</p> <p><u>工事排水の適切な処理</u></p> <p>(実施の適否)</p> <p><u>適</u></p> <p>(適否の理由)</p> <p><u>工事排水について、処理施設により法令に基づく排水基準等を踏まえ、水質の改善を図るための処理をしたうえで排水することで、土壤汚染を回避できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
p 8-3-3-17 イ) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	<p>本事業では、切土工等又は既存の工作物の除去による土壤汚染に係る環境影響を回避又は低減させるため、環境保全措置として「有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理」、「薬液注入工法における指針の順守」及び「発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底」を実施する。</p>	<p>本事業では、切土工等又は既存の工作物の除去による土壤汚染に係る環境影響を回避又は低減させるため、環境保全措置として「有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理」、「薬液注入工法における指針の順守」、「発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底」、「<u>仮置場における掘削土砂の適切な管理</u>」及び「<u>工事排水の適切な処理</u>」を実施する。</p>
p 8-3-3-17 表 8-3-3-7 (3) 環境保全措置の内容	<p>(環境保全措置の効果)</p> <p>発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情</p>	<p>(環境保全措置の効果)</p> <p>発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	報提供を徹底することで、二次的な土壤汚染を回避又は低減できる。	供を徹底することで、二次的な土壤汚染を回避できる。
p 8-3-3-18 表 8-3-3-7(4)環境保全措置の内容	—	追記
p 8-3-3-18 表 8-3-3-7(5)環境保全措置の内容	—	追記
p 8-3-3-19 a)回避又は低減に係る評価	本事業では、「有害物質の有無の確認と汚染土壤の適切な処理」、「薬液注入工法における指針の順守」及び「発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底」の環境保全措置を確実に実施することから、切土工等又は既存の工作物の除去に伴う土壤汚染に係る環境影響を回避できるものと評価する。	本事業では、「有害物質の有無の確認と汚染土壤の適切な処理」、「薬液注入工法における指針の順守」、「発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底」、「 <u>仮置場における掘削土砂の適切な管理</u> 」及び「 <u>工事排水の適切な処理</u> 」の環境保全措置を確実に実施することから、切土工等又は既存の工作物の除去に伴う土壤汚染に係る環境影響を回避できるものと評価する。
p 8-3-3-21 表 8-3-3-8 環境保全措置の検討の状況	(発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底、適否の理由) 発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壤汚染を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。	(発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底、適否の理由) 発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壤汚染を回避できることから、環境保全措置として採用する。
p 8-3-3-23 表 8-3-3-9(5)環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壤汚染を回避又は低減できる。	(環境保全措置の効果) 発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壤汚染を回避できる。
p 8-3-6-21 表 8-3-6-4 環境保全措置の検討の状況	(環境保全措置) 遺跡の発見に関する届出(「文化財保護法」(昭和25年5月30日法律第214号、最終改正:平成23年5月2日法律第27号))及び関係機関との協議、対処	(環境保全措置) 遺跡の発見に関する届出(「文化財保護法」(昭和25年5月30日法律第214号、最終改正:平成23年5月2日法律第37号))及び関係機関との協議、対処
p 8-4-1-12 表 8-4-1-4(1)調査期間	(哺乳類、調査手法) 任意確認、夜間撮影 捕獲調査(ネズミ類) 捕獲調査(カワネズミ) 捕獲調査(モグラ類)	(哺乳類、調査手法) 任意確認(フィールドサイン法)、 夜間撮影(1晩設置) 捕獲調査(ネズミ類) (2晩設置) 捕獲調査(カワネズミ) (2晩設置) 捕獲調査(モグラ類)

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>捕獲調査（コウモリ類）</p> <p>捕獲調査（ヤマネ）</p> <p>—</p>	<p><u>（2 晩設置）</u></p> <p>捕獲調査（コウモリ類） <u>（日没前後から 3～4 時間）</u></p> <p>捕獲調査（ヤマネ） <u>（巣箱は 1 年間設置）</u></p> <p><u>注 1. 哺乳類の任意調査は日中に行った。</u></p>
p 8-4-1-13 表 8-4-1-4(2) 調査期間	<p>（鳥類、調査手法） 任意確認 （春季、繁殖期、冬季は夜間調査も実施）</p> <p>ラインセンサス法、 ポイントセンサス法</p> <p>（爬虫類、調査手法） 任意確認</p> <p>—</p>	<p>（鳥類、調査手法） 任意確認 （春季、繁殖期、冬季は日没後 2～3 時間の夜間調査も実施）</p> <p>ラインセンサス法、 ポイントセンサス法 <u>（早朝に実施）</u></p> <p>（爬虫類、調査手法） 任意確認 <u>（春季、夏季は日没後 2～3 時間の夜間調査も実施）</u></p> <p><u>注 1. 猛禽類の定点観察法、鳥類、爬虫類の任意調査は日中に行った。</u></p>
p 8-4-1-14 表 8-4-1-4(3) 調査期間	<p>（両生類、調査手法） 任意確認</p> <p>（昆虫類、調査手法） 任意採集 ライトトラップ法</p> <p>ベイトトラップ法</p> <p>—</p>	<p>（両生類、調査手法） 任意確認 <u>（春季、夏季は日没後 2～3 時間の夜間調査も実施）</u></p> <p>（昆虫類、調査手法） 任意採集 ライトトラップ法 <u>（ボックス法は 1 晩設置、カーテン法は日没後 2～3 時間）</u></p> <p>ベイトトラップ法 <u>（1 晩設置）</u></p> <p><u>注 1. 両生類、昆虫類、魚類、底生動物、陸産貝類の任意調査は日中に行った。</u></p>
p 8-4-1-19 イ) 重要な鳥類の分布、 生息状況及び生息環境 の状況	<p>文献調査及び現地調査により確認された重要な鳥類は 17 目 31 科 56 種であった（「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照）。文献及び現地で確認された重要な鳥類とその選定基準を表 8-4-1-10 に示す。</p>	<p>文献調査及び現地調査により確認された重要な鳥類は 15 目 28 科 49 種であった（「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照）。文献及び現地で確認された重要な鳥類とその選定基準を表 8-4-1-10 に示す。</p>
p 8-4-1-19 表 8-4-1-10(1) 重要な 鳥類確認種一覧	<p>（種名） マガン アカオネッタイチョウ シロハラミズナギドリ オオヨシゴイ セイタカシギ ハマシギ</p>	<p>削除</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	オオワシ	
p 8-4-1-20 表 8-4-1-10(2) 重要な鳥類確認種一覧	(計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 17 目、31 科、56 種、56 種、34 種、2 種、5 種、0 種、0 種、0 種、23 種、32 種、37 種、23 種、0 種)	(計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) <u>15</u> 目、 <u>28</u> 科、 <u>49</u> 種、 <u>49</u> 種、34 種、 <u>0</u> 種、 <u>4</u> 種、0 種、0 種、0 種、23 種、 <u>25</u> 種、37 種、23 種、0 種)
p 8-4-1-23 表 8-4-1-13 重要な爬虫類確認種一覧	表 8-4-1-13 爬虫類現地調査結果の概要	表 8-4-1-13 <u>重要な爬虫類確認種一覧</u>
p 8-4-1-25 イ) 重要な両生類の分布、生息状況及び生息環境の状況	文献調査及び現地調査により確認された重要な両生類は 2 目 5 科 10 種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。文献及び現地で確認された重要な両生類とその選定基準を表 8-4-1-16 に示す。	文献調査及び現地調査により確認された重要な両生類は 2 目 5 科 <u>9</u> 種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。文献及び現地で確認された重要な両生類とその選定基準を表 8-4-1-16 に示す。
p 8-4-1-25 表 8-4-1-16 重要な両生類確認種一覧	(種名) ブチサンショウウオ	削除
	(計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 2 目、5 科、10 種、10 種、5 種、1 種、0 種、0 種、0 種、0 種、0 種、7 種、7 種、0 種、0 種)	(計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 2 目、5 科、 <u>9</u> 種、 <u>9</u> 種、5 種、1 種、0 種、0 種、0 種、0 種、 <u>6</u> 種、7 種、0 種、0 種)
p 8-4-1-27 イ) 重要な昆虫類の分布、生息状況及び生息環境の状況	文献調査及び現地調査により確認された重要な昆虫類は 8 目 40 科 90 種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。文献及び現地で確認された重要な昆虫類とその選定基準を表 8-4-1-19 に示す。	文献調査及び現地調査により確認された重要な昆虫類は 8 目 40 科 <u>88</u> 種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。文献及び現地で確認された重要な昆虫類とその選定基準を表 8-4-1-19 に示す。
p 8-4-1-29 表 8-4-1-19(2) 重要な昆虫類確認種一覧	(種名) ゴマシジミ ヒョウモンモドキ	削除
	(計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 8 目、40 科、90 種、69 種、41 種、0 種、1 種、0 種、0 種、0 種、11 種、72 種、40 種、11 種、0 種)	(計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 8 目、40 科、 <u>88</u> 種、 <u>67</u> 種、41 種、0 種、 <u>0</u> 種、0 種、0 種、0 種、11 種、 <u>70</u> 種、 <u>38</u> 種、11 種、0 種)
p 8-4-1-33 イ) 重要な魚類の分布、生息状況及び生息環境の状況	文献調査及び現地調査において 8 目 11 科 26 種の魚類が確認された(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。現地調査結果の概要を表 8-4-1-22 に示す。	文献調査及び現地調査により確認された重要な魚類は 8 目 11 科 <u>25</u> 種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。 <u>文献及び現地で確認された重要な魚類とその選定基準</u> を表 8-4-1-22 に示す。
p 8-4-1-33 表 8-4-1-22 重要な魚類確認種一覧	(種名) ヒメマス	削除
	(計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩)	(計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩)

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	⑩) 8目、11科、26種、26種、9種、2種、1種、0種、0種、0種、7種、21種、15種、7種、0種)	8目、11科、 <u>25</u> 種、 <u>25</u> 種、9種、2種、1種、0種、0種、0種、7種、 <u>20</u> 種、 <u>16</u> 種、7種、0種)
p 8-4-1-36 イ)重要な底生動物の分布、生息状況及び生息環境の状況	文献調査及び現地調査により確認された重要な底生動物は5目6科9種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。文献及び現地で確認された重要な底生動物とその選定基準を表8-4-1-25に示す。	文献調査及び現地調査により確認された重要な底生動物は5目6科 <u>8</u> 種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。文献及び現地で確認された重要な底生動物とその選定基準を表8-4-1-25に示す。
p 8-4-1-36 表8-4-1-25 重要な底生動物確認種一覧	(種名) カラスガイ (計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 5目、6科、9種、8種、2種、0種、0種、0種、0種、0種、2種、8種、5種、2種、0種)	削除 (計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 5目、6科、 <u>8</u> 種、 <u>7</u> 種、2種、0種、0種、0種、0種、0種、2種、 <u>7</u> 種、5種、2種、0種)
p 8-4-1-39 イ)重要な陸産貝類の分布、生息状況及び生息環境の状況	文献調査及び現地調査により確認された重要な陸産貝類は1目6科22種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。文献及び現地で確認された重要な陸産貝類とその選定基準を表8-4-1-28に示す。	文献調査及び現地調査により確認された重要な陸産貝類は1目6科 <u>20</u> 種であった(「資料編 14-1 文献調査結果」及び「資料編 14-2 動物出現種リスト」参照)。文献及び現地で確認された重要な陸産貝類とその選定基準を表8-4-1-28に示す。
p 8-4-1-39 表8-4-1-28 重要な陸産貝類確認種一覧	(種名) ミヤマヒダリマキマイマイ (計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 1目、6科、22種、11種、12種、0種、0種、0種、0種、0種、21種、11種、0種、0種)	削除 (計、目名、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩) 1目、6科、 <u>20</u> 種、 <u>10</u> 種、12種、0種、0種、0種、0種、0種、 <u>20</u> 種、11種、0種、0種)
p 8-4-1-43 表8-4-1-30(1) 予測対象種の選定結果	(鳥類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(22種)、 マガン、トモエガモ、アカハジロ、アカオネツタイチョウ、シロハラミズナギドリ、ヨシゴイ、オオヨシゴイ、セイタカシギ、ハマシギ、タマシギ、コアジサシ、オオワシ、チュウヒ、オオコノハズク、コノハズク、ブッポウソウ、チゴモズ、アカモズ、キバシリ、マミジロ、ホオアカ、ノジコ	(鳥類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(<u>15</u> 種)、 トモエガモ、アカハジロ、ヨシゴイ、タマシギ、コアジサシ、チュウヒ、オオコノハズク、コノハズク、ブッポウソウ、チゴモズ、アカモズ、キバシリ、マミジロ、ホオアカ、ノジコ
	(両生類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(5種)、	(両生類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(<u>4</u> 種)、

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>ブチサンショウウオ、オオサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ナガレタゴガエル、モリアオガエル</p>	<p>オオサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ナガレタゴガエル、モリアオガエル</p>
<p>p 8-4-1-44 表 8-4-1-30(2) 予測対象種の選定結果</p>	<p>(昆虫類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (50 種)、 ホンサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ネアカヨシヤンマ、マルタンヤンマ、トラフトンボ、キイロヤマトンボ、ハネビロエゾトンボ、マイコアカネ、ウスバカマキリ、タガメ、トゲナベブタムシ、セアカオサムシ、イグチケブカゴミムシ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、ミズスマシ、ヤマトホソガムシ、シジミガムシ、コクロオバボタル、ウマノオバチ、ニッポンハナダカバチ、ナミルリモンハナバチ、ホシチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ、チャマダラセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、ヘリグロチャバネセセリ、ミヤマカラスアゲハ、ミヤマシジミ、ミドリシジミ、クロシジミ、ヒメシジミ本州・九州亜種、フジミドリシジミ、ウラキンシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ヒョウモンモドキ、ヒメヒカゲ本州中部亜種、キマダラモドキ、クロヒカゲモドキ、オオヒカゲ、ウラナミジャノメ本土亜種、オナガミズアオ、スゲドクガ、ウスズミケンモン、ウスミミモンキリガ、ミスジキリガ、ギンモンアカヨトウ、コシロシタバ</p> <p>※ヒメヒカゲ本州中部亜種は生態系調査で確認された。</p>	<p>(昆虫類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (48 種)、 ホンサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ネアカヨシヤンマ、マルタンヤンマ、トラフトンボ、キイロヤマトンボ、ハネビロエゾトンボ、マイコアカネ、ウスバカマキリ、タガメ、トゲナベブタムシ、セアカオサムシ、イグチケブカゴミムシ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、ミズスマシ、ヤマトホソガムシ、シジミガムシ、コクロオバボタル、ウマノオバチ、ニッポンハナダカバチ、ナミルリモンハナバチ、ホシチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ、チャマダラセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、ヘリグロチャバネセセリ、ミヤマカラスアゲハ、ミヤマシジミ、ミドリシジミ、クロシジミ、ヒメシジミ本州・九州亜種、フジミドリシジミ、ウラキンシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ヒメヒカゲ本州中部亜種、キマダラモドキ、クロヒカゲモドキ、オオヒカゲ、ウラナミジャノメ本土亜種、オナガミズアオ、スゲドクガ、ウスズミケンモン、ウスミミモンキリガ、ミスジキリガ、ギンモンアカヨトウ、コシロシタバ</p> <p>※ヒメヒカゲ本州中部亜種は生態系調査で確認された。</p>
<p>p 8-4-1-45 表 8-4-1-30(3) 予測対象種の選定結果</p>	<p>(魚類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (17 種) スナヤツメ類、ニホンウナギ、ヤリタナゴ、イチモンジタナゴ、イタセンバラ、シロヒレタビラ、ヌマムツ、カワヒガイ、ゼゼラ、ツチフキ、スジシマドジョウ類、ネコギギ、ヒメマス、カマキリ、カジカ類、オオヨシノボリ、トウカイヨシノボリ</p> <p>(底生動物、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認さ</p>	<p>(魚類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (16 種)、 スナヤツメ類、ニホンウナギ、ヤリタナゴ、イチモンジタナゴ、イタセンバラ、シロヒレタビラ、ヌマムツ、カワヒガイ、ゼゼラ、ツチフキ、スジシマドジョウ類、ネコギギ、カマキリ、カジカ類、オオヨシノボリ、トウカイヨシノボリ</p> <p>(底生動物、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認さ</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>れなかった種 (7種) マルタニシ、オオタニシ、クロダカワニナ、モノアラガイ、カラスガイ、イシガイ、マシジミ</p> <p>(陸産貝類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (10種) オオギセル、オクガタギセル、トノサマガセル、ミドリベッコウ、エナクリイロベッコウ、ケハダビロウドマイマイ、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ、コガネマイマイ (オカノマイマイ)、ミヤマヒダリマキマイマイ</p>	<p>なかった種 (6種) マルタニシ、オオタニシ、クロダカワニナ、モノアラガイ、イシガイ、マシジミ</p> <p>(陸産貝類、区分、種名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (9種) オオギセル、オクガタギセル、トノサマガセル、ミドリベッコウ、エナクリイロベッコウ、ケハダビロウドマイマイ、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ、コガネマイマイ (オカノマイマイ)</p>
<p>p 8-4-1-55 表 8-4-1-33(3) 重要な鳥類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された 5 地点 (10 例) は改変の可能性のある範囲であった。そのため、工事の実施により中津川市千旦林地区の 1 地点 (3 例)、可児市久々利地区の 3 地点 (6 例)、可児市大森地区の 1 地点 (1 例) は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在) ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。</p>	<p>(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された 5 地点 (10 例) は改変の可能性のある範囲であった。そのため、工事の実施により中津川市千旦林地区の 1 地点 (3 例)、可児市久々利地区の 3 地点 (6 例)、可児市大森地区の 1 地点 (1 例) は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在) ・<u>鉄道施設 (トンネル) の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>p 8-4-1-58 表 8-4-1-33(7) 重要な鳥類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された3地点(3例)は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された3地点(3例)は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・さらに、<u>工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。</u> ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-1-60 表 8-4-1-33(10) 重要な鳥類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点(1例)は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により多治見市西山町・大針町地区の1地点(1例)は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点(1例)は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により多治見市西山町・大針町地区の1地点(1例)は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>することにより、生息環境への影響は及ばない。</p> <p>・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p>
<p>p 8-4-1-78 表 8-4-1-35(1) 重要な両生類の予測結果</p>	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。</p>	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u></p> <p>・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>(一般生態)</p> <p>近畿、中部地方南部、四国、九州(北西部除く)に分布する。主に標高 300m の低山地から標高 1,000m の高地まで生息し、和歌山県沿岸部では標高 100m 以下にも生息する。生息場所は河川の源流域や源流から分岐する枝沢周辺の森林内の林床で、日中は落ち葉の下や柔らかい土中に潜み、夜間に林床を徘徊する。</p> <p>繁殖期は 4 月から 6 月。産卵期前に成体は溪流に移動する。産卵は溪流の岩の下や石の下、伏流水の中で行い、コイル状の卵のう 1 対を石などに付着させる。小型の無脊椎動物などを捕食する。流水性のサンショウウオ。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>近畿、中部地方南部、四国、九州(北西部除く)に分布する。主に標高 300m の低山地から標高 1,000m の高地まで生息し、和歌山県沿岸部では標高 100m 以下にも生息する。生息場所は河川の源流域や源流から分岐する枝沢周辺の森林内の林床で、日中は落ち葉の下や柔らかい土中に潜み、夜間に林床を徘徊する。</p> <p>繁殖期は 4 月から 6 月。産卵期前に成体は溪流に移動する。産卵は溪流の岩の下や石の下、伏流水の中で行い、コイル状の卵のう 1 対を石などに付着させる。小型の無脊椎動物などを捕食する。流水性のサンショウウオ。</p> <p><u>なお、本種の行動圏は十分に知られていないが、徳江ら (2011) ⁽¹⁾によると、小型サンショウウオであるトウキョウサンショウウオは最大 100m かそれ以上、また樹林地際から産卵場所までの距離は平均 50m 超で最大 130m である。</u></p>
	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された 2 地点は改変の可能性のある範囲であった。</p> <p>そのため、工事の実施により可児市久々利地区の 2 地点は、主な生息環境の一部が消失・縮小する可能性がある。</p> <p>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。</p> <p>・工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。</p> <p>・したがって、生息環境の一部は保全さ</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された 2 地点は改変の可能性のある範囲であった。</p> <p>そのため、工事の実施により可児市久々利地区の 2 地点は、主な生息環境の一部が消失・縮小する可能性がある。</p> <p>・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u></p> <p>・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>れない可能性があるとして予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は<u>保全される</u>と予測する。
p 8-4-1-78 脚注	—	⁽¹⁾ 徳江義宏・大沢啓志・今村史子 (2011) <u>都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動分散の距離に関する考察</u> . 日本緑化工学会誌, 37(1): 203-206.
p 8-4-1-79 表 8-4-1-35(2) 重要な両生類の予測結果	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は<u>保全される</u>と予測する。

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>p 8-4-1-80 表 8-4-1-35(3) 重要な両生類の予測結果</p>	<p>(一般生態) 本州、四国、九州などに分布する。池・水田・湿地などの水中に多い。林道の側溝などでも見られる。基本的に流れのある川には生息しないが、大きな川でも川岸のたまり水で見ることがある。 春から初夏にかけて、水中の草、枯れ葉などに1卵ずつ産卵する。粘着性のある卵を葉の間に産卵、付着させる。ふ化した幼生はバランサーをもっている。非常に貪食で、動物質なら種類は選ばず食する。</p> <p>(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在) ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。</p>	<p>(一般生態) 本州、四国、九州などに分布する。池・水田・湿地などの水中に多い。林道の側溝などでも見られる。基本的に流れのある川には生息しないが、大きな川でも川岸のたまり水で見ることがある。 春から初夏にかけて、水中の草、枯れ葉などに1卵ずつ産卵する。粘着性のある卵を葉の間に産卵、付着させる。ふ化した幼生はバランサーをもっている。非常に貪食で、動物質なら種類は選ばず食する。 <u>なお、竹内ら(2008)⁽²⁾によると、再捕獲した41個体の平均移動距離は17.23mである。また、小林ら(2009)⁽³⁾によると、再捕獲した個体の内、最も遠くまで移動したものは45mである。</u></p> <p>(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 <u>・また、トンネルの工事により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるもの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在) <u>・鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるもの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p>
<p>p 8-4-1-80 脚注</p>	<p>—</p>	<p>⁽²⁾ 竹内将俊・岡野 紹・関口周一・飯嶋一造(2008) 神奈川県秦野市内の一部谷戸水域におけるアカハライモリの生息数. 神</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>奈川自然史資料, 29: 91-93. <u>(3)小林朋道(2009) アカハライモリの幼体および成体の陸上での分布の状況. 自然環境科学研究 Vol. 22, 33-38.</u></p>
<p>p 8-4-1-81 表 8-4-1-35(4)重要な両生類の予測結果</p>	<p>(一般生態) 本州(関東平野、仙台平野を除く)、四国、九州、北海道の一部(人為移入)に分布する。池や湿地、沼、河川、水田で見られる。通常繁殖期は4月から6月である。同所に分布するダルマガエルやトウキョウダルマガエルとの分布境界部では、それぞれ本種との雑種が見つかったりしている。</p> <p>(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された36地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の5地点、中津川市千旦林地区の14地点、中津川市茄子川地区の1地点、恵那市大井町・長島町地区の2地点、恵那市武並町藤地区の4地点、可児市大森地区の3地点、多治見市西山町・大針町地区の7地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在) ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。</p>	<p>(一般生態) 本州(関東平野、仙台平野を除く)、四国、九州、北海道の一部(人為移入)に分布する。池や湿地、沼、河川、水田で見られる。通常繁殖期は4月から6月である。同所に分布するダルマガエルやトウキョウダルマガエルとの分布境界部では、それぞれ本種との雑種が見つかったりしている。 <u>なお、本種の行動圏は十分に知られていないが、戸金ら(2010)⁽⁴⁾によると、近縁のトウキョウダルマガエルでは平均85.5m、最大175.8mの移動距離が報告されている。</u></p> <p>(予測結果、工事の実施) 本種が確認された35地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の5地点、中津川市千旦林地区の14地点、中津川市茄子川地区の1地点、恵那市大井町・長島町地区の2地点、恵那市武並町藤地区の4地点、可児市大森地区の3地点、多治見市西山町・大針町地区の7地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 <u>・また、トンネルの工事により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在) <u>・鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>設の存在による生息環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生息環境は<u>保全される</u>と予測する。</p>
<p>p 8-4-1-81 脚注</p>	<p>—</p>	<p>⁽⁴⁾ 戸金大・福山欣司・倉本宣 (2010) <u>テレメトリー法を用いたトウキョウダルマガエルの谷戸田における移動追跡</u>、爬虫両棲類学会報(1):1-10.</p>
<p>p 8-4-1-82 表 8-4-1-35(5)重要な両生類の予測結果</p>	<p>(一般生態) 本州、四国、九州などに分布。本州中部の一部には分布しない地域がある。平地や丘陵地の水田や湿地、林床などに生息し、山間部には少ない。繁殖は地域により差があるが1月から5月に行われる。水田を産卵場所にすることが多い。平地で普通に見られる黒褐色から赤茶色の中型のカエル。本州のカエルでは産卵が一番早くはじまり、12月から産卵する地域もある。冬季に繁殖に出てきた個体は、産卵終了後、休眠に入る。</p>	<p>(一般生態) 本州、四国、九州などに分布。本州中部の一部には分布しない地域がある。平地や丘陵地の水田や湿地、林床などに生息し、山間部には少ない。繁殖は地域により差があるが1月から5月に行われる。水田を産卵場所にすることが多い。平地でふつうに見られる黒褐色から赤茶色の中型のカエル。本州のカエルでは産卵が一番早くはじまり、12月から産卵する地域もある。冬季に繁殖に出てきた個体は、産卵終了後、休眠に入る。</p> <p><u>なお、大澤ら (2001) ⁽⁵⁾によると、本種の移動距離は、平均 113～145m で最大 469m である。</u></p>
	<p>(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された7地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の1地点、中津川市千旦林地区の2地点、中津川市茄子川地区の2地点、可児市大森地区の2地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p>	<p>(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された7地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の1地点、中津川市千旦林地区の2地点、中津川市茄子川地区の2地点、可児市大森地区の2地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 <u>・また、トンネルの工事により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在) ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。</p>	<p>(予測結果、鉄道施設の存在) <u>・鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p><u>種の生息環境への影響は小さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
p 8-4-1-82 脚注	—	<p>⁽⁵⁾ 大澤啓志・勝野武彦 (2001) . 多摩丘陵におけるアカガエル類の樹林内分散. Current Herpetology 20(1):1-10.</p>
p 8-4-1-83 表 8-4-1-36(1)重要な昆虫類の予測結果	<p>(一般生態) 宮城県以南の本州、四国、九州、南西諸島や壱岐、五島列島等の離島に分布する。平地の挺水植物が繁茂する池沼や湿地の滞水、水郷の溝、水田などに生息し、しばしば海岸の汽水沼でも見られる。成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。成虫は東海地方では4月下旬から出現、10月中旬頃まで見られる。</p> <p>(予測結果、工事の実施) <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 </p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在) <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 </p>	<p>(一般生態) 宮城県以南の本州、四国、九州などに分布。本州中部の一部には分布しない地域がある。平地や丘陵地の水田や湿地、林床などに生息し、山間部には少ない。繁殖は地域により差があるが1月から5月に行われる。水田を産卵場所にすることが多い。平地でふつうに見られる黒褐色から赤茶色の中型のカエル。本州のカエルでは産卵が一番早くはじまり、12月から産卵する地域もある。冬季に繁殖に出てきた個体は、産卵終了後、休眠に入る。 なお、大澤ら (2001) ()によると、本種の移動距離は、平均 113~145m で最大 469m である。</p> <p>(予測結果、工事の実施) <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 </p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在) <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 </p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生息環境は<u>保全される</u>と予測する。
<p>p 8-4-1-84 表 8-4-1-36(2) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により恵那市武並町藤地区の 1 地点は、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により恵那市武並町藤地区の 1 地点は、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は<u>保全される</u>と予測する。
<p>p 8-4-1-85 表 8-4-1-36(3) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 7 地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 7 地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ば

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-1-86 表 8-4-1-36(5) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された3地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の2地点、中津川市千旦林地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された3地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の2地点、中津川市千旦林地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-1-87 表 8-4-1-36(7) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州から沖縄諸島、大東諸島まで分布</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州から沖縄諸島、大東諸島まで分布す</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>する。カシ類やシイの樹林に多く生息する。成虫は6月下旬から7月下旬まで見られる。</p>	<p>る。カシ類やシイの樹林に多く生息する。成虫は6月下旬から7月下旬まで見られる。</p> <p><u>なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、沼田ら(2007)⁽⁶⁾によると同じセミ科のクマゼミで最大1,200mの移動が確認されている。レッドデータ鳥取(2002)⁽⁷⁾によると、本種の成虫は周囲の植生から孤立した社叢の外へはほとんど出ていかない、とされている。</u></p>
<p>p 8-4-1-87 表 8-4-1-36(8) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 <p>そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 <p>そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるもの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるもの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-1-87 脚注</p>	<p>—</p>	<p>⁽⁶⁾ 沼田英治・初宿成彦(2007) . 都会にすむセミたち—温暖化の影響?— . 株式会社海遊舎, 162pp</p> <p>⁽⁷⁾ 鳥取県(2002) レッドデータブックとっとり</p>
<p>p 8-4-1-88 表 8-4-1-36(9) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州に分布する。湧水付近のコケの間や導水溝水辺の落葉間に生息する。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州に分布する。湧水付近のコケの間や導水溝水辺の落葉間に生息する。</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された2地点は改変の可能性のある範囲であった。 <p>そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の1地点、中津川市千旦林地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p><u>なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、愛知県(2009)⁽⁸⁾によると、飛翔しないため移動性が乏しい、とされている。</u></p> <p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された2地点は改変の可能性のある範囲であった。 <p>そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区の1地点、中津川市千旦林地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
p 8-4-1-88 脚注	—	⁽⁸⁾ 愛知県(2009) レッドデータブックあいち 2009 動物編。
p 8-4-1-89 表 8-4-1-36(11)重要な昆虫類の予測結果	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された3地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理す 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された3地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量へ</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>ることにより、生息環境への影響は及ばない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p><u>の影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-1-91 表 8-4-1-36(16) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州、四国、九州に分布する。水生植物の生えた池沼、水田などに生息する。幼虫も成虫も小型水生動物を捕食する。成虫は 8 月から 9 月に出現し成虫で越冬する。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州、四国、九州に分布する。水生植物の生えた池沼、水田などに生息する。幼虫も成虫も小型水生動物を捕食する。成虫は 8 月から 9 月に出現し成虫で越冬する。</p> <p><u>なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、四方(1999)⁽⁹⁾によると、同じゲンゴロウ科のゲンゴロウは、1km 程は移動することが確認された。</u></p>
<p>p 8-4-1-91 脚注</p>	<p>—</p>	<p>⁽⁹⁾ 四方圭一郎(1999)野外におけるゲンゴロウの移動と生存日数. 飯田市美術博物館研究紀要 9:151-160.</p>
<p>p 8-4-1-92 表 8-4-1-36(18) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 3 地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 3 地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・<u>また、工事の実施により生息環境の一部が縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</u> ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・さらに、工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>ばない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-1-93 表 8-4-1-36(20) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市千旦林地区の1地点は、主な生息環境の一部が消失・縮小する可能性がある。 ・その他の地区については、周辺には同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、千旦林地区の一部地域において、生息環境の一部は保全されない可能性があると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市千旦林地区の1地点は、主な生息環境の一部が消失・縮小する可能性がある。 ・その他の地区については、周辺には同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・さらに、工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、千旦林地区の一部地域において、生息環境の一部は保全されない可能性があると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>p 8-4-1-94 表 8-4-1-36 (21) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 4 地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 4 地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・さらに、工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-1-94 表 8-4-1-36 (22) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州、四国、九州に分布する。成虫は樹液や花にくる。幼虫はハチクマなどのワシタカ類の巣で育つことが最近判明した。新成虫は晩夏に出現し、そのまま越冬して 4 月から 8 月に見られる。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州、四国、九州に分布する。成虫は樹液や花にくる。幼虫はハチクマなどのワシタカ類の巣で育つことが最近判明した。新成虫は晩夏に出現し、そのまま越冬して 4 月から 8 月に見られる。</p> <p><u>なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、前河(2005)⁽¹⁰⁾によると、同じコガネムシ科のアオカナブンの移動距離は 150m～450m である。</u></p>
<p>p 8-4-1-94 脚注</p>	<p>—</p>	<p>⁽¹⁰⁾ 前河正昭(2005) 里山における樹液食甲虫類の移動実態—長野県信濃町アファンの森の事例—。信州大学教育学部付属志賀自然教育研究施設研究業績, 42: 13-16.</p>
<p>p 8-4-1-95 表 8-4-1-36 (25) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州、四国、九州に分布する。クロオオアリなどに一時的社会寄生する。立木の根際のうろに巣を作る。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州、四国、九州に分布する。クロオオアリなどに一時的社会寄生する。立木の根際のうろに巣を作る。</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>なお、久保田(1988)⁽¹¹⁾によると、アリ科のクロヤマアリの移動距離は、巣から100m以上である。</u></p>
p 8-4-1-95 脚注	—	<p>⁽¹¹⁾ 久保田政雄 (1988)ありとあらゆるアリの話. 講談社 (http://ant.edb.miyakyo-u.ac.jp/BJ/antStory/AAAnt2.html 参照)</p>
p 8-4-1-98 表 8-4-1-36(32)重要な昆虫類の予測結果	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 2 地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 2 地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道施設 (トンネル) の存在により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び薄い起源の土壌水により生息していると考えられることから、本種の生息環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。
p 8-4-1-99 表 8-4-1-36(34)重要な昆虫類の予測結果	<p>(一般生態)</p> <p>本州に生息する。低山地の雑木林や高層湿原の周辺などに生息する。幼虫の食草はおもにウマノスズクサ科のカンアオイ属。成虫は 3 月下旬から 5 月下旬に出現する。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>本州に生息する。低山地の雑木林や高層湿原の周辺などに生息する。幼虫の食草はおもにウマノスズクサ科のカンアオイ属。成虫は 3 月下旬から 5 月下旬に出現する。</p> <p><u>なお、HIRANO ら (2006)⁽¹²⁾によると、直線距離で互いに約 125-460m 離れた 4 つのピークの間で、雄個体において、累計 52 回のピーク間移動が計 27 個体で確認された。</u></p>
p 8-4-1-99 脚注	—	<p>⁽¹²⁾ Kazuhiko HIRANO, Kazuo WATANABE, and Takeshi KAMIYA (2006) 「ギフチョウの山頂間移動」, 蝶と蛾 日本鱗翅学会, 57 (4):</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		279-290
<p>p 8-4-1-100 表 8-4-1-36(35) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 <p>そのため、工事の実施により多治見市西山町・大針町地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 <p>そのため、工事の実施により多治見市西山町・大針町地区の1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は<u>保全される</u>と予測する。
<p>p 8-4-1-100 表 8-4-1-36(36) 重要な昆虫類の予測結果</p>	<p>(一般生態)</p> <p>北海道から九州まで分布する。クヌギの樹液などに集まる。幼虫の食樹はエノキ、エゾエノキなどのニレ科植物。成虫は6月から8月頃まで見られる。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>北海道から九州まで分布する。クヌギの樹液などに集まる。幼虫の食樹はエノキ、エゾエノキなどのニレ科植物。成虫は6月から8月頃まで見られる。</p> <p><u>なお、あいちミティゲーション定量評価ツール利用マニュアル(愛知県)⁽¹³⁾によると、行動範囲も最大で1km 移動したという結果が得られている。</u></p>
<p>p 8-4-1-100 脚注</p>	—	<p>⁽¹³⁾ <u>あいちミティゲーション定量評価ツール利用マニュアル</u> <u>(https://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000059/59680/manual.pdf 参照)</u></p>
<p>p 8-4-1-101 表 8-4-1-36(37) 重要</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された2地点は改変の可能 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された2地点は改変の可能性

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
な昆虫類の予測結果	<p>性のある範囲外であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施により生息環境の一部が縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>のある範囲外であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施により生息環境の一部が縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・さらに、工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
p 8-4-1-102 表 8-4-1-37(1) 重要な魚類の予測結果	<p>(一般生態)</p> <p>濃尾平野以西の本州や四国北東部、九州北部などに分布する。川の中流から下流域や灌漑水路の流れのゆるやか砂底・砂礫底などに生息する。</p> <p>産卵期は5月から6月で、卵径約1mmの弱い粘着卵を産む。食性は雑食性で、水生昆虫やプランクトン動物、付着藻類などを食する。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>濃尾平野以西の本州や四国北東部、九州北部などに分布する。川の中流から下流域や灌漑水路の流れのゆるやか砂底・砂礫底などに生息する。</p> <p>産卵期は5月から6月で、卵径約1mmの弱い粘着卵を産む。食性は雑食性で、水生昆虫やプランクトン動物、付着藻類などを食する。</p> <p><u>なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、西田ら(2005)⁽¹⁴⁾によると、タモロコの移動距離は300～500mである。</u></p>
p 8-4-1-102 脚注	—	<p>⁽¹⁴⁾ 西田一也、藤井千晴、千賀裕太郎(2005) 一時的水域における魚類の再生産と移動・分散に関する研究、農業土木学会全国大会講演要旨集 pp.424-425</p>
p 8-4-1-103 表 8-4-1-37(2) 重要な魚類の予測結果	<p>(一般生態)</p> <p>ほぼ日本全国に分布。水田や湿地と、周辺の細流にすむ。平地部を中心に生息するが、圃場整備されていない水田が近くにあれば、かなり上流域にもいる。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>ほぼ日本全国に分布。水田や湿地と、周辺の細流にすむ。平地部を中心に生息するが、圃場整備されていない水田が近くにあれば、かなり上流域にもいる。</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>西日本での産卵期は6月から7月。水田周辺では、しろかきと同時に周囲の用水路から水田に遡上する。遡上後、水田で何日かを過ごしたあと夜間に産卵する。雑食性。</p> <p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された6地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区3地点、中津川市千旦林地区2地点、可児市大森地区1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>西日本での産卵期は6月から7月。水田周辺では、しろかきと同時に周囲の用水路から水田に遡上する。遡上後、水田で何日かを過ごしたあと夜間に産卵する。雑食性。</p> <p><u>なお、西田ら(2005)によると、本種の移動距離は100~300mである。</u></p> <p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された6地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市瀬戸・駒場地区3地点、中津川市千旦林地区2地点、可児市大森地区1地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-1-104 表 8-4-1-37(3) 重要な魚類の予測結果</p>	<p>(一般生態)</p> <p>中部及び近畿地方に分布する。河川の上流から中流域の礫底に生息する。産卵期は春と考えられている。岩や礫の表面に付着する藻類を食する。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>中部及び近畿地方に分布する。河川の上流から中流域の礫底に生息する。産卵期は春と考えられている。岩や礫の表面に付着する藻類を食する。</p> <p><u>なお、本種が生活史の中でどれほどの距離を移動するかは不明であるが、平松(2010)⁽¹⁵⁾によると越冬場所を中心とした水域で活動するようであり、定着性が高い。</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 8-4-1-104 脚注	—	(15) 平松和也 (2010) アジメドジョウの生息地保全に関する生態的研究、近畿大学農学部紀要第 43 号 111～157
p 8-4-1-105 表 8-4-1-37(4) 重要な魚類の予測結果	<p>(一般生態)</p> <p>山口県西部を除く本州と、四国に広くほぼ連続的に分布するほか、九州にも一部分布する。河川中流から下流域上部にかけての砂底ないし砂礫底に生息する。</p> <p>産卵期は5月から6月で、湧水や湧水を起源とする細流などに集団で移動して産卵すると推定される。底生動物やデトリタスなどを食する。なお近年、別種レベルで分化しているとされる4集団が認められており、それぞれに標準和名が提唱されている。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>山口県西部を除く本州と、四国に広くほぼ連続的に分布するほか、九州にも一部分布する。河川中流から下流域上部にかけての砂底ないし砂礫底に生息する。</p> <p>産卵期は5月から6月で、湧水や湧水を起源とする細流などに集団で移動して産卵すると推定される。底生動物やデトリタスなどを食する。なお近年、別種レベルで分化しているとされる4集団が認められており、それぞれに標準和名が提唱されている。</p> <p><u>なお、本種が生活史の中でどれほどの距離を移動するかは不明であるが、吉田 (2013) (16) によると、産卵のために河川や、細流、農業用水路に移動する。</u></p>
	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された4地点は改変の可能性のある範囲であった。 ・そのため、工事の実施により可児市久々利地区4地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された4地点は改変の可能性のある範囲であった。 ・そのため、工事の実施により可児市久々利地区4地点は生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		測する。
p 8-4-1-105 脚注	—	<u>(16) 吉田豊、(2013) ヒガシシマドジョウの産卵期における水路への遡上と産卵場所の特徴、栃木県水産試験場研究報告 No. 56, Page. 4-11</u>
p 8-4-1-106 表 8-4-1-37(5) 重要な魚類の予測結果	<p>(一般生態)</p> <p>青森県を除く東北地方から三重県、京都府及び兵庫県に分布する。流れの緩やかな細流の砂泥底に生息する。</p> <p>産卵期は3月下旬から6月上旬で、水草などに産卵・放精する。主に浮遊性から底生性の小動物を食する。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>青森県を除く東北地方から三重県、京都府及び兵庫県に分布する。流れの緩やかな細流の砂泥底に生息する。</p> <p>産卵期は3月下旬から6月上旬で、水草などに産卵・放精する。主に浮遊性から底生性の小動物を食する。</p> <p><u>なお、加地ら(2011)⁽¹⁷⁾によると、本種の移動距離は約400m以上であることを調査より得ている。</u></p>
	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された7地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された7地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周囲に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周囲に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
p 8-4-1-106 脚注	—	<u>(17) 加地奈々、名倉盾(2011) 水田地帯におけるホトケドジョウの繁殖生態、山梨県水産技術センター事業報告書(第38号)</u>
p 8-4-1-107 表 8-4-1-37(6) 重要な魚類の予測結果	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された4地点は改変の可能性のある範囲であった。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された4地点は改変の可能性のある範囲であった。

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>そのため、工事の実施により、可児市久々利地区の4地点は、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>そのため、工事の実施により、可児市久々利地区の4地点は、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の地点については、周辺には同質の環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・さらに、<u>工事の実施に伴う夜間照明は、必要に応じて極力外部に向けないよう配慮することにより、生息環境への影響は及ばない。</u> ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、<u>生息環境は保全されると</u>予測する。
<p>p 8-4-1-108 表 8-4-1-37(7)重要な魚類の予測結果</p>	<p>(一般生態)</p> <p>神奈川県酒匂川の右岸側支流以西の本州太平洋側、四国全域及び大分県大野川以北の九州瀬戸内側の各河川に生息するが、放流によりアマゴとヤマメの分布域は乱れている。年間を通じて20℃以下の渓流域に生息し、淵の中心部からかけあがり部で生活する。</p> <p>産卵期は10月中旬から1月下旬で、瀬尻のかけあがり部の平瀬や岸寄りの巻き返しの砂礫底に産卵床を掘って産卵する。主に水生昆虫の幼虫を食するが、夏には陸生の落下昆虫を食することが多くなる。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>神奈川県酒匂川の右岸側支流以西の本州太平洋側、四国全域及び大分県大野川以北の九州瀬戸内側の各河川に生息するが、放流によりアマゴとヤマメの分布域は乱れている。年間を通じて20℃以下の渓流域に生息し、淵の中心部からかけあがり部で生活する。</p> <p>産卵期は10月中旬から1月下旬で、瀬尻のかけあがり部の平瀬や岸寄りの巻き返しの砂礫底に産卵床を掘って産卵する。主に水生昆虫の幼虫を食するが、夏には陸生の落下昆虫を食することが多くなる。</p> <p><u>なお、NAKANOら(1990)⁽¹⁸⁾によると、本種の移動距離は、非繁殖期には20m以下、繁殖期には移動距離がわずかに増加する傾向があるが、定住性がみられる。</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された8地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された8地点は改変の可能性のある範囲外であった。 ・工事の実施により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周囲に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるもの、周囲に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるもの、周囲に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
p 8-4-1-108 脚注	—	⁽¹⁸⁾ NAKANO S, KACHI T, NAGOSHI M (1990) <u>山地溪流におけるアマゴの河川内移動、魚類学雑誌 Vol. 37, No. 2, Page. 158-163</u>
p 8-4-1-109 表 8-4-1-37(8) 重要な魚類の予測結果	<p>(一般生態)</p> <p>岩手県南部以南の本州太平洋側、四国、九州及び対馬や屋久島など周辺の島嶼、京都府から山口県までの日本海側、奄美諸島、沖縄諸島に分布する。平野部の河川や湖沼、水田地帯の用水路などに生息し、止水や緩流域を好む。</p> <p>産卵期は主に春から夏で、水草などに産卵する。食性はプランクトンのほか、小さな落下昆虫などを食する雑食性である。近年、本種とメダカ北日本集団 (<i>Oryzias sakaizumii</i>) の2種に分けられ、分布が異なるほか、体側鱗の黒い縁取りの有無など外部形態によっても区別される。</p>	<p>(一般生態)</p> <p>岩手県南部以南の本州太平洋側、四国、九州及び対馬や屋久島など周辺の島嶼、京都府から山口県までの日本海側、奄美諸島、沖縄諸島に分布する。平野部の河川や湖沼、水田地帯の用水路などに生息し、止水や緩流域を好む。</p> <p>産卵期は主に春から夏で、水草などに産卵する。食性はプランクトンのほか、小さな落下昆虫などを食する雑食性である。近年、本種とメダカ北日本集団 (<i>Oryzias sakaizumii</i>) の2種に分けられ、分布が異なるほか、体側鱗の黒い縁取りの有無など外部形態によっても区別される。</p> <p><u>なお、佐原(私信)⁽¹⁹⁾によると、水路のみで生息する本種の移動距離は条件がよければ1,500m程度である。</u></p>
p 8-4-1-109 脚注	—	⁽¹⁹⁾ 渡部憲吾、東淳樹、2006、 <u>個体識別法によるメダカの成長と移動分散について、</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		農業土木学会全国大会講演要旨集 pp. 304-305
p 8-4-1-110 表 8-4-1-37(9)重要な魚類の予測結果	(一般生態) 愛知県と新潟県以西の本州、四国及び九州に分布する。川の上流域下部から中流域の淵を中心に生息し、泥底よりは砂底や礫底などを好む。 産卵期は5月から7月で、大きな石の下面などに産卵する。夜間活動し、動物食で生きたものしか食さない。	(一般生態) 愛知県と新潟県以西の本州、四国及び九州に分布する。川の上流域下部から中流域の淵を中心に生息し、泥底よりは砂底や礫底などを好む。 産卵期は5月から7月で、大きな石の下面などに産卵する。夜間活動し、動物食で生きたものしか食さない。 なお、本種は、巢穴での定住性が高い ⁽²⁰⁾ 。
p 8-4-1-110 脚注	—	⁽²⁰⁾ 財団法人リバーフロント整備センター (1996) 川の生物図典
p 8-4-1-111 8-4-1-38(2)重要な底生動物の予測結果	(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市千旦林地区の1地点は、主な生息環境の一部が消失、縮小する可能性がある。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、千旦林地区の一部地域において、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 (予測結果、鉄道施設の存在) ・工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境の変化は生じないと予測する。	(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市千旦林地区の1地点は、主な生息環境の一部が消失、縮小する可能性がある。 ・また、トンネルの工事により、 <u>破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し処理することにより、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、千旦林地区の一部地域において、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 (予測結果、鉄道施設の存在) ・ <u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
p 8-4-1-119 a) 哺乳類	予測対象種は、ヒメヒミズ、フジミズラモグラ、ヤマコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ニホンテングコウモリ、ホンドオコジョ、ホンドモモンガ、ヤマネの9種である。 工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネル	予測対象種は、ヒメヒミズ、フジミズラモグラ、ヤマコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ニホンテングコウモリ、ホンドオコジョ、ホンドモモンガ、ヤマネの9種である。 <u>これらの9種は、山地や里地・里山の樹林や草地等が主な生息環境である。このため、工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用い</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>の工事又は工事施工ヤードの設置)及び鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、一般的な環境保全措置を実施すること、周辺に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全されるものと予測される。</p>	<p>る車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置)及び鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、一般的な環境保全措置を実施すること、周辺に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全されるものと予測される。</p>
<p>p 8-4-1-119 b)鳥類</p>	<p>予測対象種は、マガン、トモエガモ、アカハジロ、アカオネツタイチョウ、シロハラミズナギドリ、ヨシゴイ、オオヨシゴイ、セイタカシギ、ハマシギ、タマシギ、コアジサシ、オオワシ、チュウヒ、オオコノハズク、コノハズク、ブッポウソウ、チゴモズ、アカモズ、キバシリ、マミジロ、ホオアカ、ノジコの22種である。(猛禽類調査時に確認されたクマタカ、ハヤブサを除く)</p> <p>工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置)及び鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な鳥類の生息環境は保全されると予測される。</p>	<p>予測対象種は、トモエガモ、アカハジロ、ヨシゴイ、タマシギ、コアジサシ、チュウヒ、オオコノハズク、コノハズク、ブッポウソウ、チゴモズ、アカモズ、キバシリ、マミジロ、ホオアカ、ノジコの15種である(猛禽類調査時に確認されたクマタカ、ハヤブサを除く)。これらのうち、<u>オオコノハズク、コノハズク、ブッポウソウ、チゴモズ、アカモズ、キバシリ、マミジロ、ホオアカ、ノジコなどの9種は、山地や里地・里山の樹林や草地等が主な生息環境である。また、トモエガモ、アカハジロ、ヨシゴイ、タマシギ、コアジサシ、チュウヒなどの6種は、湖沼、河川、水田、湿地、海岸等の水域及びその周辺が主な生息環境である。このため、工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置)及び鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</u></p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な鳥類の生息環境は保全されると予測される。</p>
<p>p 8-4-1-120 d)両生類</p>	<p>予測対象種は、ブチサンショウウオ、オオサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ナガレタゴガエル、モリアオガエルの5種である。</p> <p>工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置)及び鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環</p>	<p>予測対象種は、オオサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ナガレタゴガエル、モリアオガエルの4種である。これらの4種は、<u>山地や里地・里山の河川、水田、湿地等の水域や水辺周辺の樹林が主な生息環境である。このため、工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置)及び鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な両生類の生息環境は保全されると予測される。</p>	<p>その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な両生類の生息環境は保全されると予測される。</p>
<p>p8-4-1-120 e) 昆虫類</p>	<p>予測対象種は、ホンサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ネアカヨシヤンマ、マルタンヤンマ、トラフトンボ、キイロヤマトンボ、ハネビロエゾトンボ、マイコアカネ、ウスバカマキリ、タガメ、トゲナベブタムシ、セアカオサムシ、イグチケブカゴミムシ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、ミズスマシ、ヤマトホソガムシ、シジミガムシ、コクロオバボタル、ウマノオバチ、ニッポンハナダカバチ、ナミルリモンハナバチ、ホシチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ、チャマダラセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、ヘリグロチャバネセセリ、ミヤマカラスアゲハ、ミヤマシジミ、ゴマシジミ、ミドリシジミ、クロシジミ、ヒメシジミ本州・九州亜種、フジミドリシジミ、ウラキンシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ヒョウモンモドキ、ヒメヒカゲ本州中部亜種、キマダラモドキ、クロヒカゲモドキ、オオヒカゲ、ウラナミジャノメ本土亜種、オナガミズアオ、スゲドクガ、ウスズミケンモン、ウスミモンキリガ、ミスジキリガ、ギンモンアカヨトウ、コシロシタバの50種である。</p> <p>工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な昆虫類の生息環境は保全されると予測される。</p>	<p>予測対象種は、ホンサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ネアカヨシヤンマ、マルタンヤンマ、トラフトンボ、キイロヤマトンボ、ハネビロエゾトンボ、マイコアカネ、ウスバカマキリ、タガメ、トゲナベブタムシ、セアカオサムシ、イグチケブカゴミムシ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、ミズスマシ、ヤマトホソガムシ、シジミガムシ、コクロオバボタル、ウマノオバチ、ニッポンハナダカバチ、ナミルリモンハナバチ、ホシチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ、チャマダラセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、ヘリグロチャバネセセリ、ミヤマカラスアゲハ、ミヤマシジミ、ミドリシジミ、クロシジミ、ヒメシジミ本州・九州亜種、フジミドリシジミ、ウラキンシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ヒメヒカゲ本州中部亜種、キマダラモドキ、クロヒカゲモドキ、オオヒカゲ、ウラナミジャノメ本土亜種、オナガミズアオ、スゲドクガ、ウスズミケンモン、ウスミモンキリガ、ミスジキリガ、ギンモンアカヨトウ、コシロシタバの48種である。</p> <p>これらのうち、<u>ウスバカマキリ、セアカオサムシ、イグチケブカゴミムシ、コクロオバボタル、ウマノオバチ、ニッポンハナダカバチ、ナミルリモンハナバチ、ホシチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ、チャマダラセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、ヘリグロチャバネセセリ、ミヤマシジミ、ミドリシジミ、クロシジミ、フジミドリシジミ、ウラキンシジミ、ヒメヒカゲ本州中部亜種、キマダラモドキ、クロヒカゲモドキ、ウラナミジャノメ本土亜種、オナガミズアオ、ウスズミケンモン、ミスジキリガ、コシロシタバ</u>などの25種は、<u>山地、里地・里山の樹林、草地、湿地等が主な生息環境である。また、ホンサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ネアカヨシヤンマ、マルタンヤンマ、トラフトンボ、キイロヤマトンボ、ハネビロエゾトンボ、マイコアカネ、タガメ、トゲナベブタムシ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、ミズスマシ、ヤマトホソガムシ、シジミガムシ、ミヤマカラスアゲハ、ヒメ</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>シジミ本州・九州亜種、ウラギンスジヒョウモン、オオヒカゲ、スゲドクガ、ウスミモンキリガ、ギンモンアカヨトウなどの23種は、<u>山地、里地・里山の池沼、河川、水田、湿地等の水域や水辺周辺の樹林等が主な生育環境である。</u>このため、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な昆虫類の生息環境は保全されると予測される。</p>
<p>p 8-4-1-121 f)魚類</p>	<p>予測対象種は、スナヤツメ類、ニホンウナギ、ヤリタナゴ、イチモンジタナゴ、イタセンバラ、シロヒレタビラ、ヌママツ、カワヒガイ、ゼゼラ、ツチフキ、スジマドジョウ類、ネコギギ、ヒメマス、カマキリ、カジカ類、オオヨシノボリ、トウカイヨシノボリの17種である。</p> <p>工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な魚類の生息環境は保全されると予測される。</p>	<p>予測対象種は、スナヤツメ類、ニホンウナギ、ヤリタナゴ、イチモンジタナゴ、イタセンバラ、シロヒレタビラ、ヌママツ、カワヒガイ、ゼゼラ、ツチフキ、スジマドジョウ類、ネコギギ、カマキリ、カジカ類、オオヨシノボリ、トウカイヨシノボリの16種である。<u>これらの16種は、里地・里山の湖沼、河川、水田、用水路等の水域が主な生息環境である。</u>なお、ニホンウナギ、カマキリ、カジカ類は、<u>遡河、降河、両側回遊魚</u>であり、生活史の一部は海域を生息環境とする。このため、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な魚類の生息環境は保全されると予測される。</p>
<p>p 8-4-1-121 g)底生動物</p>	<p>予測対象種は、マルタニシ、オオタニシ、クロダカワニナ、モノアラガイ、カラスガイ、イシガイ、マシジミの7種である。</p> <p>工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び</p>	<p>予測対象種は、マルタニシ、オオタニシ、クロダカワニナ、モノアラガイ、イシガイ、マシジミの6種である。<u>これらの6種は、里地・里山の湖沼、河川、水田、用水路等の水域が主な生息環境である。</u>このため、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な底生動物の生息環境は保全されると予測される。</p>	<p>は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な底生動物の生息環境は保全されると予測される。</p>
<p>p 8-4-1-122 h) 陸産貝類</p>	<p>予測対象種は、オオギセル、オクガタギセル、トノサマガセル、ミドリベッコウ、エナクリイロベッコウ、ケハダビロウドマイマイ、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ、コガネマイマイ（オカノマイマイ）、ミヤマヒダリマキマイマイの10種である。</p> <p>工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な陸産貝類の生息環境は保全されると予測される。</p>	<p>予測対象種は、オオギセル、オクガタギセル、トノサマガセル、ミドリベッコウ、エナクリイロベッコウ、ケハダビロウドマイマイ、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ、コガネマイマイ（オカノマイマイ）の9種である。これらの9種は、<u>山地、里地・里山の樹林等が主な生息環境である。</u>このため、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、生息環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。</p> <p>したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な陸産貝類の生息環境は保全されると予測される。</p>
<p>p 8-4-1-123 ア. 環境保全措置の検討の状況</p>	<p>本事業では、計画の立案の段階において、動物に係る環境影響を回避又は低減するため「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」、「資材運搬等の適正化」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」、「工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施」及び「防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用」について検討した。</p> <p>さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による動物に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。</p> <p>環境保全措置の検討の状況を表</p>	<p>本事業では、計画の立案の段階において、動物に係る環境影響を回避又は低減するため「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」、「資材運搬等の適正化」、「工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」及び「防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用」について検討した。</p> <p>さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による動物に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。</p> <p>検討にあたっては、「重要な種の生息地</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	8-4-1-40 に示す。	<p><u>の全体又は一部を回避</u>」、「<u>工事に伴う改変区域をできる限り小さくする</u>」を基本とした上で、さらに影響を低減させる措置を実施する。また、その結果を踏まえ、必要な場合には、<u>損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を検討した。</u></p> <p>環境保全措置の検討の状況を表 8-4-1-40 に示す。</p>
p 8-4-1-124 表 8-4-1-40(1)環境保全措置の検討の状況	<p>(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、適否の理由)</p> <p>生息環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、適否の理由)</p> <p><u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、重要な種の生息環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
	(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施	(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施
	<p>(工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、適否の理由)</p> <p>改変する区域の一部に工事の実施に際し使用した工事施工ヤード等の林縁の保護植栽を図ることにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>(工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、適否の理由)</p> <p>改変する区域の一部に工事の実施に際し、<u>周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
—	—	<p>以下を追記</p> <p>(環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (保全対象種) <u>トンネルからの湧水を放流する河川を生息環境とする保全対象種全般</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、水辺の動物の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
	(照明の漏れ出しの抑制、適否の理由) 走光性の昆虫類などへの影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。	(照明の漏れ出しの抑制、適否の理由) <u>専門家の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けられないような配慮による漏れ光の抑制、昆虫類等の誘引効果が少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		間は消灯するなど点灯時間への配慮を行うことで、走光性の重要な昆虫類等の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
p 8-4-1-125 表 8-4-1-40(2)環境保全措置の検討の状況	<p>(重要な種の移植、適否の理由) 重要な種の生息環境や個体への影響を代償できることから、環境保全措置として採用する。</p> <p>(代替巣等の設置、適否の理由) 鳥類等の繁殖活動への影響を代償できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>(重要な種の移植、適否の理由) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種の生息環境や個体への影響を代償することができることから、環境保全措置として採用する。</u></p> <p>(代替巣等の設置、適否の理由) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息するハチクマ、サシバの生息環境の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境に代替巣を設置することで、生息環境への影響を代償することができることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
p 8-4-1-125 ア. 環境保全措置の検討の状況	—	<p>追記</p> <p><u>ハチクマ(武並ペア)に係る環境保全措置の検討の状況については、以下のとおりである。</u></p> <p><u>・路線の選定にあたっては、第3章に記載のとおり、超電導リニアの技術的制約条件等を踏まえるとともに、恵那市付近の路線については、恵那市の中央自動車道以南の市街地、恵那峡県立自然公園、ウラン鉱床を回避し、地形上、武並町内で藤川を渡河する計画としている。その結果、路線(地上部)の一部が、やむを得ず当該ペアの高利用域に通過することとなった。</u></p> <p><u>・ただし、営巣地は回避しており、周辺には同質の環境が広く分布することから繁殖環境への影響は特別に大きいものではないと考えられる。</u></p> <p><u>・環境保全措置としては、まず、高利用域の減少をできる限り少なくするために、工事ヤード内に設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う改変区域を小さくするよう計画していく。また、コンディショニングの実施や防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用及び工事従事者に対して不用意に林内へ立ち入らないよう指導を徹底していくことなどの措置により影響の低減を図る。さらに、代償措置として、専門家等の助言を踏まえて代替巣等の設置を行うことを計画</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>している。</p> <p>・<u>今後は、工事開始までの継続的な確認調査及び事後調査を実施して生息状況の確認を行い、工事に対する影響の程度を把握し、<u>変更区域のすぐ近傍において営巣が確認された場合には、施工順序の見直しや工事工程の調整を行い繁殖への影響の大きな時期に騒音等の少ない作業を実施するなどの措置についても専門家等の助言を踏まえ検討を行っていく。</u></u></p> <p><u>オオタカ（千旦林南ペア）に係る環境保全措置の検討の状況については、以下のとおりである。</u></p> <p>・<u>中部車両基地（工場）は、第3章に記載のとおり、方法書記載の概略位置から、恵那峡県立自然公園及び岩屋堂のシデコブシ群生地（岐阜県指定天然記念物）を回避し、敷地として延長約2.2km、最大幅約500m、面積約65haの平坦地を確保するにあたって環境への影響を少なくするような位置の絞り込みを行った結果、中津川市千旦林地区の丘陵地に計画した。さらに、車両基地と本線を結ぶ回送線は、超電導リニアの線形条件を踏まえて計画し、岐阜県駅西側で本線に合流する計画とした。その結果、<u>変更の可能性のある範囲の一部が、やむを得ず当該ペアの営巣中心域に含まれる計画となった。</u></u></p> <p>・<u>ただし、営巣地から見て最寄りの変更の可能性のある範囲は約200m離れているものの小尾根の反対側であることから繁殖環境への影響は特別に大きいものではないと考えられる。</u></p> <p>・<u>環境保全措置としては、まず、変更の可能性のある範囲から変更区域を絞り込む過程において営巣中心域をできる限り回避するよう計画するとともに、高利用域において、工事に伴う変更区域をできる限り小さくし影響を回避・低減するよう計画していく。また、コンディショニングの実施や防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用、工事従事者に対して不用意に林内へ立ち入らないよう指導を徹底していくことなどの措置により影響の低減を図っていく。</u></p> <p>・<u>今後は、工事開始までの継続的な確認調査及び事後調査を実施して生息状況の確認を行い、工事に対する影響の程度を把握し、<u>変更区域のすぐ近傍において営巣が確認された場合には、施工順序の見直しや工事工程の調整を行い繁殖への影響の大きな時期に騒音等の少ない作業を実施する</u></u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>などの措置についても専門家等の助言を踏まえ検討を行っていく。</u></p> <p><u>サシバ(久々利東ペア)に係る環境保全措置の検討の状況については、以下のとおりである。</u></p> <p><u>・路線の選定にあたっては、第3章に記載のとおり、超電導リニアの技術的制約条件等を踏まえるとともに、可見市付近の路線については、ウラン鉱床や住宅地化が進展している地域を回避するよう計画した結果、久々利大萱地区を路線が通過することとなった。また、防災上、長大トンネルの前後には列車長400m程度の地上区間を設置する必要があるため、名古屋市ターミナル駅から続く長大トンネルが都市部を抜けた後は、できるだけ早く地上に出よう路線を選定した結果、窪んだ地形となっている久々利大萱地区を地上区間とするこ</u> <u>ととした。その結果、路線(地上部)の一部が、やむを得ず当該ペアの営巣中心域に通過することとなった。</u></p> <p><u>・ただし、営巣地は回避しており、周辺には同質の環境が広く分布することから繁殖環境への影響は特別に大きいものではないと考えられる。</u></p> <p><u>・環境保全措置としては、まず、営巣中心域及び高利用域の減少や分断をできる限り少なくするために、工事ヤード内に設置する設備やその配置を工夫することや、切取斜面の勾配を急にすることなどにより、工事に伴う変更区域を小さくするよう計画していく。また、コンディショニングの実施や防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用及び工事従事者に対して不用意に林内へ立ち入らないよう指導を徹底していくことなどの措置により影響の低減を図る。さらに、代償措置として、専門家等の助言を踏まえて代替巣等の設置を行うことを計画している。</u></p> <p><u>・今後は、工事開始までの継続的な確認調査及び事後調査を実施して生息状況の確認を行い、工事に対する影響の程度を把握し、変更区域のすぐ近傍において営巣が確認された場合には、地上区間の施工順序の見直しや工事工程の調整により繁殖への影響の大きな時期に騒音等の少ない作業を実施するなどの措置についても専門家等の助言を踏まえ検討を行っていく。</u></p> <p><u>なお、両生類、爬虫類のうち、一部の冬眠する重要種については、過去の事例や専門家の意見も踏まえ、確認位置から重要種</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>の生息地の分布範囲を推定し、改変の可能性のある範囲との関係から、一部改変の可能性のある範囲で確認されるものの殆どは同質の生息環境が広がり、地域個体群に影響を与える程度ではなく、種として生息環境は保全されると予測している。一方で、同質の生息環境が限られている場合は一部保全されないものと予測し、該当する重要種に対しては工事前に移植するなどの環境保全措置を実施する。個体レベルでの影響については、環境保全措置である「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」、「工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施」などを実施することで、改変の可能性のある範囲で確認されている個体への影響の低減を図るが、今後、事業計画を具体的に検討する段階において、必要に応じて専門家の助言を受け、さらに検討を進める。</u></p> <p><u>また、工事計画を検討するにあたっては、重要な種の生息状況及び専門家の助言を踏まえ、環境影響を可能な限り回避又は低減した上で、必要な場合には損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を講じていく。</u></p>
<p>p 8-4-1-127 イ. 環境保全措置の実施主体、方法その他環境保全措置の実施の内容</p>	<p>本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による動物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」、「資材運搬等の適正化」、「代替巣等の設置」、「重要な種の移植」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」、「工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施」、「防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用」、「照明の漏れ出しの抑制」、「コンディショニングの実施」及び「工事従業者への講習・指導」を実施する。</p>	<p>本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による動物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」、「工事従業者への講習・指導」、「資材運搬等の適正化」、「工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」、「放流時の放流箇所及び水温の調整」、「照明の漏れ出しの抑制」、「防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用」、「コンディショニングの実施」、「重要な種の移植」及び「代替巣等の設置」を実施する。</p> <p><u>なお、「重要な種の移植」にあたっては、専門家の助言を踏まえ、対象種ごとに、移植の場所、時期、方法、監視方法等を含む実施計画を作成のうえ、実施する。また、「代替巣等の設置」については複数の種が巣を競合するという知見もあるため、今後の継続調査の結果や専門家の意見を踏ま</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		え、詳細な設置検討を行っていく。 さらに、工事排水の排出先となる河川においては、モニタリングを実施し、排水による影響を監視していく計画としている。
p 8-4-1-128 表 8-4-1-41(2)環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 重要な種の生息地への影響を回避又は低減できる。	(環境保全措置の効果) 工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、重要な種の生息環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。
p 8-4-1-129 表 8-4-1-41(5)環境保全措置の内容	(種類・方法) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施 (環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に林縁保護植栽等を図ることで、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できる。	(種類・方法) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施 (環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できる。
p 8-4-1-129 表 8-4-1-41(7)環境保全措置の内容	—	追記
p 8-4-1-129 表 8-4-1-41(8)環境保全措置の内容	(位置・範囲) 工事施工箇所 (時期・期間) 工事中 (環境保全措置の効果) 走光性の昆虫類等への影響を低減できる。 (効果の不確実性) なし	(位置・範囲) 山岳部における工事施工箇所及び鉄道施設 (時期・期間) 工事中 供用時 (環境保全措置の効果) 専門家の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けないような配慮による漏れ光の抑制、昆虫類等の誘引効果が少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行うことで、走光性の重要な昆虫類等の生息環境への影響を低減できる。 (効果の不確実性) あり
p 8-4-1-130 表 8-4-1-41(11)環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 鉄道施設(車両基地)の位置や形状の観点から、そこに生息する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種の生育環境への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	(環境保全措置の効果) 鉄道施設(地表式又は掘割式、嵩上式、車両基地)の位置や形状の観点から、回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種の生息環境や個体への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		ながら行うことで、効果が期待できる。
<p>p 8-4-1-130 表 8-4-1-41(12) 環境保全措置の内容</p>	<p>(環境保全措置の効果) 工事の実施により、そこに生息するハチクマ、サシバの生息環境の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境に代替巣を設置することで、生息環境への影響を代償することができる。なお、代替巣等の設置は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</p>	<p>(環境保全措置の効果) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息するハチクマ、サシバの生息環境の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境に代替巣を設置することで、生息環境への影響を代償することができる。</u>なお、代替巣等の設置は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</p>
<p>p 8-4-1-131 表 8-4-1-42 事後調査の概要</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (調査項目) <u>照明の漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況</u> (調査内容) ○調査時期・期間 <u>工事中及び工事完了後</u> ○調査地域・地点 <u>山岳部における工事施工ヤードや供用時の各種施設等における照明設置場所及びその周辺</u> ○調査方法 <u>任意観察等による生息状況の確認</u> <u>※専門家の助言を踏まえながら実施する。</u> (実施主体) <u>東海旅客鉄道株式会社</u></p>
<p>p 8-4-1-131 ウ. 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針</p>	<p>事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、専門家の助言を踏まえ、その原因の把握に努めるとともに改善を図るものとする。</p>	<p>事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、<u>その原因の把握に努めるとともに、専門家の助言も踏まえ、必要な場合には種の特性に合わせた改変時期の設定や改変期間の短縮についても検討し、改善を図るものとする。</u></p>
<p>p 8-4-1-132 エ. 事後調査の結果の公表方法</p>	<p>事後調査結果の公表は、原則として事業者が行うものとするが、公表時期・方法等は、関係機関と連携しつつ適切に実施するものとする。</p>	<p>事後調査結果の公表は、原則として事業者が行うものとするが、公表時期・方法等は、関係機関と連携しつつ適切に実施するものとする。 <u>また、サシバについて影響が生じる恐れのあるペアについては、継続してモニタリングを行い、その結果を専門家等に提示するとともに、具体的に工事を実施するにあたっては、専門家の助言を得て、環境保全措置の検討を進める。なお、これらの検討にあたっては、「サシバの保護の進め方」(平成25年12月 環境省自然環境局 野生生物課)も参考とする。</u></p>
<p>p 8-4-1-132 ア) 回避又は低減に係る評価</p>	<p>一部の種については、生息環境の一部が保全されない可能性があるとして予測されたが、低騒音・低振動型の建設機械の使用等の環境保全措置を実施することで、影響の回避又は低減に努める。</p>	<p>一部の種については、生息環境の一部が保全されない可能性があるとして予測されたが、低騒音・低振動型の建設機械の使用等の環境保全措置を実施することで、影響の回避又は低減に努める。<u>さらに、列車の走</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家の助言を踏まえて、別途対策を検討する。	<p>行に関する騒音等が野生動物に及ぼす影響に関しては、現時点で十分な知見が蓄積されていないが、影響の把握や環境保全措置等について、整備新幹線での対応状況もみながら検討を進めていく。</p> <p>なお、「照明の漏れ出しの抑制」、「コンディショニングの実施」、「重要な種の移植」及び「代替巣等の設置」は、環境保全措置の効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。</p> <p>また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家の助言を踏まえて、別途対策を検討する。</p>
p 8-4-2-11 1) 高等植物に係る重要な種の確認状況	文献調査及び現地調査により確認された高等植物に係る重要な種は、74科 222種であった（「資料編 15-1 文献調査結果」及び「資料編 15-2 植物出現種リスト」参照）。文献及び現地で確認された高等植物に係る重要な種とその選定基準を表 8-4-2-8 に示す。	文献調査及び現地調査により確認された高等植物に係る重要な種は、 <u>70科 206種</u> であった（「資料編 15-1 文献調査結果」及び「資料編 15-2 植物出現種リスト」参照）。文献及び現地で確認された高等植物に係る重要な種とその選定基準を表 8-4-2-8 に示す。
p 8-4-2-12 表 8-4-2-8(1) 高等植物に係る重要な種確認一覧	(種名) イヌカタヒバ チシマヒメドクサ イチョウシダ オグラセンノウ	削除
p 8-4-2-13 表 8-4-2-8(2) 高等植物に係る重要な種確認一覧	(種名) タカネトリカブト オサバグサ トサミズキ	削除
p 8-4-2-14 表 8-4-2-8(3) 高等植物に係る重要な種確認一覧	(種名) ヨウラクツツジ	削除
p 8-4-2-16 表 8-4-2-8(5) 高等植物に係る重要な種確認一覧	(種名) シオン オオニガナ	削除
p 8-4-2-17 表 8-4-2-8(6) 高等植物に係る重要な種確認一覧	(種名) イヌカモジグサ ワタスゲ キエビネ	削除
p 8-4-2-18 表 8-4-2-8(7) 高等植物に係る重要な種確認一覧	(種名) ウスギムヨウラン フタバラン アリドオシラン	削除
	(計、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑫) 74科、222種、218種、83種、0種、1種、0種、6種、0種、85種、126種、118種、85種、0種	(計、科名、種名、文献、現地、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑫) <u>70科、206種、202種、84種、0種、1種、0種、6種、0種、86種、114種、112種、86種、0種</u>
p 8-4-2-37 表 8-4-2-11 予測対象種及び群落	(区分、種名及び群落名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性が高いと考え	(区分、種名及び群落名) 文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性が高いと考え

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>られる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (139種)、</p> <p>ミズスギ、スギラン、イヌカタヒバ、ミズニラ、チシマヒメドクサ、ヒメムカゴシダ、クジャクシダ、オクタマシダ、イチョウシダ、ミヤマシシガシラ、テバコワラビ、イワヤシダ、イヨクジャク、クラガリシダ、オオクボシダ、デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサ、ヤマモモ、ナガバノウナギツカミ、ノダイオウ、オグラセンノウ、タカネトリカブト、オキナグサ、ヒキノカサ、ノカラマツ、ジュンサイ、ヒメコウホネ、ヤマシャクヤク、アゼオトギリ、イシモチソウ、コモウセンゴケ、オサバグサ、コイヌガラシ、トサミズキ、イワレンゲ、ツメレンゲ、キバナハナネコノメ、ニッコウネコノメソウ、ヤワタソウ、タコノアシ、ヤシヤビシヤク、ナメラダイモンジソウ、ツチグリ、ハスノハイチゴ、ミヤマモミジイチゴ、ミヤマタニワタシ、タチフウロ、ノウルシ、ホソエカエデ、アケボノスミレ、ミズキカシグサ、サワゼリ、ウメガサソウ、サラサドウダン、イワナンテン、ホザキツリガネツツジ、ウラジロヨウラク、ヨウラクツツジ、アズマシャクナゲ、クリンソウ、コケリンドウ、フデリンドウ、ムラサキセンブリ、ミツガシワ、ガガブタ、クサナギオゴケ、タチガシワ、ハナムグラ、マメダオシ、タチキランソウ、ヤマジソ、セキヤノアキチヨウジ、ミゾコウジュ、ミヤマママコナ、ゴマノハグサ、イヌノフグリ、カワヂシヤ、タヌキモ、ヒメタヌキモ、イヌタヌキモ、コキンレイカ、カノコソウ、ツルギキョウ、バアソブ、イワヨモギ、シオン、リョウノウアザミ、ヒゴタイ、ムカシヨモギ、フジバカマ、アキノハハコグサ、ミズギク、カセンソウ、タカサゴソウ、カワラニガナ、ヤマタバコ、オオニガナ、サワオグルマ、オナモミ、スブタ、ヤナギスブタ、トチカガミ、ミズオオバコ、コバノヒルムシロ、ホッスモ、ソクシンラン、キイトラッキョウ、サクライソウ、アマナ、キツネノカミソリ、ヒメシャガ、カキツバタ、クロイヌノヒゲ、イヌカモジグサ、ヒメザゼンソウ、ナガエミクリ、サヤマスゲ、ワタスゲ、ヒナラン、イワチドリ、マメヅタラン、ナツエビネ、キエビネ、クマガイソウ、アツモリソウ、サワラン、ミズトンボ、ムヨウラン、ウスギムヨウラン、フタバラン、</p>	<p>られる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (123種)、</p> <p>ミズスギ、スギラン、ミズニラ、ヒメムカゴシダ、クジャクシダ、オクタマシダ、ミヤマシシガシラ、テバコワラビ、イワヤシダ、イヨクジャク、クラガリシダ、オオクボシダ、デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサ、ヤマモモ、ナガバノウナギツカミ、ノダイオウ、オキナグサ、ヒキノカサ、ノカラマツ、ジュンサイ、ヒメコウホネ、ヤマシャクヤク、アゼオトギリ、イシモチソウ、コモウセンゴケ、コイヌガラシ、イワレンゲ、ツメレンゲ、キバナハナネコノメ、ニッコウネコノメソウ、ヤワタソウ、タコノアシ、ヤシヤビシヤク、ナメラダイモンジソウ、ツチグリ、ハスノハイチゴ、ミヤマモミジイチゴ、ミヤマタニワタシ、タチフウロ、ノウルシ、ホソエカエデ、アケボノスミレ、ミズキカシグサ、サワゼリ、ウメガサソウ、サラサドウダン、イワナンテン、ホザキツリガネツツジ、ウラジロヨウラク、アズマシャクナゲ、クリンソウ、コケリンドウ、フデリンドウ、ムラサキセンブリ、ミツガシワ、ガガブタ、クサナギオゴケ、タチガシワ、ハナムグラ、マメダオシ、タチキランソウ、ヤマジソ、セキヤノアキチヨウジ、ミゾコウジュ、ミヤマママコナ、ゴマノハグサ、イヌノフグリ、カワヂシヤ、タヌキモ、ヒメタヌキモ、イヌタヌキモ、コキンレイカ、カノコソウ、ツルギキョウ、バアソブ、イワヨモギ、リョウノウアザミ、ヒゴタイ、ムカシヨモギ、フジバカマ、アキノハハコグサ、ミズギク、カセンソウ、タカサゴソウ、カワラニガナ、ヤマタバコ、サワオグルマ、オナモミ、スブタ、ヤナギスブタ、トチカガミ、ミズオオバコ、コバノヒルムシロ、ホッスモ、ソクシンラン、キイトラッキョウ、サクライソウ、アマナ、キツネノカミソリ、ヒメシャガ、カキツバタ、クロイヌノヒゲ、ヒメザゼンソウ、ナガエミクリ、サヤマスゲ、ヒナラン、イワチドリ、マメヅタラン、ナツエビネ、クマガイソウ、アツモリソウ、サワラン、ミズトンボ、ムヨウラン、ヒナチドリ、カモメラン、ウチヨウラン、トキソウ、マツラン、モミラン、クモラン</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	アリドオシラン、ヒナチドリ、カモメラン、ウチョウラン、トキシウ、マツラン、モミラン、クモラン	
p 8-4-2-39 表 8-4-2-12 (1) 重要な種の予測結果の概要	(13、シラヒゲソウ、生育環境への影響) 生育環境に変化は生じない	(13、シラヒゲソウ、生育環境への影響) <u>生育環境は保全される</u>
p 8-4-2-40 表 8-4-2-12 (2) 重要な種の予測結果の概要	(25、イヌセンブリ、生育環境への影響) 生育環境に変化は生じない	(25、イヌセンブリ、生育環境への影響) <u>生育環境は保全される</u>
	(28、スズメハコベ、生育環境への影響) 生育環境に変化は生じない	(28 スズメハコベ、生育環境への影響) <u>生育環境は保全される</u>
	(34、ムラサキミミカキグサ、生育環境への影響) 生育環境に変化は生じない	(34、ムラサキミミカキグサ、生育環境への影響) <u>生育環境は保全される</u>
	(41、ツクシクロイヌノヒゲ、生育環境への影響) 生育環境に変化は生じない	(41、ツクシクロイヌノヒゲ、生育環境への影響) <u>生育環境は保全される</u>
p 8-4-2-42 表 8-4-2-13(1) 重要な種の予測結果	(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。	(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・また、トンネルの工事により、 <u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種は、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	(予測結果、鉄道施設の存在) ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。	(予測結果、鉄道施設の存在) ・ <u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種は、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
p 8-4-2-43 表 8-4-2-13(3) 重要な種の予測結果	(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された2地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により、中津川市瀬戸・駒場地区(1地点)、多治見市西山町・大針町地区(1地点)において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・その他、本種が確認された8地点は改変の可能性のある範囲の近傍、51地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部	(予測結果、工事の実施) ・本種が確認された2地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により、中津川市瀬戸・駒場地区(1地点)、多治見市西山町・大針町地区(1地点)において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・その他、本種が確認された8地点は改変の可能性のある範囲の近傍、51地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市瀬戸・駒場地区、多治見市西山町・大針町地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 	<p>環境が広く分布するため、生育環境は保全される。</p> <p><u>・また、トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市瀬戸・駒場地区、多治見市西山町・大針町地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p><u>・鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-46 表 8-4-2-13(8)重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 17 地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により、中津川市瀬戸・駒場地区(6 地点)、中津川市千旦林地区(8 地点)、多治見市西山町・大針町地区(2 地点)において、生育環境の一部が消失する可能性があるが、同地区で改変の可能性のある範囲外にも本種が多数確認されており、周辺に同質の環境が広く分布すると考えられることから、同地区の生育環境は保全される。 ・その他、本種が確認された 15 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、114 地点以上は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 17 地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により、中津川市瀬戸・駒場地区(6 地点)、中津川市千旦林地区(8 地点)、<u>中津川市茄子川地区(1 地点)</u>、多治見市西山町・大針町地区(2 地点)において、生育環境の一部が消失する可能性があるが、同地区で改変の可能性のある範囲外にも本種が多数確認されており、周辺に同質の環境が広く分布すると考えられることから、同地区の生育環境は保全される。 ・その他、本種が確認された 15 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、<u>100 地点以上</u>は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>影響は及ばない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生育環境は保全されると予測する。 	<p><u>の影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-47 表 8-4-2-13(10)重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された2地点は改変の可能性のある範囲であった。そのため、工事の実施により、中津川市瀬戸・駒場地区(2地点)において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・その他、本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、21地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市瀬戸・駒場地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された2地点は改変の可能性のある範囲であった。そのため、工事の実施により、中津川市瀬戸・駒場地区(2地点)において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・その他、本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、21地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・<u>また、トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市瀬戸・駒場地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p><u>流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境は<u>保全される</u>と予測する。
<p>p 8-4-2-48 表 8-4-2-13(11) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲であった。 <p>そのため、工事の実施により、中津川市千旦林地区 (1 地点) において、生育環境の一部が消失する可能性があるが、同地区で改変の可能性のある範囲外にも本種が多数確認されており、周辺に同質の環境が広く分布すると考えられることから、同地区の生育環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、本種が確認された 3 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、31 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲であった。 <p>そのため、工事の実施により、中津川市千旦林地区 (1 地点) において、生育環境の一部が消失する可能性があるが、同地区で改変の可能性のある範囲外にも本種が多数確認されており、周辺に同質の環境が広く分布すると考えられることから、同地区の生育環境は保全される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、本種が確認された 3 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、31 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設 (トンネル) の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>p 8-4-2-49 表 8-4-2-13(12) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、5地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、5地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-49 表 8-4-2-13(13) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境は<u>保全される</u>と予測する。</p>
<p>p 8-4-2-52 表 8-4-2-13(18) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された 7 地点は改変の可能性のある範囲であった。</p> <p>そのため、工事の実施により、中津川市千旦林地区 (6 地点)、茄子川地区 (1 地点) において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。</p> <p>・その他、本種が確認された 5 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、63 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。</p> <p>・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。</p> <p>・したがって、中津川市千旦林地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された 7 地点は改変の可能性のある範囲であった。</p> <p>そのため、工事の実施により、中津川市千旦林地区 (6 地点)、茄子川地区 (1 地点) において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。</p> <p>・その他、本種が確認された 5 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、63 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。</p> <p>・また、トンネルの工事により、<u>破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <p>・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。</p> <p>・したがって、中津川市千旦林地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。</p>
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・<u>鉄道施設 (トンネル) の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <p>・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>
<p>p 8-4-2-53 表 8-4-2-13(19) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された 2 地点は改変の可能性のある範囲であった。</p> <p>そのため、工事の実施により、中津川市山口地区 (1 地点)、多治見市西山町・大針町地区 (1 地点) において、主な生育環</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された 2 地点は改変の可能性のある範囲であった。</p> <p>そのため、工事の実施により、中津川市山口地区 (1 地点)、多治見市西山町・大針町地区 (1 地点) において、主な生育環</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>境の一部が消失する可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、本種が確認された2地点は改変の可能性のある範囲の近傍、19地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市山口地区、多治見市西山町・大針町地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があると予測する。 	<p>の一部が消失する可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、本種が確認された2地点は改変の可能性のある範囲の近傍、19地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市山口地区、多治見市西山町・大針町地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があると予測する。
<p>p 8-4-2-54 表 8-4-2-13(20) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p><u>流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-2-56 表 8-4-2-13(25) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-2-57 表 8-4-2-13(27) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であり、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 ・そのため、工事の実施により、<u>中津川市瀬戸・駒場地区(1地点)において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。</u> ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p><u>流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、<u>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</u> ・したがって、<u>生育環境は保全されると予測する。</u>
<p>p 8-4-2-58 表 8-4-2-13(28) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 11 地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 11 地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・したがって、<u>生育環境は保全されると予測する。</u> <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、<u>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</u> ・したがって、<u>生育環境は保全されると予測する。</u>
<p>p 8-4-2-58 表 8-4-2-13(29) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 3 地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 3 地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・したがって、<u>生育環境に変化は生じないと予測する。</u> <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>ばない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-59 表 8-4-2-13(31) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、7 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、7 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-2-60 表 8-4-2-13(32) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 3 地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市千旦林地区 (2 地点)、茄子川地区 (1 地点) において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・その他、本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、18 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 3 地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市千旦林地区 (2 地点)、茄子川地区 (1 地点) において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・その他、本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、18 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多く</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>影響は及ばない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、中津川市千旦林地区、茄子川地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p><u>は、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市千旦林地区、茄子川地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-61 表 8-4-2-13(33) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市茄子川地区(1地点)において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・その他、本種が確認された11地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市茄子川地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 そのため、工事の実施により中津川市茄子川地区(1地点)において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・その他、本種が確認された11地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・また、トンネルの工事により、<u>破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、中津川市茄子川地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p><u>流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-62 表 8-4-2-13 (34) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-2-64 表 8-4-2-13 (38) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 5 地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 5 地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<ul style="list-style-type: none"> ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p><u>水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-65 表 8-4-2-13(40) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、20 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、20 地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道施設（トンネル）の存在により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-65 表 8-4-2-13(41) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された 1 地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。 ・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・したがって、生育環境は保全されると予

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
<p>p 8-4-2-66 表 8-4-2-13(43) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であり、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 ・そのため、工事の実施により、<u>中津川市千旦林地区（1地点）において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。</u> ・また、<u>トンネルの工事により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種は、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種は、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u> ・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
<p>p 8-4-2-67 表 8-4-2-13(44) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 ・そのため、工事の実施により可児市久々利地区（1地点）において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。 	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲であった。 ・そのため、工事の実施により可児市久々利地区（1地点）において、主な生育環境の一部が消失する可能性がある。

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>・その他、本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、4地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。</p> <p>・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。</p> <p>・したがって、可児市久々利地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。</p>	<p>・その他、本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、4地点は相当離れた地域であり、生育環境の一部が縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境は保全される。</p> <p>・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u></p> <p>・また、工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから、本種の生育環境への影響は及ばない。</p> <p>・したがって、可児市久々利地区の一部地域において、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。</p>
<p>p 8-4-2-67 表 8-4-2-13(45) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同質の生育環境が広く分布するため、生育環境への影響は小さい。</u></p> <p>・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境は保全されると予測する。</p>
	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された2地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された2地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</p> <p>・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>
	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>	<p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <p>・また、工事の実施による生育環境の改変</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>
<p>p 8-4-2-72 表 8-4-2-13(55) 重要な種の予測結果</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された7地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>	<p>(予測結果、工事の実施)</p> <p>・本種が確認された7地点はすべて相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</p> <p>・また、トンネルの工事により、<u>破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p> <p>(予測結果、鉄道施設の存在)</p> <p>・<u>鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、本種の多くは、表層の地下水による湧水及び雨水起源の土壌水により生育していると考えられることから、生育環境への影響は及ばない。</u></p> <p>・また、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</p> <p>・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。</p>
<p>p 8-4-2-75 イ) 文献でのみ記載がある重要な種及び群落の生育環境への影響</p>	<p>文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった重要な種は139種であった。また、重要な群落は確認されなかった。</p> <p>工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置)又は鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の存在により、重要な種の生育環境の一部が消失、縮小する可能性が考えられるが、周辺に同質の生育環境が広く分布すること、工事に伴う排水は必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから生育環境の消失、縮小は一部に留められる。また、対象事業実施区域及びその周囲の多くの植物は雨水起源の土壌水で生育していると考えられるため、地下水位の変化による生育環境への影響は及ばない。</p>	<p>文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった重要な種は123種であった。また、重要な群落は確認されなかった。</p> <p><u>予測対象種は、ミズスギ、スギラン、ミズニラ、ヒメムカゴシダ、クジャクシダ、オクタマシダ、ミヤマシシガシラ、テバコワラビ、イワヤシダ、イヨクジャク、クラガリシダ、オオクボシダ、デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサ、ヤマモモ、ナガバノウナギツカミ、ノダイオウ、オキナグサ、ヒキノカサ、ノカラマツ、ジュンサイ、ヒメコウホネ、ヤマシャクヤク、アゼオトギリ、イシモチソウ、コモウセンゴケ、コイヌガラシ、イワレンゲ、ツメレンゲ、キバナハナネコノメ、ニッコウネコノメソウ、ヤワタソウ、タコノアシ、ヤシャビシヤク、ナメラダイモンジソウ、ツチグリ、ハスノハイチゴ、ミヤマモミジイチゴ、</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>ミヤマタニワタシ、タチフウロ、ノウルシ、ホソエカエデ、アケボノスミレ、ミズキカシグサ、サワゼリ、ウメガサソウ、サラサドウダン、イワナンテン、ホザキツリガネツツジ、ウラジロヨウラク、アズマシヤクナゲ、クリンソウ、コケリンドウ、フデリンドウ、ムラサキセンブリ、ミツガシワ、ガガブタ、クサナギオゴケ、タチガシワ、ハナムグラ、マメダオシ、タチキランソウ、ヤマジソ、セキヤノアキチョウジ、ミゾコウジュ、ミヤマママコナ、ゴマノハグサ、イヌノフグリ、カワヂシャ、タヌキモ、ヒメタヌキモ、イヌタヌキモ、コキンレイカ、カノコソウ、ツルギキョウ、バアソブ、イワヨモギ、リョウノウアザミ、ヒゴタイ、ムカシヨモギ、フジバカマ、アキノハハコグサ、ミズギク、カセンソウ、タカサゴソウ、カワラニガナ、ヤマタバコ、サワオグルマ、オナモミ、スブタ、ヤナギスブタ、トチカガミ、ミズオオバコ、コバノヒルムシロ、ホッスモ、ソクシンラン、キイトラッキョウ、サクライソウ、アマナ、キツネノカミソリ、ヒメシャガ、カキツバタ、クロイヌノヒゲ、ヒメザゼンソウ、ナガエミクリ、サヤマスゲ、ヒナラン、イワチドリ、マメヅタラン、ナツエビネ、クマガイソウ、アツモリソウ、サワラン、ミズトンボ、ムヨウラン、ヒナチドリ、カモメラン、ウチョウラン、トキシウ、マツラン、モミラン、クモランの 123 種である。</p> <p>スギラン、ヒメムカゴシダ、クジャクシダ、オクタマシダ、ミヤマシシガシラ、テバコワラビ、イワヤシダ、クラガリシダ、オオクボシダ、ヤマモモ、ヤマシヤクヤク、ヤシヤビシヤク、ハスノハイチゴ、ミヤマモミジイチゴ、ミヤマタニワタシ、ホソエカエデ、アケボノスミレ、ウメガサソウ、サラサドウダン、ホザキツリガネツツジ、ウラジロヨウラク、アズマシヤクナゲ、クリンソウ、クサナギオゴケ、タチガシワ、タチキランソウ、セキヤノアキチョウジ、ミヤマママコナ、ツルギキョウ、バアソブ、リョウノウアザミ、サクライソウ、キツネノカミソリ、ヒメシャガ、サヤマスゲ、マメヅタラン、ナツエビネ、クマガイソウ、アツモリソウ、ムヨウラン、ヒナチドリ、カモメラン、マツラン、モミラン、クモランの 45 種は、山地、里地・里山の樹林及び林縁等が主な生育環境である。この内、スギラン、オクタマシダ、ヤシヤビシヤク、マメヅタラン、ヒナチドリ、マツラン、モミラン、クモランの 8 種は樹木の枝や樹幹等に着生する植物である。</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>ノダイオウ、オキナグサ、ノカラマツ、アゼオトギリ、ツチグリ、タチフウロ、コケリンドウ、フデリンドウ、ムラサキセンブリ、マメダオシ、ヤマジソ、ゴマノハグサ、イヌノフグリ、カノコソウ、ヒゴタイ、フジバカマ、アキノハハコグサ、タカサゴソウ、オナモミ、ソクシンラン、アマナの21種は、山地、里地・里山の路傍、河川敷等の草原、草地等が主な生育環境である。ミズスギ、ミズニラ、イヨクジャク、デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサ、ナガバノウナギツカミ、ヒキノカサ、ジュンサイ、ヒメコウホネ、イシモチソウ、コモウセンゴケ、コイヌガラシ、キバナハナネコノメ、ニッコウネコノメソウ、ヤワタソウ、タコノアシ、ノウルシ、ミズキカシグサ、サワゼリ、ミツガシロ、ガガブタ、ハナムグラ、ミゾコウジュ、カワヂシャ、タヌキモ、ヒメタヌキモ、イヌタヌキモ、ミズギク、カセンソウ、ヤマタバコ、サワオグルマ、スブタ、ヤナギスブタ、トチカガミ、ミズオオバコ、コバノヒルムシロ、ホッスモ、カキツバタ、クロイヌノヒゲ、ヒメザゼンソウ、ナガエミクリ、ヒナラン、イワチドリ、サワラン、ミズトンボ、ウチヨウラン、トキシソウの48種は、山地、里地・里山の沢、池沼、湿地、水田等の水域や水辺周辺が主な生育環境である。また、イワレンゲ、ツメレンゲ、ナメラダイモンジソウ、イワナンテン、コキンレイカ、イワヨモギ、ムカシヨモギ、カワラニガナ、キイトラッキョウの9種は、山地、里地・里山の岩壁、砂礫地等が主な生育環境である。</u></p> <p><u>このため、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在により、重要な種の生育環境の一部が消失、縮小する可能性が考えられるが、周辺に同質の生育環境が広く分布すること、工事に伴う排水は必要に応じて沈砂池、濁水処理設備を配置し、処理することから生育環境の消失、縮小は一部に留められる。また、対象事業実施区域及びその周囲の多くの植物は雨水起源の土壌水で生育していると考えられるため、地下水位の変化による生育環境への影響は及ばない。</u></p>
p 8-4-2-77 ア. 環境保全措置の検討の状況	本事業では、計画の立案の段階において、植物に係る環境影響を回避又は低減するため「重要な種の生育環境の全体又	本事業では、計画の立案の段階において、植物に係る環境影響を回避又は低減するため「重要な種の生育環境の全体又は一

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>は一部を回避」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」及び「工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施」について検討した。さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による植物に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。</p> <p>環境保全措置の検討の状況を表8-4-2-14に示す。</p>	<p>部を回避」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」及び「工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施」について検討した。さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による植物に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。</p> <p><u>検討にあたっては、「重要な種の生育環境の全体又は一部を回避」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」を基本とした上で、さらに影響を低減させる措置を実施する。また、その結果を踏まえ、必要な場合には、損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を検討した。</u></p> <p>環境保全措置の検討の状況を表8-4-2-14に示す。</p> <p><u>なお、工事計画を検討するにあたっては、重要な種の生育状況及び専門家の助言を踏まえ、環境影響を可能な限り回避又は低減した上で、必要な場合には損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を講じていく。</u></p>
<p>p 8-4-2-78 表 8-4-2-14(1)環境保全措置の検討の状況</p>	<p>（工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由） 生育環境の変更をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</p> <p>（外来種の拡大抑制、適否の理由） 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努めることで、外来種の拡大を抑制できることから、環境保全措置として採用する。</p> <p>（環境保全措置） 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施</p> <p>（工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施、適否の理由） 変更する区域の一部に工事の実施に際し使用した工事施工ヤード等の林縁の保護植栽を図ることにより、林内環境への影</p>	<p>（工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、適否の理由） <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、重要な種の生育環境の変更をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p> <p>（外来種の拡大抑制、適否の理由） 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。<u>また、作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p> <p>（環境保全措置） 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施</p> <p>（工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、適否の理由） 変更する区域の一部に工事の実施に際し、<u>周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや適切に</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>響を軽減し、重要な種の生育環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生育環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</p>
	<p>—</p>	<p>以下を追記 (環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (保全対象種) <u>トンネルからの湧水を放流する河川を生育環境とする保全対象種全般</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、水辺の植物の生育環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
	<p>(重要な種の移植・播種、適否の理由) 重要な種を移植・播種することで、種の消失による影響を代償できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>(重要な種の移植・播種、適否の理由) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種への影響を代償することができることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
<p>p 8-4-2-79 表 8-4-2-14(2) 環境保全措置の検討の状況</p>	<p>(重要な種の生育環境の創出、適否の理由) 重要な種の生育環境を創出することにより、重要な種の生育環境を代償できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>(重要な種の生育環境の創出、適否の理由) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失する場合は代償措置として、消失する環境の近傍においては、湿地、草地、水の流れ及びたまり場を確保するとともに、水際には在来種の湿生植物を植栽した生育環境を創出することで、重要な種への影響を代償することができることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
<p>p 8-4-2-79 イ. 環境保全措置の実施主体、方法その他環境保全措置の実施の内容</p>	<p>本事業では、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘削式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による植物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「重要な種の生育環境の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」、「重要な種の生育環境の創出」、</p>	<p>本事業では、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘削式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による植物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「重要な種の生育環境の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」、「<u>外来種の拡大抑制</u>」、「<u>工事従業者への講習</u>」</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>「工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施」、「重要な種の移植・播種」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」、「工事従業者への講習・指導」及び「外来種の拡大抑制」を実施する。</p>	<p>指導」、「工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」、「放流時の放流箇所及び水温の調整」、「重要な種の移植・播種」及び「重要な種の生育環境の創出」を実施する。</p> <p>なお、「重要な種の移植・播種」にあたっては、<u>専門家の助言を踏まえ、対象種ごとに、移植・播種の場所、時期、方法、監視方法等を含む実施計画を作成のうえ、実施する。</u></p> <p>また、工事排水の排出先となる河川においては、<u>モニタリングを実施し、排水による影響を監視していく計画としている。</u></p>
<p>p 8-4-2-79 表 8-4-2-15(2) 環境保全措置の内容</p>	<p>(環境保全措置の効果) 生育環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。</p>	<p>(環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、生育環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。</u></p>
<p>p 8-4-2-80 表 8-4-2-15(3) 環境保全措置の内容</p>	<p>(環境保全措置の効果) 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努めることで、外来種の拡大を抑制できる。</p>	<p>(環境保全措置の効果) 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。また、<u>作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できる。</u></p>
<p>p 8-4-2-80 表 8-4-2-15(5) 環境保全措置の内容</p>	<p>(種類・方法) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施</p> <p>(環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に林縁保護植栽等を凶ることで、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生育環境への影響を低減できる。</p>	<p>(種類・方法) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施</p> <p>(環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に<u>工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を凶り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生育環境への影響を低減できる。</u></p>
<p>p 8-4-2-81 表 8-4-2-15(7) 環境保全措置の内容</p>	<p>—</p>	<p>追記</p>
<p>p 8-4-2-81 表 8-4-2-15(8) 環境保全措置の内容</p>	<p>(環境保全措置の効果) 鉄道施設（非常口（山岳部）、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の位置や形状の観点から、そこに生育する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境（植生、光及び水分等の条件等）を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種の生育環境への影響を代償することができ</p>	<p>(環境保全措置の効果) 鉄道施設（非常口（山岳部）、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の位置や形状の観点から、<u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境（植生、光及び水分等の条件）を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種への影響を代償する</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>る。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</p>	<p>ことができる。<u>なお、重要な種の移植・播種は工事实施前に対象個体を確定し、生育環境の詳細な調査（コドラート調査等）を実施した上で、専門家の技術的助言を踏まえながら、対象種に係る移植・播種地や手法等の検討を行う。また、移植・播種後においても、生育状況の確認を行うことから、効果が期待できる。</u></p>
<p>p 8-4-2-81 表 8-4-2-15(9)環境保全措置の内容</p>	<p>(環境保全措置の効果) 車両基地の位置や形状の観点から、そこに生育する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍においては、湿地、草地、水の流れ及びたまり場を確保するとともに、水際には在来種の湿生植物を植栽した生育環境を創出することで、重要な種への影響を代償することができる。なお、生育環境の創出は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</p>	<p>(環境保全措置の効果) 車両基地の位置や形状の観点から、<u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍においては、湿地、草地、水の流れ及びたまり場を確保するとともに、水際には在来種の湿生植物を植栽した生育環境を創出することで、重要な種への影響を代償することができる。</u>なお、生育環境の創出は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</p>
<p>p 8-4-2-82 イ. 事後調査の項目及び手法</p>	<p>実施する事後調査の内容を表 8-4-2-16 に示す。</p>	<p>実施する事後調査の内容を表 8-4-2-16 に示す。 <u>なお、移植の事例については「資料編 15-4 重要な種の移植・播種の手法」に示すとおりである。また、クロホシクサの移植にあたっては、今後、有識者の指導を受けて段階的な試行も取り入れて行うことを考えている。</u></p>
<p>p 8-4-2-82 ウ. 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針</p>	<p>事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、専門家の助言を踏まえ、その原因の把握に努めるとともに改善を図るものとする。</p>	<p>事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、<u>その原因の把握に努めるとともに、専門家の助言も踏まえ、必要な場合には種の特性に合わせた改変時期の設定や改変期間の短縮についても検討し、改善を図るものとする。</u></p>
<p>p 8-4-2-83 ア) 回避又は低減に係る評価</p>	<p>一部の種は、保全されない可能性があるとして予測されたが、重要な種の生育環境の創出、重要な種の移植・播種及び工事従事者への講習・指導等の環境保全措置を実施することで、影響の回避又は低減に努める。 なお、重要な種の生育環境の創出、重要な種の移植・播種は、環境保全措置の効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家の助言を踏まえて、別途対策を検討する。</p>	<p>一部の種は、保全されない可能性があるとして予測されたが、<u>「工事従事者への講習・指導」、「重要な種の移植・播種」及び「重要な種の生育環境の創出」等の環境保全措置を実施することで、影響の回避又は低減に努める。</u> なお、「<u>重要な種の移植・播種</u>」、「<u>重要な種の生育環境の創出</u>」は、環境保全措置の効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家の助言を踏まえて、別途対策を検討する。</p>
<p>p 8-4-3-22 b) 注目種等の選定</p>	<p>表 8-4-3-5 で示した地域を特徴づける生態系の状況を踏まえ、表 8-4-3-6 における注目種等の選定の観点により表 8-4-3-7 に示す注目種等を選定した。</p>	<p>表 8-4-3-5 で示した地域を特徴づける生態系の状況を踏まえ、表 8-4-3-6 における注目種等の選定の観点により表 8-4-3-7 に示す注目種等を選定した。 <u>なお、注目種は異なる生態系区分において、それぞれ上位性、典型性、特殊性の観</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>点から該当する生態系区分を指標する種を選定しており、双方の生態系区分において確認されている場合において必ずしも双方において注目種とならない場合がある。</p>
<p>P8-4-3-35 ウ. 予測地域</p>	<p>予測地域は、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）又は鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在に係る注目種等のハビタット（生息・生育環境）に係る影響を受けるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。</p>	<p>予測地域は、工事の実施（<u>建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置</u>）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在に係る注目種等のハビタット（生息・生育環境）に係る影響を受けるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。</p>
<p>p 8-4-3-71 ⑥ヒメタイコウチのハビタット（生息環境）の状況</p>	<p>予測評価の対象とした本種のハビタットは、予測範囲において繁殖・生息可能性エリアが、12.2ha 存在し、この内、工事の実施及び鉄道施設の存在により、0.8ha(6.2%)が改変の可能性のある範囲であった。</p>	<p>予測評価の対象とした本種のハビタットは、予測範囲において繁殖・生息可能性エリアが、12.2ha 存在し、この内、工事の実施及び鉄道施設の存在により、0.8ha(6.6%)が改変の可能性のある範囲であった。</p>
<p>p 8-4-3-71 表 8-4-3-39 ヒメタイコウチの予測範囲におけるハビタット分布面積と改変の程度</p>	<p>(B/A (%)) 6.2</p>	<p>(B/A (%)) 6.6</p>
<p>p 8-4-3-92 ア. 環境保全措置の検討の状況</p>	<p>本事業では、計画の立案の段階において、生態系に係る環境影響を回避又は低減するため「注目種等の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」、「資材運搬等の適正化」、「防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」及び「工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施」について検討した。さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）又は鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による生態系に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。</p>	<p>本事業では、計画の立案の段階において、生態系に係る環境影響を回避又は低減するため「注目種等の生息・生育地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」、「資材運搬等の適正化」、「<u>工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施</u>」、「<u>汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置</u>」及び「防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用」について検討した。さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による生態系に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、表 8-4-3-56 に示す注目種等及び「8-4-1 動物」、「8-4-2 植物」における保全対象種を対象に、環境保全措置の検討を行った。</p> <p>検討にあたっては、「<u>注目種等の生息・生育地の全体又は一部を回避</u>」、「<u>工事に伴う改変区域をできる限り小さくする</u>」を基本とした上で、さらに影響を低減させる</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		措置を実施する。また、その結果を踏まえ、 <u>必要な場合には、損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を検討した。</u>
p 8-4-3-92 表 8-4-3-56 環境保全措置の検討対象とする注目種等の選定	—	追記
p 8-4-3-93 表 8-4-3-57(1) 環境保全措置の検討の状況	(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、適否の理由) 注目種等の生息・生育地への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。	(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、適否の理由) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う改変区域をできる限り小さくすることで、注目種等の生息・生育地への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>外来種の拡大抑制</u> (保全対象種) — (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな</u> <u>在来種による緑化等に努める。また、作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
	(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施	(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施
	(工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施、適否の理由) 改変する区域の一部に工事の実施に際し使用した工事施工ヤード等の林縁の保護植栽をを図ることにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息・生育環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。	(工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、適否の理由) <u>改変する区域の一部に工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息・生育環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u>
	(汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置、保全対象種) 保全対象種	(汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置、保全対象種) <u>コガタブチサンショウウオ、コガムシ、マツカサガイ、ヒラヒダリマキマイマイ、サクラバハシノキ、カザグルマ、ハナノキ、ミズマツバ、ミズトラノオ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、クロホシクサ、ヒメコヌカグサ</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	—	<p>以下を追記 (環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (保全対象種) <u>トンネルからの湧水を放流する河川を生息・生育環境とする保全対象種全般</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流すること、水辺の動植物の生息・生育環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
<p>p 8-4-3-94 表 8-4-3-57(2)環境保全措置の検討の状況</p>	<p>(照明の漏れ出しの抑制、保全対象種) 保全対象種</p> <p>(照明の漏れ出しの抑制、適否の理由) 走光性の昆虫類などへの影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</p> <p>(防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用、保全対象種) オオタカ</p> <p>(コンディショニングの実施、保全対象種) オオタカ</p> <p>(重要な種の移植・播種、保全対象種) 保全対象種</p> <p>(重要な種の移植・播種、適否の理由) 重要な種の生息・生育環境への影響を代償できることから、環境保全措置として採用する。</p>	<p>(照明の漏れ出しの抑制、保全対象種) <u>コガタブチサンショウウオ、コガムシ</u></p> <p>(照明の漏れ出しの抑制、適否の理由) <u>専門家の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けられないような配慮による漏れ光の抑制、昆虫類等の誘引効果が少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行うこと、走光性の重要な昆虫類等の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。</u></p> <p>(防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用、保全対象種) <u>ハチクマ、オオタカ、サシバ</u></p> <p>(コンディショニングの実施、保全対象種) <u>ハチクマ、オオタカ、サシバ</u></p> <p>(重要な種の移植・播種、保全対象種) <u>コガタブチサンショウウオ、コガムシ、マツガサガイ、ヒラヒダリマキマイマイ、サクラバハンノキ、カザグルマ、カキノハグサ、ハナノキ、ミズマツバ、イブキボウフウ、スズサイコ、ミズトラノオ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、キキョウ、クロホシクサ、ヒメコヌカグサ、キンラン</u></p> <p>(重要な種の移植・播種、適否の理由) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息・生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植・播種を行うこと、重要な種の生息・生育環境や個体への影響を代償することができることから、環境保全措置として採用する。</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	—	<p>以下を追記 (環境保全措置) <u>重要な種の生育環境の創出</u> (保全対象種) <u>ミミカキグサ、キキョウ、クロホシクサ</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍においては、湿地、草地、水の流れ及びたまり場を確保するとともに、水際には在来種の湿生植物を植栽した生育環境を創出することで、重要な種への影響を代償することができることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
	—	<p>以下を追記 (環境保全措置) <u>代替巣等の設置</u> (保全対象種) <u>ハチクマ、サシバ</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息するハチクマ、サシバの生息環境の一部が、やむを得ず消失する場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境に代替巣を設置することで、生息環境への影響を代償することができることから、環境保全措置として採用する。</u></p>
p 8-4-3-94 ア. 環境保全措置の検討の状況	—	<p>なお、両生類、爬虫類のうち、一部の冬眠する注目種については、過去の事例や専門家の意見も踏まえ、確認位置から注目種の生息地の分布範囲を推定し、<u>改変の可能性のある範囲との関係から、一部改変の可能性のある範囲で確認されるものの殆どは同質の生息環境が広がり、地域個体群に影響を与える程度ではなく、種として生息環境は保全されると予測している。</u>一方で、<u>同質の生息環境が限られている場合は一部保全されないものと予測し、該当する注目種に対しては工事前に移植や生息環境の創出などの環境保全措置を実施する。</u>個体レベルでの影響については、<u>環境保全措置である「工事に伴う改変地域をできる限り小さくする」や「工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施」などを実施することで、改変の可能性のある範囲で確認され</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>ている個体への影響の低減を図るが、今後、事業計画を具体的に検討する段階において、必要に応じて専門家の助言を受け、さらに検討を進める。</p> <p>また、工事計画を検討するにあたっては、注目種等の生息・生育状況及び専門家の助言を踏まえ、環境影響を可能な限り回避又は低減した上で、必要な場合には損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を講じていく。</p>
<p>p 8-4-3-95 イ. 環境保全措置の実施主体、方法その他環境保全措置の実施の内容</p>	<p>本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）又は鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による生態系に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「注目種等の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」、「資材運搬等の適正化」、「防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用」、「重要な種の移植・播種」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」、「工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施」、「照明の漏れ出しの抑制」、「コンディショニングの実施」及び「工事従業者への講習・指導」を実施する。</p>	<p>本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤードの設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の存在による生態系に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「注目種等の生息・生育地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う変更区域をできる限り小さくする」、「外来種の拡大抑制」、「工事従業者への講習・指導」、「資材運搬等の適正化」、「工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施」、「汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置」、「放流時の放流箇所及び水温の調整」、「照明の漏れ出しの抑制」、「防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用」、「コンディショニングの実施」、「重要な種の移植・播種」、「重要な種の生育環境の創出」及び「代替巣等の設置」を実施する。</p> <p>なお、「重要な種の移植」にあたっては、専門家の助言を踏まえ、対象種ごとに、移植の場所、時期、方法、監視方法等を含む実施計画を作成のうえ、実施する。また、「代替巣等の設置」については複数の巣を競合するという知見もあるため、今後の継続調査の結果や専門家の意見を踏まえ、詳細な設置検討を行っていく。</p> <p>さらに、工事排水の排出先となる河川においては、モニタリングを実施し、排水による影響を監視していく計画としている。</p>
<p>p 8-4-3-96 表 8-4-3-58(2)環境保全措置の内容</p>	<p>（環境保全措置の効果） 工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、注目種等の生息・生育地への影響を回避又は低減できる。</p>	<p>（環境保全措置の効果） 工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、注目種等の生息・生育地への影響を回避又は低減できる。</p>
<p>p 8-4-3-96 表 8-4-3-58(3)環境保全措置の内容</p>	<p>—</p>	<p>追記</p>
<p>p 8-4-3-97 表 8-4-3-58(6)環境保</p>	<p>（種類・方法） 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施</p>	<p>（種類・方法） 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
全措置の内容		施
	(環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に林縁保護植栽等を 図ることで、林内環境への影響を軽減し、 重要な種の生息・生育環境への影響を低 減できる。	(環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に <u>工事の実施に際し、 周辺の植生を考慮した上で、使用した工事 施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に 管理しながら林縁保護植栽等を図り、その 効果を確認することにより、林内環境への 影響を軽減し、重要な種の生息・生育環境 への影響を低減できる。</u>
p 8-4-3-97 表 8-4-3-58(7)環境保 全措置の内容	(保全対象種) 保全対象種	(保全対象種) <u>コガタブチサンショウウオ、コガムシ、マ ツカサガイ、ヒラヒダリマキマイマイ、サ クラバハンノキ、カザグルマ、ハナノキ、 ミズマツバ、ミズトラノオ、ミミカキグサ、 ホザキノミミカキグサ、クロホシクサ、ヒ メコヌカグサ</u>
p 8-4-3-97 表 8-4-3-58(8)環境保 全措置の内容	—	追記
p 8-4-3-98 表 8-4-3-58(9)環境保 全措置の内容	(保全対象種) 保全対象種	(保全対象種) <u>コガタブチサンショウウオ、コガムシ</u>
	(位置・範囲) 工事施工箇所	(位置・範囲) <u>山岳部における工事施工箇所及び鉄道施 設</u>
	(時期・期間) 工事中	(時期・期間) 工事中 <u>供用時</u>
	(環境保全措置の効果) 照明の漏れ出しを抑制することで、走光 性の昆虫類などへの影響を低減できる。	(環境保全措置の効果) <u>専門家の助言を得つつ、設置する照明につ いては、極力外部に向けないような配慮に よる漏れ光の抑制、昆虫類の誘引効果が少 ない照明の採用、適切な照度の設定等を行 うとともに、管理上支障のない範囲で夜間 は消灯するなど点灯時間への配慮を行う ことで、走光性の重要な昆虫類等の生息環 境への影響を低減できる。</u>
	(効果の不確実性) なし	(効果の不確実性) <u>あり</u>
p 8-4-3-98 表 8-4-3-58(10)環境 保全措置の内容	(保全対象種) オオタカ	(保全対象種) <u>ハチクマ、オオタカ、サシバ</u>
p 8-4-3-98 表 8-4-3-58(11)環境 保全措置の内容	(保全対象種) オオタカ	(保全対象種) <u>ハチクマ、オオタカ、サシバ</u>
p 8-4-3-99 表 8-4-3-58(12)環境 保全措置の内容	(保全対象種) 保全対象種	(保全対象種) <u>コガタブチサンショウウオ、コガムシ、マ ツカサガイ、ヒラヒダリマキマイマイ、サ クラバハンノキ、カザグルマ、カキノハグ サ、ハナノキ、ミズマツバ、イブキボウフ ウ、スズサイコ、ミズトラノオ、ミミカキ グサ、ホザキノミミカキグサ、キキョウ、 クロホシクサ、ヒメコヌカグサ、キンラン</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(環境保全措置の効果) 鉄道施設(非常口(山岳部)、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の位置や形状の観点から、そこに生息・生育する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種の生息・生育環境への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</p>	<p>(環境保全措置の効果) 鉄道施設(非常口(山岳部)、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の位置や形状の観点から、<u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で</u>、そこに生息・生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種の生息・生育環境や<u>個体への影響を代償</u>することができる。<u>なお、重要な種の移植・播種は工事実施前に対象個体を確定し、生息・生育環境の詳細な調査(コドラート調査等)を実施した上で、専門家の技術的助言を踏まえながら、対象種に係る移植・播種地や手法等の検討を行う。また、移植・播種後においても、生育状況の確認を行うことから、効果が期待できる。</u></p>
p 8-4-3-99 表 8-4-3-58(13) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-4-3-99 表 8-4-3-58(14) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-4-3-101 ア. 事後調査を行うこととした理由	しかし、オオタカの一部の環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。	しかし、 <u>注目種であるオオタカなど</u> の一部の環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。
p 8-4-3-101 表 8-4-3-59 事後調査の概要	(調査項目) オオタカの生息状況調査 (里地・里山の生態系：中津川市千旦林地区)	(調査項目) <u>ハチクマ、オオタカ※、サシバの生息状況</u> (<u>※里地・里山の生態系の注目種</u>)
	—	以下を追記 (ハチクマ、オオタカ、サシバの生息状況、 <u>実施主体</u>) <u>東海旅客鉄道株式会社</u>
	—	以下を追記 (調査項目) <u>照明の漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況</u> (調査内容) <u>○調査時期・期間</u> <u> 工事中及び工事完了後</u> <u>○調査地域・地点</u> <u> 山岳部における工事施工ヤードや供用時の各種施設等における照明設置場所及びその周辺</u> <u>○調査方法</u> <u> 任意観察等による生息状況の確認</u> <u>※専門家の助言を踏まえながら実施する。</u> (実施主体) <u>東海旅客鉄道株式会社</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>(調査項目) <u>移植した動物の生息状況</u> <u>移植・播種した植物の生育状況</u> (調査内容) ○調査時期・期間 <u>各種の生活史及び生息・生育特性等に応じて設定</u> ○調査地域・地点 <u>移植・播種を講じた動植物の生息・生育地周辺及び移植先生息・生育地</u> ○調査方法 <u>現地調査(任意観察)による確認</u> <u>※専門家の助言を踏まえながら実施する。</u> (実施主体) <u>東海旅客鉄道株式会社</u></p> <p>(調査項目) <u>創出した生育環境の状況</u> (調査内容) ○調査時期・期間 <u>各種の生活史及び生育特性等に応じて設定</u> ○調査地域・地点 <u>対象種について創出した生育環境地</u> ○調査方法 <u>現地調査(任意観察)による確認</u> <u>※専門家の助言を踏まえながら実施する。</u> (実施主体) <u>東海旅客鉄道株式会社</u></p>
<p>p 8-4-3-102 ウ. 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針</p>	<p>事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、専門家の助言を踏まえ、その原因の把握に努めるとともに改善を図るものとする。</p>	<p>事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、<u>その原因の把握に努めるとともに、専門家の助言も踏まえ、必要な場合には種の特性に合わせた</u><u>改変時期の設定や改変期間の短縮についても検討し、改善を図るものとする。</u></p>
<p>p 8-4-3-103 ア)回避又は低減に係る評価</p>	<p>一部の注目種は、生息・生育環境の一部が保全されない可能性があるとして予測されたが、低騒音・低振動型の建設機械の使用等の環境保全措置を実施することで、影響の回避又は低減に努める。 なお、注目種に係る環境保全措置は、その効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家の助言を踏まえて、別途対策を検討する。</p>	<p>一部の注目種は、生息・生育環境の一部が保全されない可能性があるとして予測されたが、低騒音・低振動型の建設機械の使用等の環境保全措置を実施することで、影響の回避又は低減に努める。<u>さらに、列車の走行に関する騒音等が野生動物に及ぼす影響に関しては、現時点で十分な知見が蓄積されていないが、影響の把握や環境保全措置等について、整備新幹線での対応状況もみながら検討を進めていく。</u> なお、注目種に係る<u>一部の環境保全措置は、その効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家の助言を踏まえて、別途対策を検討する。</u></p>
<p>p 8-5-2-17 表 8-5-2-4 環境保全措</p>	<p>(鉄道施設の形状等の工夫による周辺景観への調和の配慮、環境保全措置の検討</p>	<p>(鉄道施設の形状等の工夫による周辺景観への調和の配慮、環境保全措置の検討結</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
置の検討の状況	結果) 鉄道施設の形状等の工夫による周辺景観への調和に配慮することで、快適性への影響を低減する効果があることから、環境保全措置として採用する。	果) 鉄道施設の形状、 <u>配置</u> の工夫による周辺景観への調和に配慮することで、快適性への影響を低減する効果があることから、環境保全措置として採用する。
p 8-5-2-18 8-5-2-5(2) 環境保全措置の内容	(環境保全措置の効果) 鉄道施設の周辺景観への調和の配慮で、快適性への影響を低減することができる。	(環境保全措置の効果) 鉄道施設の <u>形状、配置</u> の工夫による周辺景観への調和に配慮することで、快適性への影響を低減することができる。
p 8-6-1-2 表 8-6-1-2 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>発生土を有効利用する事業者への情報提供</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壌汚染を回避できる。また、動植物の重要な生息地・生育地や自然度の高い区域等の改変を防止するための措置についても情報提供を行うことで、動植物への影響を回避・低減できるため環境保全措置として採用する。</u>
p 8-6-1-3 b) 環境保全措置の実施主体、方法その他環境保全措置の実施の内容	本事業では、切土工等又は既存の工作物の除去による建設工事に伴う副産物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「建設発生土の再利用」、「建設汚泥の脱水処理」及び「副産物の分別・再資源化」を実施する。	本事業では、切土工等又は既存の工作物の除去による建設工事に伴う副産物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「建設発生土の再利用」、「建設汚泥の脱水処理」、 <u>「副産物の分別・再資源化」及び「発生土を有効利用する事業者への情報提供」</u> を実施する。 また、 <u>工事施工ヤード周辺に設置される事務所、作業員宿舎に宿泊する工事従事者へ、衛生環境保全や廃棄物減量化について講習・指導を実施し、廃棄物の減量に努める。</u>
p 8-6-1-4 表 8-6-1-3(4) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-6-1-5 ①回避又は低減に係る評価	工事期間中において、国、岐阜県などによりリサイクルに関する新たな計画が策定された場合には、本事業における目標値も見直す計画とする。	工事期間中において、国、岐阜県などによりリサイクルに関する新たな計画が策定された場合には、本事業における目標値も見直す計画とする。 <u>なお、当社が新たに発生土置き場を計画する場合には、第 10 章に示すとおり調査及び影響検討を実施し、第 9 章に示す環境保全措置を詳細なものにしていくとともに、それらの内容については、関係自治体と調整のうえで、関係自治体及び地域にお</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<u>住まいの住民の方への公表を行っていく。</u>
p 8-6-1-7 表 8-6-1-6 環境保全措置の検討の状況	—	以下を追記 (環境保全措置) <u>発生土を有効利用する事業者への情報提供</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壌汚染を回避できる。また、動植物の重要な生息地・生育地や自然度の高い区域等の改変を防止するための措置についても情報提供を行うことで、動植物への影響を回避・低減できるため環境保全措置として採用する。</u>
p 8-6-1-7 b) 環境保全措置の実施主体、方法その他環境保全措置の実施の内容	本事業では、トンネルの工事による建設工事に伴う副産物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「建設発生土の再利用」、「建設汚泥の脱水処理」及び「副産物の分別・再資源化」を実施する。	本事業では、トンネルの工事による建設工事に伴う副産物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「建設発生土の再利用」、「建設汚泥の脱水処理」、「副産物の分別・再資源化」及び「 <u>発生土を有効利用する事業者への情報提供</u> 」を実施する。 <u>また、工事施工ヤード周辺に設置される事務所、作業員宿舎に宿泊する工事従事者へ、衛生環境保全や廃棄物減量化について講習・指導を実施し、廃棄物の減量に努める。</u>
p 8-6-1-8 表 8-6-1-7 (4) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-6-1-9 ① 回避又は低減に係る評価	したがって、廃棄物等に係る環境影響の低減が図られていると評価する。	したがって、廃棄物等に係る環境影響の低減が図られていると評価する。 <u>なお、当社が新たに発生土置き場を計画する場合には、第 10 章に示すとおり調査及び影響検討を実施し、第 9 章に示す環境保全措置を詳細なものにしていくとともに、それらの内容については、関係自治体と調整のうえで、関係自治体及び地域にお住まいの住民の方への公表を行っていく。</u>
p 8-6-2-1 8-6-2 温室効果ガス	工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）及び鉄道施設（駅、車両基地、換気施設）の供用により、温室効果ガスが発生することから、環境影響評価を行った。	工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、 <u>建設資材の使用及び廃棄物の発生</u> ）及び鉄道施設（駅、車両基地、換気施設）の供用により、温室効果ガスが発生することから、環境影響評価を行った。
p 8-6-2-1 1) 工事の実施	1) 建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	1) <u>工事の実施</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書																																																												
<p>p 8-6-2-1 1) 予測の基本的な手法</p>	<p>工事の実施において建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う温室効果ガス排出量を積算する方法により定量的に検討し、温室効果ガス排出量の削減への取り組みを勧告して定性的に予測した。予測対象とした温室効果ガスの対象物質は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」で定義されている6物質の内、各行為で発生する二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)及び一酸化二窒素(N₂O)の3物質とした。温室効果ガス排出量は、二酸化炭素(CO₂)換算で算出した。</p>	<p>工事の実施において建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、<u>建設資材の使用及び廃棄物の発生</u>に伴う温室効果ガス排出量を積算する方法により定量的に検討し、温室効果ガス排出量の削減への取り組みを勧告して定性的に予測した。予測対象とした温室効果ガスの対象物質は、<u>工事の実施において建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、建設資材の使用及び廃棄物の発生により発生する二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)及び一酸化二窒素(N₂O)の3物質</u>とした。温室効果ガス排出量は、二酸化炭素(CO₂)換算で算出した。</p>																																																												
<p>p 8-6-2-4 c) 建設資材の使用</p>	<p>—</p>	<p>追記</p>																																																												
<p>p 8-6-2-4 d) 廃棄物の発生</p>	<p>—</p>	<p>追記</p>																																																												
<p>p 8-6-2-5 e) 工事の実施に伴い発生する温室効果ガス</p>	<p>工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)に伴い発生する温室効果ガス排出量を表 8-6-2-3 に示す。また、この数量は関係法令により定められている排出係数等から算出したものであることから、適切な環境保全措置を実施することにより更なる低減が図られると予測する。</p>	<p>工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、<u>建設資材の使用及び廃棄物の発生</u>)に伴い発生する温室効果ガス排出量を表 8-6-2-5 に示す。また、この数量は関係法令により定められている排出係数等から算出したものである。<u>適切な環境保全措置を実施することにより更なる低減が図られると予測する。</u></p>																																																												
<p>p 8-6-2-5 表 8-6-2-5 工事の実施に伴い発生する温室効果ガス(CO₂換算)排出量</p>	<table border="1" data-bbox="427 1128 879 1301"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">温室効果ガス(CO₂換算)排出量(tCO₂)</th> </tr> <tr> <th>小計</th> <th>行為別合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">建設機械の稼働</td> <td>燃料消費(CO₂)</td> <td>330,000</td> </tr> <tr> <td>燃料消費(N₂O)</td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td>電力消費(CO₂)</td> <td>48,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">資材及び機械の運搬に用いる車両の運行</td> <td>CO₂</td> <td>110,000</td> </tr> <tr> <td>CH₄</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>N₂O</td> <td>590</td> </tr> <tr> <td>合計(CO₂換算総排出量)(tCO₂)</td> <td>491,133</td> <td></td> </tr> <tr> <td>年間CO₂排出量(平均)(tCO₂/年)</td> <td>35,081</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量(tCO ₂)		小計	行為別合計	建設機械の稼働	燃料消費(CO ₂)	330,000	燃料消費(N ₂ O)	2,500	電力消費(CO ₂)	48,000	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	CO ₂	110,000	CH ₄	43	N ₂ O	590	合計(CO ₂ 換算総排出量)(tCO ₂)	491,133		年間CO ₂ 排出量(平均)(tCO ₂ /年)	35,081		<table border="1" data-bbox="922 1128 1353 1339"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">温室効果ガス(CO₂換算)排出量(tCO₂)</th> </tr> <tr> <th>小計</th> <th>行為別合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">建設機械の稼働</td> <td>燃料消費(CO₂)</td> <td>330,000</td> </tr> <tr> <td>燃料消費(N₂O)</td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td>電力消費(CO₂)</td> <td>48,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">資材及び機械の運搬に用いる車両の運行</td> <td>CO₂</td> <td>110,000</td> </tr> <tr> <td>CH₄</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>N₂O</td> <td>590</td> </tr> <tr> <td>建設資材の使用</td> <td>CO₂</td> <td>910,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">廃棄物の発生</td> <td>CO₂</td> <td>8,800</td> </tr> <tr> <td>N₂O</td> <td>340</td> </tr> <tr> <td>揮発</td> <td>170,000</td> </tr> <tr> <td>合計(CO₂換算総排出量)(tCO₂)</td> <td>1,580,273</td> <td></td> </tr> <tr> <td>年間CO₂排出量(平均)(tCO₂/年)</td> <td>112,876</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量(tCO ₂)		小計	行為別合計	建設機械の稼働	燃料消費(CO ₂)	330,000	燃料消費(N ₂ O)	2,500	電力消費(CO ₂)	48,000	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	CO ₂	110,000	CH ₄	43	N ₂ O	590	建設資材の使用	CO ₂	910,000	廃棄物の発生	CO ₂	8,800	N ₂ O	340	揮発	170,000	合計(CO ₂ 換算総排出量)(tCO ₂)	1,580,273		年間CO ₂ 排出量(平均)(tCO ₂ /年)	112,876	
区分	温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量(tCO ₂)																																																													
	小計	行為別合計																																																												
建設機械の稼働	燃料消費(CO ₂)	330,000																																																												
	燃料消費(N ₂ O)	2,500																																																												
	電力消費(CO ₂)	48,000																																																												
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	CO ₂	110,000																																																												
	CH ₄	43																																																												
	N ₂ O	590																																																												
合計(CO ₂ 換算総排出量)(tCO ₂)	491,133																																																													
年間CO ₂ 排出量(平均)(tCO ₂ /年)	35,081																																																													
区分	温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量(tCO ₂)																																																													
	小計	行為別合計																																																												
建設機械の稼働	燃料消費(CO ₂)	330,000																																																												
	燃料消費(N ₂ O)	2,500																																																												
	電力消費(CO ₂)	48,000																																																												
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	CO ₂	110,000																																																												
	CH ₄	43																																																												
	N ₂ O	590																																																												
建設資材の使用	CO ₂	910,000																																																												
廃棄物の発生	CO ₂	8,800																																																												
	N ₂ O	340																																																												
	揮発	170,000																																																												
合計(CO ₂ 換算総排出量)(tCO ₂)	1,580,273																																																													
年間CO ₂ 排出量(平均)(tCO ₂ /年)	112,876																																																													
<p>p 8-6-2-6 表 8-6-2-6 環境保全措置の検討の状況</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>建設機械の高負荷運転の抑制、建設機械の点検・整備による性能維持、資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、温室効果ガスの低減が見込まれることから、環境保全措置として採用する。</u></p> <p>以下を追記 (環境保全措置) <u>副産物の分別・再資源化</u> (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由)</p>																																																												

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		場内で細かく分別し、再資源化に努めることで、取り扱う副産物（廃棄物含む）の量を低減できることから、温室効果ガスの排出量を低減できるため、環境保全措置として採用する。
p 8-6-2-6 イ)環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容	本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）による温室効果ガスに係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「低炭素型建設機械の選定」、「高負荷運転の抑制」、「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の点検・整備による性能維持」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持」及び「低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化」を実施する。	本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、 <u>建設資材の使用及び廃棄物の発生</u> ）による温室効果ガスに係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「低炭素型建設機械の選定」、「高負荷運転の抑制」、「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の点検・整備による性能維持」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持」、 <u>「低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化」</u> 、「 <u>工事従事者への講習・指導</u> 」及び「 <u>副産物の分別・再資源化</u> 」を実施する。
p 8-6-2-8 表 8-6-2-7 (7)環境保全措置の内容	—	追記
p 8-6-2-8 表 8-6-2-7 (8)環境保全措置の内容	—	追記
p 8-6-2-8 a)回避又は低減に係る評価	本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）に伴う温室効果ガスが発生するものの、本事業における温室効果ガス年平均排出量は、岐阜県における1年間あたりの温室効果ガス16,305千tCO ₂ ⁽¹⁾ と比較すると0.22%程度であり、「低炭素型建設機械の選定」、「高負荷運転の抑制」、「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の点検・整備による性能維持」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持」及び「低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化」の環境保全措置を確実に実施することから、温室効果ガスに係る環境影響の低減が図られていると評価する。	本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、 <u>建設資材の使用及び廃棄物の発生</u> ）に伴う温室効果ガスが発生するものの、「低炭素型建設機械の選定」、「高負荷運転の抑制」、「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「建設機械の点検・整備による性能維持」、「資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持」、「低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化」、 <u>「工事従事者への講習・指導」及び「副産物の分別・再資源化」</u> の環境保全措置を確実に実施することから、温室効果ガスに係る環境影響の低減が図られていると評価する。
p 8-6-2-8 脚注	(1)平成22年度温室効果ガス排出量（速報値）について （平成25年6月19日、岐阜県環境生活部環境管理課）	削除
p 8-6-2-10 イ)予測の基本的な手法	鉄道施設（駅、車両基地、換気施設）の供用において、排出される温室効果ガス排出量を積算する方法により定量的に検討し、温室効果ガス排出量の削減への取り組みを勘案して定性的に予測した。予測対象とした温室効果ガスの対象物質は「地球温暖化対策の推進に関する法律」	鉄道施設（駅、車両基地、換気施設）の供用において、排出される温室効果ガス排出量を積算する方法により定量的に検討し、温室効果ガス排出量の削減への取り組みを勘案して定性的に予測した。予測対象とした温室効果ガスの対象物質は、 <u>鉄道施設（駅、車両基地、換気施設）の供用によ</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書																																																												
	に定義されている6物質の内、各行為で発生する二酸化炭素(CO ₂)、メタン(CH ₄)及び一酸化二窒素(N ₂ O)の3物質とした。	り発生する二酸化炭素(CO ₂)、メタン(CH ₄)及び一酸化二窒素(N ₂ O)の3物質とした。																																																												
p 8-6-2-11 b) 駅施設における廃棄物の発生	—	追記																																																												
p 8-6-2-12 d) 車両基地における廃棄物の発生の発生	—	追記																																																												
p 8-6-2-12 f) 鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用に伴い発生する温室効果ガス	この数量は関係法令により定められている排出係数等から算出したものであることから、適切な環境保全措置を実施することにより更なる低減が図られると予測する。	この数量は関係法令により定められている排出係数等から算出したものである。適切な環境保全措置を実施することにより更なる低減が図られると予測する。																																																												
p 8-6-2-13 表 8-6-2-13 鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用に伴い発生する温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">温室効果ガス(CO₂換算)排出量(tCO₂)</th> </tr> <tr> <th>小計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">駅施設において使用する設備機器</td> <td>電気</td> <td>13,000</td> </tr> <tr> <td>灯油</td> <td>5,500</td> <td>18,500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">車両基地において使用する設備機器</td> <td>電気</td> <td>83,000</td> </tr> <tr> <td>灯油</td> <td>50,000</td> <td>133,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">換気施設において使用する設備機器</td> <td>電気</td> <td>7,400</td> </tr> <tr> <td>年間CO₂排出量(平均)(tCO₂/年)</td> <td>158,900</td> </tr> </tbody> </table>	区分	温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量(tCO ₂)		小計	合計	駅施設において使用する設備機器	電気	13,000	灯油	5,500	18,500	車両基地において使用する設備機器	電気	83,000	灯油	50,000	133,000	換気施設において使用する設備機器	電気	7,400	年間CO ₂ 排出量(平均)(tCO ₂ /年)	158,900	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">温室効果ガス(CO₂換算)排出量(tCO₂)</th> </tr> <tr> <th>小計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">駅施設において使用する設備機器</td> <td>電気</td> <td>13,000</td> </tr> <tr> <td>灯油</td> <td>5,500</td> <td>18,500</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">駅施設における廃棄物</td> <td>CO₂</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>CH₄</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>N₂O</td> <td>1</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">車両基地において使用する設備機器</td> <td>電気</td> <td>83,000</td> </tr> <tr> <td>灯油</td> <td>50,000</td> <td>133,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">車両基地における廃棄物</td> <td>CO₂</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>CH₄</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>N₂O</td> <td>10</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">換気施設において使用する設備機器</td> <td>電気</td> <td>7,400</td> </tr> <tr> <td>年間CO₂排出量(平均)(tCO₂/年)</td> <td>159,068</td> </tr> </tbody> </table>	区分	温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量(tCO ₂)		小計	合計	駅施設において使用する設備機器	電気	13,000	灯油	5,500	18,500	駅施設における廃棄物	CO ₂	17	CH ₄	0	N ₂ O	1	18	車両基地において使用する設備機器	電気	83,000	灯油	50,000	133,000	車両基地における廃棄物	CO ₂	140	CH ₄	0	N ₂ O	10	150	換気施設において使用する設備機器	電気	7,400	年間CO ₂ 排出量(平均)(tCO ₂ /年)	159,068
区分	温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量(tCO ₂)																																																													
	小計	合計																																																												
駅施設において使用する設備機器	電気	13,000																																																												
	灯油	5,500	18,500																																																											
車両基地において使用する設備機器	電気	83,000																																																												
	灯油	50,000	133,000																																																											
換気施設において使用する設備機器	電気	7,400																																																												
	年間CO ₂ 排出量(平均)(tCO ₂ /年)	158,900																																																												
区分	温室効果ガス(CO ₂ 換算)排出量(tCO ₂)																																																													
	小計	合計																																																												
駅施設において使用する設備機器	電気	13,000																																																												
	灯油	5,500	18,500																																																											
駅施設における廃棄物	CO ₂	17																																																												
	CH ₄	0																																																												
	N ₂ O	1	18																																																											
車両基地において使用する設備機器	電気	83,000																																																												
	灯油	50,000	133,000																																																											
車両基地における廃棄物	CO ₂	140																																																												
	CH ₄	0																																																												
	N ₂ O	10	150																																																											
換気施設において使用する設備機器	電気	7,400																																																												
	年間CO ₂ 排出量(平均)(tCO ₂ /年)	159,068																																																												
p 8-6-1-14 表 8-6-2-14 環境保全措置の検討の状況	—	<p>以下を追記 (環境保全措置) 廃棄物の分別・再資源化 (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>分別回収施設の設置や利用者への周知を行い、分別、再資源化の徹底を図ることで、取り扱う廃棄物の量を低減できることから、温室効果ガスの排出量を低減できるため、環境保全措置として採用する。</u></p>																																																												
	—	<p>以下を追記 (環境保全措置) 廃棄物の処理・処分の円滑化 (実施の適否) <u>適</u> (適否の理由) <u>廃棄物保管場所について、利用者の利便性や収集作業の効率性を考慮した配置とするとともに、仕切りの設置、色彩または形状の工夫等で区別しやすいようにすることにより、廃棄物の処理、処分の円滑化を図ることで、分別、再資源化及び適正処理を徹底することができ、取り扱う廃棄物の量を低減できることから、温室効果ガスの排出量を低減できるため、環境保全措置として採用する。</u></p>																																																												
p 8-6-2-15 表 8-6-2-15(5) 環境保全措置の内容	—	追記																																																												

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 8-6-2-16 表 8-6-2-15(6) 環境保全措置の内容	—	追記
p 8-6-2-16 a)回避又は低減に係る評価	<p>本事業では、鉄道施設（駅、車両基地、換気施設）の供用に伴う温室効果ガスが発生するものの、本事業における温室効果ガス年平均排出量は、岐阜県における1年間あたりの温室効果ガス 16,305 千tCO₂⁽²⁾と比較すると0.97%程度であり、「省エネルギー型製品の導入」、「温室効果ガスの排出抑制に留意した施設の整備及び管理」、「設備機器の点検・整備による性能維持」及び「鉄道施設（車両基地）の緑化・植栽」の環境保全措置を確実に実施することから、温室効果ガスに係る環境影響の低減が図られていると評価する。</p>	<p>本事業では、鉄道施設（駅、車両基地、換気施設）の供用に伴う温室効果ガスが発生するものの、「省エネルギー型製品の導入」、「温室効果ガスの排出抑制に留意した施設の整備及び管理」、「設備機器の点検・整備による性能維持」、「<u>鉄道施設（車両基地）の緑化・植栽</u>」、「<u>廃棄物の分別・再資源化</u>」及び「<u>廃棄物の処理・処分の円滑化</u>」の環境保全措置を確実に実施することから、温室効果ガスに係る環境影響の低減が図られていると評価する。</p>
p 8-6-2-16 脚注	<p>(2)平成 22 年度温室効果ガス排出量（速報値）について （平成 25 年 6 月 19 日、岐阜県環境生活部環境管理課）</p>	削除
p 9-3 表 9-1-1(2) 大気環境 （二酸化窒素及び浮遊粒子状物質）に関する環境保全措置の検討結果	<p>（工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果） 改変区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。</p>	<p>（工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果） <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。</u></p>
	—	<p>以下を追記 （影響要因） <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> （影響） <u>二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生</u> （検討の視点） <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> （環境保全措置） <u>工事の平準化</u> （環境保全措置の効果） <u>工事の平準化により片寄った施工を避けることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の局地的な発生を低減できる。</u> （措置の区分） <u>低減</u> （実施主体） a （効果の不確実性） <u>なし</u> （他の環境要素への影響） <u>なし</u></p>
	—	<p>以下を追記 （影響要因）</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>建設機械の適正な稼働について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生が低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) なし (他の環境要素への影響) なし</p>
<p>p 9-4 表 9-1-1(3) 大気環境 (二酸化窒素及び浮遊粒子状物質)に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の運行</u> (影響) <u>二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事の平準化</u> (環境保全措置の効果) <u>工事の平準化により資材及び機械の運搬に用いる車両が集中しないことで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の局地的な発生を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) なし (他の環境要素への影響) なし</p>
	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>(検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運行について、工事従事者への講習・指導を実施することにより発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u></p>
p 9-6 表 9-1-2(1) 大気環境 (粉じん等) に関する 環境保全措置の検討結果	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) 変更区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できる。	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できる。</u>
p 9-7 表 9-1-2(2) 大気環境 (粉じん等) に関する 環境保全措置の検討結果	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>粉じん等の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>建設機械の適正な稼働について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、粉じん等の発生を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u>
	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の運行</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>(影響) <u>粉じん等の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な走行について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、粉じん等の発生を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u></p>
<p>p 9-8 表 9-1-3(1) 大気環境 (騒音) に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>(仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策、環境保全措置の効果) 住居等周辺環境を考慮した仮囲い等の高さの検討を行ったうえで仮囲い・防音シート等を設置することで、遮音による騒音の低減効果が見込まれる。</p>	<p>(仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策、環境保全措置の効果) <u>仮囲いについて、住居等周辺環境を考慮した高さの検討を行ったうえで防音シート等を設置することで、遮音による騒音の低減効果が見込まれる。なお、防音シートの遮音性能は、透過損失 10dB とされている (ASJ CN-Model 2007)</u></p>
<p>p 9-9 表 9-1-3(2) 大気環境 (騒音) に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>騒音の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>建設機械の騒音発生の抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、騒音を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>p 9-10 表 9-1-3(3) 大気環境（騒音）に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 （影響要因） <u>工事の実施</u> <u>資材及び機材の運搬に用いる車両の運行</u> （影響） <u>騒音の発生</u> （検討の視点） <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> （環境保全措置） <u>工事従事者への講習・指導</u> （環境保全措置の効果） <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による騒音発生の抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、発生する騒音を低減できる。</u> （措置の区分） <u>低減</u> （実施主体） a （効果の不確実性） <u>なし</u> （他の環境要素への影響） <u>なし</u></p>
<p>p 9-12 表 9-1-3(5) 大気環境（騒音）に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>（個別家屋対策、環境保全措置の効果） 家屋の防音工事等を行うことにより、騒音の影響を低減できる。</p> <p>（沿線の土地利用対策、環境保全措置の効果） 新幹線計画と整合した公共施設（道路、公園、緑地等）を配置する等の土地利用対策を推進することで、鉄道施設との距離を確保することにより、住居等における騒音を低減できる。</p>	<p>（個別家屋対策、環境保全措置の効果） <u>対象となる家屋の所有者と話をした上で、防音型アルミサッシへの取替や防振パッキングといった家屋の防音工事等を行うことにより、騒音の影響を低減できる。</u></p> <p>（沿線の土地利用対策、環境保全措置の効果） 新幹線計画と整合した<u>住宅開発の抑制や公共施設（道路、公園、緑地等）の配置等の土地利用対策を推進することで、鉄道施設との距離を確保することにより、住居等における騒音を低減できる。</u></p>
<p>p 9-14 表 9-1-4(2) 大気環境（振動）に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 （影響要因） <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> （影響） <u>振動の発生</u> （検討の視点） <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> （環境保全措置） <u>工事従事者への講習・指導</u> （環境保全措置の効果） <u>建設機械の振動発生の抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、振動の発生を低減できる。</u> （措置の区分）</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>低減</u> (実施主体)</p> <p><u>a</u> (効果の不確実性)</p> <p><u>なし</u> (他の環境要素への影響)</p> <p><u>なし</u></p>
<p>p 9-15 表 9-1-4(3) 大気環境 (振動) に関する環境 保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因)</p> <p><u>工事の実施</u> <u>資材及び機材の運搬に用いる車両の運行</u> (影響)</p> <p><u>振動の発生</u> (検討の視点)</p> <p><u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置)</p> <p><u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果)</p> <p><u>資材及び機械の運搬に用いる車両の走行</u> <u>による振動発生の抑制について、工事従事</u> <u>者への講習・指導を実施することにより、</u> <u>振動の発生を低減できる。</u> (措置の区分)</p> <p><u>低減</u> (実施主体)</p> <p><u>a</u> (効果の不確実性)</p> <p><u>なし</u> (他の環境要素への影響)</p> <p><u>なし</u></p>
<p>p 9-21 表 9-2-1(1) 水環境 (水 質) に関する環境保全 措置の検討結果</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) 工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) <u>設置する諸設備を検討し、設置する設備や</u> <u>その配置を工夫することなどにより、工事</u> <u>に伴う変更区域をできる限り小さくする</u> <u>ことで、水の濁りの発生を低減できる。</u></p>
<p>p 9-23 表 9-2-1(3) 水環境 (水 質) に関する環境保全 措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因)</p> <p><u>工事の実施</u> <u>トンネルの工事</u> (影響)</p> <p><u>水の濁り</u> (検討の視点)</p> <p><u>水の濁りの低減</u> (環境保全措置)</p> <p><u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (環境保全措置の効果)</p> <p><u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温</u> <u>度への影響の可能性が有るような場合は、</u> <u>河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整</u> <u>するとともに、難しい場合は外気に晒して</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>温度を河川と同程度にしてから放流することで、公共用水域への影響を低減できる。</u></p> <p>(措置の区分)</p> <p><u>低減</u></p> <p>(実施主体)</p> <p><u>a</u></p> <p>(効果の不確実性)</p> <p><u>なし</u></p> <p>(他の環境要素への影響)</p> <p><u>なし</u></p>
<p>p 9-24 表 9-2-1(4)水環境(水質)に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果)</p> <p>工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果)</p> <p><u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫すること</u>などにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。</p>
<p>p 9-25 表 9-2-1(5)水環境(水質)に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果)</p> <p>工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の汚れの発生を低減できる。</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果)</p> <p><u>設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫すること</u>などにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の汚れの発生を低減できる。</p>
<p>p 9-27 表 9-2-1(7)水環境(水質)に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記</p> <p>(影響要因)</p> <p><u>工事の実施</u></p> <p><u>トンネルの工事</u></p> <p>(影響)</p> <p><u>水の汚れ</u></p> <p>(検討の視点)</p> <p><u>水の汚れの低減</u></p> <p>(環境保全措置)</p> <p><u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u></p> <p>(環境保全措置の効果)</p> <p><u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、公共用水域への影響を低減できる。</u></p> <p>(措置の区分)</p> <p><u>低減</u></p> <p>(実施主体)</p> <p><u>a</u></p> <p>(効果の不確実性)</p> <p><u>なし</u></p> <p>(他の環境要素への影響)</p> <p><u>なし</u></p>
<p>p 9-28 表 9-2-1(8)水環境(水質)に関する環境保全</p>	<p>(下水道への排水、環境保全措置の効果)</p> <p>下水道の利用が可能な地域では、処理を</p>	<p>(下水道への排水、環境保全措置の効果)</p> <p>下水道の利用が可能な地域では、<u>下水道の</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
措置の検討結果	した上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。	<u>管理者と協議して処理方法を確定し、処理をした上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。</u>
p 9-31 表 9-2-3(2)水環境（地下水）に関する環境保全措置の検討結果	（適切な構造及び工法の採用、環境保全措置効果） 工事の施工に先立ち地質、地下水の調査を実施し、覆工コンクリート、防水シートの設置等を行うと共に、必要に応じて薬液注入工を実施することなどにより、地下水への影響を低減できる。	（適切な構造及び工法の採用、環境保全措置効果） <u>本線トンネルについては、工事の施工に先立ち事前に先進ボーリング等、最先端の探査技術を用いて地質や地下水の状況を把握したうえで、必要に応じて薬液注入を実施することや、覆工コンクリート、防水シートを設置することにより、地下水への影響を低減できる。</u> <u>また、非常口（山岳部）についても、工事前から工事中にかけて河川流量や井戸の水位等の調査を行うとともに、掘削中は湧水量や地質の状況を慎重に確認し、浅層と深層の帯水層を貫く場合は水みちが生じないように必要に応じて薬液注入を実施するとともに、帯水層を通過し湧水量の多い箇所に対しては、覆工コンクリートや防水シートを設置し地下水の流入を抑えることなどにより、地下水への影響を低減できる。</u>
p 9-34 表 9-2-4(2)水環境（水資源）に関する環境保全措置の検討結果	—	以下を追記 （影響要因） <u>工事の実施・供用</u> <u>トンネルの工事及び鉄道施設（トンネル）の存在</u> （影響） <u>水資源利用への影響</u> （検討の視点） <u>水資源利用への影響を低減</u> （環境保全措置） <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> （環境保全措置の効果） <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、公共用水域への影響を低減できる。</u> （措置の区分） <u>低減</u> （実施主体） <u>a</u> （効果の不確実性） <u>なし</u> （他の環境要素への影響） <u>なし</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
p 9-35 表 9-2-4(3)水環境（水資源）に関する環境保全措置の検討結果	（適切な構造及び工法の採用、環境保全措置の効果） 工事の施工に先立ち、地質、地下水の調査を実施し、覆工コンクリート、防水シートをの設置等を行うと共に、必要に応じて薬液注入工を実施することなどにより、地下水への影響を低減できる。	（適切な構造及び工法の採用、環境保全措置の効果） <u>本線トンネルについては、工事の施工に先立ち事前に先進ボーリング等、最先端の探査技術を用いて地質や地下水の状況を把握したうえで、必要に応じて薬液注入を実施することや、覆工コンクリート、防水シートを設置することにより、地下水への影響を低減できる。</u> <u>また、非常口（山岳部）についても、工事前から工事中にかけて河川流量や井戸の水位等の調査を行うとともに、掘削中は湧水量や地質の状況を慎重に確認し、浅層と深層の帯水層を貫く場合は水みちが生じないように必要に応じて薬液注入を実施するとともに、帯水層を通過し湧水量の多い箇所に対しては、覆工コンクリートや防水シートを設置し地下水の流入を抑えることなどにより、地下水への影響を低減できる。</u>
p 9-37 表 9-2-4(5)水環境（水資源）に関する環境保全措置の検討結果	（代替水源の確保、環境保全措置の効果） 他の環境保全措置を実施した上で、水量の不足等重要な水源の機能を確保できなくなった場合は、代償措置として、水資源の周辺地域において、その他の水資源を確保することで、水資源の利用への影響を代償できる。なお、本措置については、他のトンネル工事においても実績があることから確実な効果が見込まれる。	（代替水源の確保、環境保全措置の効果） <u>低減のための環境保全措置を実施した上で、水量の不足などやむを得ず重要な水源の機能を確保できなくなった場合は、代償措置として、水源の周辺地域において、速やかにその他の水源を確保することで、水資源の利用への影響を代償できる。</u> なお、本措置については、他のトンネル工事においても実績があることから確実な効果が見込まれる。
p 9-39 表 9-2-4(7)水環境（水資源）に関する環境保全措置の検討結果	（下水道への排水、環境保全措置の効果） 下水道の利用が可能な地域では、処理をした上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。	（下水道への排水、環境保全措置の効果） 下水道の利用が可能な地域では、 <u>下水道の管理者と協議して処理方法を確定し、処理をした上で下水道へ一部排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。</u>
p 9-42 表 9-3-3(1)土壌環境（土壌汚染）に関する環境保全措置の検討結果	（発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底、環境保全措置の効果） 発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壌汚染を回避又は低減できる。	（発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底、環境保全措置の効果） 発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壌汚染を回避できる。
p 9-43 表 9-3-3(2)土壌環境（土壌汚染）に関する	（発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底、措置の区分） 回避・低減	（発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底、措置の区分） 回避 以下を追記 （影響要因） <u>工事の実施・供用</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
環境保全措置の検討結果	—	<p><u>切土工等又は既存の工作物の除去</u> (影響)</p> <p><u>土壌汚染の発生</u> (検討の視点)</p> <p><u>土壌汚染の回避</u> (環境保全措置)</p> <p><u>仮置場における掘削土砂の適切な管理</u> (環境保全措置の効果)</p> <p><u>掘削土砂の仮置き場に屋根、側溝、シート覆いを設置する等の管理を行うことで、重金属等の有無を確認するまでの間の雨水等による重金属等の流出を防止し、土壌汚染を回避できる。</u> (措置の区分)</p> <p><u>回避</u> (実施主体)</p> <p>a (効果の不確実性)</p> <p>なし (他の環境要素への影響)</p> <p>なし</p>
—	—	<p>以下を追記 (影響要因)</p> <p><u>工事の実施・供用</u></p> <p><u>切土工等又は既存の工作物の除去</u> (影響)</p> <p><u>土壌汚染の発生</u> (検討の視点)</p> <p><u>土壌汚染の回避</u> (環境保全措置)</p> <p><u>工事排水の適切な処理</u> (環境保全措置の効果)</p> <p><u>工事排水について、処理施設により法令に基づく排水基準等を踏まえ、水質の改善を図るための処理をしたうえで排水することで、土壌汚染を回避できる。</u> (措置の区分)</p> <p><u>回避</u> (実施主体)</p> <p>a (効果の不確実性)</p> <p>なし (他の環境要素への影響)</p> <p>なし</p>
p9-45 表9-3-3(4)土壌環境(土壌汚染)に関する環境保全措置の検討結果	(発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底、環境保全措置の効果) 発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壌	(発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底、環境保全措置の効果) 発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壌汚染を

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	汚染を回避又は低減できる。	回避できる。
	(発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底、効果の不確実性) 回避・低減	(発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底、効果の不確実性) 回避
p 9-51 表 9-4-1(1) 動物に関する環境保全措置の検討結果	(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) 重要な種の生息地への影響を回避又は低減できる。	(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、重要な種の生息環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。</u>
p 9-53 表 9-4-1(3) 動物に関する環境保全措置の検討結果	(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施	(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施
	(工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施、環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に林縁保護植栽等を図ることで、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できる。	(工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に <u>工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できる。</u>
p 9-54 表 9-4-1(4) 動物に関する環境保全措置の検討結果	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>工事の実施、鉄道施設の存在</u> (検討種) <u>トンネルからの湧水を放流する河川を生息環境とする保全対象種全般</u> (影響) <u>工事に伴う生息環境への影響</u> (検討の視点) <u>工事に伴う生息環境への影響の低減</u> (環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (環境保全措置の効果) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性のあるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、水辺の動物の生息環境への影響を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) <u>なし</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		(他の環境要素への影響) なし
p 9-55 表 9-4-1(5)動物に関する環境保全措置の検討結果	(照明の漏れ出しの抑制、環境保全措置の効果) 照明の漏れ出しの抑制をすることで、走光性の昆虫類等への影響を低減できる。	(照明の漏れ出しの抑制、環境保全措置の効果) <u>専門家の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けないような配慮による漏れ光の抑制、昆虫類等の誘引効果が少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行うことで、走光性の重要な昆虫類等の生息環境への影響を低減できる。</u>
	(照明の漏れ出しの抑制、効果の不確実性) なし	(照明の漏れ出しの抑制、効果の不確実性) あり
p 9-56 表 9-4-1(6)動物に関する環境保全措置の検討結果	(重要な種の移植、環境保全措置の効果) 鉄道施設(車両基地)の位置や形状の観点から、そこに生息する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種の生育環境への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	(重要な種の移植、環境保全措置の効果) 鉄道施設(<u>地表式又は掘割式、嵩上式、車両基地</u>)の位置や形状の観点から、 <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で</u> 、そこに生息する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植を行うことで、 <u>重要な種の生息環境や個体</u> への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。
p 9-57 表 9-4-1(7)動物に関する環境保全措置の検討結果	(代替巣等の設置、環境保全措置の効果) 工事の実施により、そこに生息するハチクマ、サシバの生息環境の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境に代替巣を設置することで、生息環境への影響を代償することができる。なお、代替巣等の設置は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	(代替巣等の設置、環境保全措置の効果) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で</u> 、そこに生息するハチクマ、サシバの生息環境の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境に代替巣を設置することで、生息環境への影響を代償することができる。なお、代替巣等の設置は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。
p 9-58 表 9-4-2(1)植物に関する環境保全措置の検討結果	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) 生育環境の変更をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、重要な種の生育環境の変更をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。</u>
p 9-59 表 9-4-2(2)植物に関する環境保全措置の検討結果	(外来種の拡大抑制、環境保全措置の効果) 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努めることで、外来種の拡大を抑制できる。	(外来種の拡大抑制、環境保全措置の効果) 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。また、 <u>作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		できる。
<p>p 9-60 表 9-4-2(3) 植物に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施</p> <p>(工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施、環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に林縁保護植栽等を図ることで、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生育環境への影響を低減できる。</p>	<p>(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施</p> <p>(工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に<u>工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生育環境への影響を低減できる。</u></p>
<p>p 9-61 表 9-4-2(4) 植物に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>工事の実施、鉄道施設の存在</u> (検討種) <u>トンネルからの湧水を放流する河川を生息環境とする保全対象種全般</u> (影響) <u>工事に伴う生息環境への影響</u> (検討の視点) <u>工事に伴う生息環境への影響の低減</u> (環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (環境保全措置の効果) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、水辺の植物の生育環境への影響を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) <u>a</u> (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u></p>
<p>p 9-62 表 9-4-2(5) 植物に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>(重要な種の移植・播種、環境保全措置の効果) 鉄道施設(非常口(山岳部)、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の位置や形状の観点から、そこに生育する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境(植</p>	<p>(重要な種の移植・播種、環境保全措置の効果) 鉄道施設(非常口(山岳部)、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設)の位置や形状の観点から、<u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	生、光及び水分等の条件等)を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種の生育環境への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	失する環境に類似した環境(植生、光及び水分等の条件)を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種への影響を代償することができる。なお、 <u>重要な種の移植・播種は工事実施前に対象個体を確定し、生育環境の詳細な調査(コドラート調査等)を実施した上で、専門家の技術的助言を踏まえながら、対象種に係る移植・播種地や手法等の検討を行う。また、移植・播種後においても、生育状況の確認を行うことから、効果が期待できる。</u>
p 9-63 表 9-4-2(6)植物に関する環境保全措置の検討結果	(重要な種の生育環境の創出、環境保全措置の効果) 車両基地の位置や形状の観点から、そこに生育する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍においては、湿地、草地、水の流れ及びたまり場を確保するとともに、水際には在来種の湿生植物を植栽した生育環境を創出することで、重要な種への影響を代償することができる。なお、生育環境の創出は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	(重要な種の生育環境の創出、環境保全措置の効果) 車両基地の位置や形状の観点から、 <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍においては、湿地、草地、水の流れ及びたまり場を確保するとともに、水際には在来種の湿生植物を植栽した生育環境を創出することで、重要な種への影響を代償することができる。</u> なお、生育環境の創出は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。
p 9-64 表 9-4-3(1)生態系に関する環境保全措置の検討結果	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) 工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、注目種等の生息・生育地への影響を回避又は低減できる。	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、注目種等の生息・生育地への影響を回避又は低減できる。</u>
p 9-65 表 9-4-3(2)生態系に関する環境保全措置の検討結果	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施・供用</u> <u>工事の実施、鉄道施設の存在</u> (検討種) 二 (影響) <u>工事に伴う生育環境への影響</u> (検討の視点) <u>工事に伴う生育環境への影響の低減</u> (環境保全措置) <u>外来種の拡大抑制</u> (環境保全措置の効果) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。また、作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できる。</u> (措置の区分)

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>回避・低減</u> (実施主体)</p> <p><u>a</u> (効果の不確実性)</p> <p><u>なし</u> (他の環境要素への影響)</p> <p><u>なし</u></p>
<p>p 9-66 表 9-4-3(3)生態系に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施</p> <p>(工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施、環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に林縁保護植栽等を図ることで、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息・生育環境への影響を低減できる。</p>	<p>(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施</p> <p>(工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に<u>工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息・生育環境への影響を低減できる。</u></p>
<p>p 9-67 表 9-4-3(4)生態系に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>(汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置、検討種) 保全対象種</p>	<p>(汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置、検討種) <u>コガタブチサンショウウオ、コガムシ、マツカサガイ、ヒラヒダリマキマイマイ、サクラバハンノキ、カザグルマ、ハナノキ、ミズマツバ、ミズトラノオ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、クロホシクサ、ヒメコヌカグサ</u></p>
<p>p 9-68 表 9-4-3(5)生態系に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>工事の実施、鉄道施設の存在</u> (検討種) <u>トンネルからの湧水を放流する河川を生息・生育環境とする保全対象種全般</u> (影響) <u>工事に伴う生息・生育環境への影響</u> (検討の視点) <u>工事に伴う生息・生育環境への影響の低減</u> (環境保全措置) <u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u> (環境保全措置の効果) <u>トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性のあるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、水辺の動植物の生息・生育環境への影響を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) <u>a</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		(効果の不確実性) なし (他の環境要素への影響) なし
p 9-69 表 9-4-3(6)生態系に関する環境保全措置の検討結果	(照明の漏れ出しの抑制、影響要因) 工事の実施	(照明の漏れ出しの抑制、影響要因) 工事の実施・供用
	(照明の漏れ出しの抑制、検討種) 保全対象種	(照明の漏れ出しの抑制、検討種) コガタブチサンショウウオ、コガムシ
	(照明の漏れ出しの抑制、環境保全措置の効果) 照明の漏れ出しを抑制することで、走光性の昆虫類などへの影響を低減できる。	(照明の漏れ出しの抑制、環境保全措置の効果) 専門家の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けないように配慮による漏れ光の抑制、昆虫類等の誘引効果が少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行うことで、走光性の重要な昆虫類等の生息環境への影響を低減できる。
	(照明の漏れ出しの抑制、効果の不確実性) なし	(照明の漏れ出しの抑制、効果の不確実性) あり
p 9-70 表 9-4-3(7)生態系に関する環境保全措置の検討結果	(防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用、検討種) オオタカ	(防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用、検討種) ハチクマ、オオタカ、サシバ
	(コンディショニングの実施、検討種) オオタカ	(コンディショニングの実施、検討種) ハチクマ、オオタカ、サシバ
p 9-71 表 9-4-3(8)生態系に関する環境保全措置の検討結果	(重要な種の移植・播種、検討種) 保全対象種	(重要な種の移植・播種、検討種) コガタブチサンショウウオ、コガムシ、マツガサガイ、ヒラヒダリマキマイマイ、サクラバハンノキ、カザグルマ、カキノハグサ、ハナノキ、ミズマツバ、イブキボウフウ、スズサイコ、ミズトラノオ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、キキョウ、クロホシクサ、ヒメコヌカグサ、キンラン
	(重要な種の移植・播種、環境保全措置の効果) 鉄道施設（非常口（山岳部）、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の位置や形状の観点から、そこに生息・生育する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種の生息・生育環境への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	(重要な種の移植・播種、環境保全措置の効果) 鉄道施設（非常口（山岳部）、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地、換気施設、変電施設）の位置や形状の観点から、 <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で</u> 、そこに生息・生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種の生息・生育環境や <u>個体</u> への影響を代償することができる。 <u>なお、重要な種の移植・播種は工事实施前に対象個体を確定し、生育環境の詳細な調査（コドラート調査等）を実施した上で、専門家の技術的助言を踏まえながら、対象種に係る移植・播種地や手</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>p 9-72 表 9-4-3(9)生態系に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p><u>法等の検討を行う。また、移植・播種後においても、生育状況の確認を行うことから、効果が期待できる。</u></p> <p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施・供用</u> <u>工事の実施、鉄道施設の存在</u> (検討種) <u>ミミカキグサ、キキョウ、クロホシクサ</u> (影響) <u>地表改変による生育地の消失・縮小</u> (検討の視点) <u>地表改変による生育地の消失等の回避、低減</u> (環境保全措置) <u>重要な種の生育環境の創出</u> (環境保全措置の効果) <u>車両基地の位置や形状の観点から、回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍においては、湿地、草地、水の流れ及びたまり場を確保するとともに、水際には在来種の湿生植物を植栽した生育環境を創出することで、重要な種への影響を代償することができる。</u> <u>なお、生育環境の創出は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</u> (措置の区分) <u>代償</u> (実施主体) <u>a</u> (効果の不確実性) <u>あり</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u></p>
<p>p 9-73 表 9-4-3(10)生態系に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施・供用</u> <u>工事の実施、鉄道施設の存在</u> (検討種) <u>ハチクマ、サシバ</u> (影響) <u>地表改変による生育地の消失・縮小</u> (検討の視点) <u>地表改変による生育地の消失等の回避、低減</u> (環境保全措置) <u>代替巣等の設置</u> (環境保全措置の効果) <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息するハチクマ、サシバの</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>生息環境の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境に代替巣を設置することで、生息環境への影響を代償することができる。</u> <u>なお、代替巣等の設置は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</u></p> <p>(措置の区分) <u>代償</u> (実施主体) <u>a</u> (効果の不確実性) <u>あり</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u></p>
<p>p 9-75 表 9-5-2 人と自然との 触れ合い (人と自然との 触れ合いの活動の 場) に関する環境保全 措置の検討結果</p>	<p>(環境保全措置の効果) <u>鉄道施設の周辺景観への調和の配慮で、 快適性への影響を低減することができる。</u></p>	<p>(環境保全措置の効果) <u>鉄道施設の形状、配置の工夫による周辺景 観への調和に配慮することで、快適性への 影響を低減することができる。</u></p>
<p>p 9-77 表 9-6-1 (2) 環境への 負荷 (廃棄物等) に関 する環境保全措置の検 討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>切土工等又は既存の工作物の除去</u> (影響) <u>建設工事による副産物の発生</u> (検討の視点) <u>土壌汚染の回避</u> (環境保全措置) <u>発生土を有効利用する事業者への情報提 供</u> (環境保全措置の効果) <u>発生土を他事業において有効利用するに あたっては、当該事業者が発生土の管理方 法について判断できるように、発生土の自 然由来重金属の含有状況等に係る情報提 供を徹底することで、二次的な土壌汚染を 回避できる。また、動植物の重要な生息 地・生育地や自然度の高い区域等の改変を 防止するための措置についても情報提供 を行うことで、動植物への影響を回避・低 減できる。</u> (措置の区分) <u>回避・低減</u> (実施主体) <u>a</u> (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u></p>
<p>p 9-79 表 9-6-1 (4) 環境への</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因)</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>負荷（廃棄物等）に関する環境保全措置の検討結果</p>		<p><u>工事の実施</u> <u>トンネルの工事</u> （影響） <u>建設工事による副産物の発生</u> （検討の視点） <u>土壌汚染の回避</u> （環境保全措置） <u>発生土を有効利用する事業者への情報提供</u> （環境保全措置の効果） <u>発生土を他事業において有効利用するにあたっては、当該事業者が発生土の管理方法について判断できるように、発生土の自然由来重金属の含有状況等に係る情報提供を徹底することで、二次的な土壌汚染を回避できる。また、動植物の重要な生息地・生育地や自然度の高い区域等の改変を防止するための措置についても情報提供を行うことで、動植物への影響を回避・低減できる。</u> （措置の区分） <u>回避・低減</u> （実施主体） ^a （効果の不確実性） <u>なし</u> （他の環境要素への影響） <u>なし</u></p>
<p>p 9-82 表 9-6-2(2) 環境への負荷（温室効果ガス）に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 （影響要因） <u>工事の実施</u> <u>工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、建設資材の使用及び廃棄物の発生）</u> （影響） <u>温室効果ガスの発生</u> （検討の視点） <u>発生量の低減</u> （環境保全措置） <u>工事従事者への講習・指導</u> （環境保全措置の効果） <u>建設機械の高負荷運転の抑制、建設機械の点検・整備による性能維持、資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、温室効果ガスの低減が見込まれる。</u> （措置の区分） <u>低減</u> （実施主体） ^a （効果の不確実性）</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	—	<p>なし (他の環境要素への影響)</p> <p>なし</p> <p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、建設資材の使用及び廃棄物の発生)</u> (影響) <u>温室効果ガスの発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> (環境保全措置) <u>副産物の分別・再資源化</u> (環境保全措置の効果) <u>場内で細かく分別し、再資源化に努めること</u> <u>で、取り扱う副産物(廃棄物含む)の量を低減できることから、温室効果ガスの排出量を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) なし (他の環境要素への影響) なし</p>
<p>p 9-83 表 9-6-2(3) 環境への負荷(温室効果ガス)に関する環境保全措置の検討結果</p>	—	<p>以下を追記 (影響要因) <u>供用</u> <u>鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用</u> (影響) <u>温室効果ガスの発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> (環境保全措置) <u>廃棄物の分別・再資源化</u> (環境保全措置の効果) <u>分別回収施設の設置や利用者への周知を行い、分別、再資源化の徹底を図ること</u> <u>で、取り扱う廃棄物の量を低減できること</u> <u>から、温室効果ガスの排出量を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) なし (他の環境要素への影響) なし</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>p 9-84 表 9-6-2(4) 環境への負荷（温室効果ガス）に関する環境保全措置の検討結果</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 （影響要因） <u>供用</u> <u>鉄道施設（駅、車両基地、換気施設）の供用</u> （影響） <u>温室効果ガスの発生</u> （検討の視点） <u>発生量の低減</u> （環境保全措置） <u>廃棄物の処理・処分の円滑化</u> （環境保全措置の効果） <u>廃棄物保管場所について、利用者の利便性や収集作業の効率性を考慮した配置とするとともに、仕切りの設置、色彩または形状の工夫等で区別しやすいようにすることにより、廃棄物の処理、処分の円滑化を図ることで、分別、再資源化及び適正処理を徹底することができ、取り扱う廃棄物の量を低減できることから、温室効果ガスの排出量を低減できる。</u> （措置の区分） <u>低減</u> （実施主体） a （効果の不確実性） <u>なし</u> （他の環境要素への影響） <u>なし</u></p>
<p>p 9-86 表 9-7-1(2) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【大気質】</p>	<p>（工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果） 変更区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。</p>	<p>（工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果） <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫すること</u> <u>などにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。</u></p>
	<p>—</p>	<p>以下を追記 （影響要因） <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> （影響） <u>二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生</u> （検討の視点） 発生量の低減 <u>発生原単位の低減</u> （環境保全措置） <u>工事の平準化</u> （環境保全措置の効果） <u>工事の平準化により片寄った施工を避けることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の局地的な発生を低減できる。</u> （措置の区分）</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p><u>低減</u> (実施主体)</p> <p><u>a</u> (効果の不確実性)</p> <p><u>なし</u> (他の環境要素への影響)</p> <p><u>なし</u></p>
	—	<p>以下を追記 (影響要因)</p> <p><u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響)</p> <p><u>二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生</u> (検討の視点)</p> <p><u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置)</p> <p><u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果)</p> <p><u>建設機械の適正な稼働について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生が低減できる。</u> (措置の区分)</p> <p><u>低減</u> (実施主体)</p> <p><u>a</u> (効果の不確実性)</p> <p><u>なし</u> (他の環境要素への影響)</p> <p><u>なし</u></p>
<p>p 9-87 表 9-7-1(3) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【大気質】</p>	—	<p>以下を追記 (影響要因)</p> <p><u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響)</p> <p><u>二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生</u> (検討の視点)</p> <p><u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置)</p> <p><u>工事の平準化</u> (環境保全措置の効果)</p> <p><u>工事の平準化により資材及び機械の運搬に用いる車両が集中しないことで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の局地的な発生を低減できる。</u> (措置の区分)</p> <p><u>低減</u> (実施主体)</p> <p><u>a</u> (効果の不確実性)</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>なし (他の環境要素への影響)</p> <p>なし</p>
<p>p 9-88 表 9-7-1(4) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【大気質】</p>	<p>—</p> <p>(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) 改変区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できる。</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生</u> (検討の視点) 発生量の低減 <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運行について、工事従事者への講習・指導を実施することにより発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) なし (他の環境要素への影響) なし</p> <p>(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できる。</u></p>
<p>p 9-89 表 9-7-1(5) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【大気質】</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>粉じん等の発生</u> (検討の視点) 発生量の低減 <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>建設機械の適正な稼働について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、粉じん等の発生が低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体)</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	—	<u>a</u> (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u>
	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>粉じん等の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な走行について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、粉じん等の発生を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) <u>a</u> (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u>
p 9-90 表 9-7-2(1) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【騒音】	(仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策、環境保全措置の効果) 住居等周辺環境を考慮した仮囲い等の高さの検討を行ったうえで仮囲い・防音シート等を設置することで、遮音による騒音の低減効果が見込まれる。	(仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策、環境保全措置の効果) <u>仮囲いについて、住居等周辺環境を考慮した高さの検討を行ったうえで防音シート等を設置することで、遮音による騒音の低減効果が見込まれる。なお、防音シートの遮音性能は、透過損失 10dB とされている (ASJ CN-Model 2007)</u>
p 9-91 表 9-7-2(2) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【騒音】	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>騒音の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>建設機械の騒音発生の抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、騒音を低減できる。</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		(措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) ^a (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u>
	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>資材及び機材の運搬に用いる車両の運行</u> (影響) <u>騒音の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>資材及び機材の運搬に用いる車両の運行</u> <u>による騒音発生の抑制について、工事従事</u> <u>者への講習・指導を実施することにより、</u> <u>振動の発生を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) ^a (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u>
p 9-92 表 9-7-3(1) 環境への 負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置 の検討結果【振動】	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働</u> (影響) <u>振動の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>建設機械の振動発生の抑制について、工事</u> <u>従事者への講習・指導を実施することによ</u> <u>り、振動の発生を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) ^a (効果の不確実性)

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		なし (他の環境要素への影響) なし
p 9-93 表 9-7-3(2) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【振動】	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>資材及び機材の運搬に用いる車両の運行</u> (影響) <u>振動の発生</u> (検討の視点) <u>発生量の低減</u> <u>発生原単位の低減</u> (環境保全措置) <u>工事従事者への講習・指導</u> (環境保全措置の効果) <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の走行による振動発生の抑制について、工事従事者への講習・指導を実施することにより、振動の発生を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性) なし (他の環境要素への影響) なし
p 9-94 表 9-7-4(1) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【水質】	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) 工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。	(工事に伴う変更区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。</u>
p 9-97 表 9-7-6 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【文化財】	—	以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>工事施工ヤードの設置及び存在</u> (影響) <u>文化財への影響</u> (検討の視点) <u>文化財への影響の回避・低減</u> (環境保全措置) <u>変更区域をできる限り小さくする</u> (環境保全措置の効果) <u>変更区域をできる限り小さくすることで、文化財への影響を回避又は低減できる。</u> (措置の区分) <u>回避・低減</u> (実施主体) a (効果の不確実性)

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	—	<p>なし (他の環境要素への影響)</p> <p>なし</p> <p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>工事施工ヤードの設置及び存在</u> (影響) <u>文化財への影響</u> (検討の視点) <u>文化財への影響の回避・低減</u> (環境保全措置) <u>遺跡の発見に関する届出及び関係機関との協議、対処</u> (環境保全措置の効果) <u>法令に基づき、調査中及び工事中に新たに遺跡を発見したときは、その旨を教育委員会等へ届出をし、その後の取扱いは関係箇所と協議を行い対処することで、文化財への影響を回避・低減できる。</u> (措置の区分) <u>回避・低減</u> (実施主体)</p> <p>a (効果の不確実性)</p> <p>なし (他の環境要素への影響)</p> <p>なし</p>
p 9-98 表 9-7-7(1) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【動物】	(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) 工事に伴う改変区域をできる限り小さくすることで、注目種の生息地への影響を回避又は低減できる。	(工事に伴う改変区域をできる限り小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫すること</u> <u>などにより、生息環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。</u>
p 9-99 表 9-7-7(2) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【動物】	(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施 (工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施、環境保全措置の効果) 改変する区域の一部に林縁保護植栽等を図ることで、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できる。	(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施 (工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、環境保全措置の効果) <u>改変する区域の一部に工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できる。</u>
p 9-101 表 9-7-7(4) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【動物】	(照明の漏れ出しの抑制、環境保全措置の効果) 照明の漏れ出しの抑制をすることで、走光性の昆虫類等への影響を低減できる。	(照明の漏れ出しの抑制、環境保全措置の効果) <u>専門家の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けないような配慮による漏れ光の抑制、昆虫類等の誘引効果が</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(照明の漏れ出しの抑制、効果の不確実性) なし</p> <p>—</p>	<p><u>少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行うことで、走光性の重要な昆虫類等の生息環境への影響を低減できる。</u></p> <p>(照明の漏れ出しの抑制、効果の不確実性) <u>あり</u></p> <p>以下を追記 (影響要因) <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行並びに工事施工ヤードの設置</u> <u>(検討種)</u> <u>保全対象種</u> (影響) <u>工事に伴う生息環境への影響</u> (検討の視点) <u>工事に伴う生息環境への影響の低減</u> (環境保全措置) <u>防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用</u> (環境保全措置の効果) <u>防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音、振動の発生が抑えられることで、鳥類等の生息環境への影響を低減できる。</u> (措置の区分) <u>低減</u> (実施主体) <u>a</u> (効果の不確実性) <u>なし</u> (他の環境要素への影響) <u>なし</u></p>
<p>p 9-102 表 9-7-7(5) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【動物】</p>	<p>(重要な種の移植、環境保全措置の効果) 発生土置き場の位置や形状の観点から、そこに生息する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種の生育環境への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</p>	<p>(重要な種の移植、環境保全措置の効果) 発生土置き場の位置や形状の観点から、<u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種の生育環境への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。</u></p>
<p>p 9-103 表 9-7-8(1) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【植物】</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできるだけ小さくする、環境保全措置の効果) 生育環境の変更をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできるだけ小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、生育環境の生育地の改変をで</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		きる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。
p 9-104 表 9-7-8(2) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【植物】	（外来種の拡大抑制、環境保全措置の効果） 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努めることで、外来種の拡大を抑制できる。	（外来種の拡大抑制、環境保全措置の効果） 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。また、 <u>作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できる。</u>
	（外来種の拡大抑制、措置の区分） 低減	（外来種の拡大抑制、措置の区分） <u>回避・低減</u>
p 9-105 表 9-7-8(3) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【植物】	（環境保全措置） 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施 （工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施、環境保全措置の効果） 改変する区域の一部に林縁保護植栽等を図ることで、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生育環境への影響を低減できる。	（環境保全措置） 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施 （工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、環境保全措置の効果） 改変する区域の一部に <u>工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁の保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生育環境への影響を低減できる。</u>
p 9-106 表 9-7-8(4) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【植物】	（重要な種の移植・播種、環境保全措置の効果） 発生土置き場の位置や形状の観点から、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境（植生、光及び水分等の条件）を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	（重要な種の移植・播種、環境保全措置の効果） 発生土置き場の位置や形状の観点から、 <u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境（植生、光及び水分等の条件）を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植・播種は工事实施前に対象個体を確定し、生育環境の詳細な調査（コドラート調査等）を実施した上で、専門家の技術的助言を踏まえながら、対象種に係る移植・播種地や手法等の検討を行う。また、移植・播種後においても、生育状況の確認を行うことから、効果が期待できる。</u>
p 9-106 表 9-7-8(5) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【植物】	（影響要因） 工事の実施 工事施工ヤードの設置 （検討種） 保全対象種 （影響） 地表改変による生育地の消失・縮小 （検討の視点） 地表改変による生育地の消失等の回避、	削除

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>低減 (環境保全措置) 重要な種の生育環境の創出 (環境保全措置の効果) 発生土置き場の位置や形状の観点から、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍においては、湿地、草地、水の流れ及びたまり場を確保するとともに、水際には在来種の湿生植物を植栽した生育環境を創出することで、重要な種への影響を代償することができる。なお、生育環境の創出は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。 (措置の区分) 代償 (実施主体) a (効果の不確実性) あり (他の環境要素への影響) なし</p>	
<p>p 9-107 表 9-7-9(1) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【生態系】</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできるだけ小さくする、環境保全措置の効果) 重要な種の生息・生育環境の変更をできる限り小さくすることで、重要な種の生息・生育地への影響を回避又は低減できる。 (外来種の拡大抑制、環境保全措置の効果) 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努めることで、外来種の拡大を抑制できる。</p>	<p>(工事に伴う変更区域をできるだけ小さくする、環境保全措置の効果) <u>工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、工事に伴う変更区域をできる限り小さくすることで、重要な種の生息・生育地への影響を回避又は低減できる。</u> (外来種の拡大抑制、環境保全措置の効果) 資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。<u>また、作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できる。</u></p>
<p>p 9-108 表 9-7-9(2) 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果【生態系】</p>	<p>(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施 (工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、環境保全措置の効果) 変更する区域の一部に林縁保護植栽等を図ることで、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息・生育環境への影響を低減できる。</p>	<p>(環境保全措置) 工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施 (工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施、環境保全措置の効果) 変更する区域の一部に<u>工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りや、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息・生育環境への影響を低減できる。</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
<p>p 9-109 表 9-7-9(3) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【生態系】</p>	<p>（照明の漏れ出しの抑制、環境保全措置の効果） 照明の漏れ出しの抑制をすることで、走光性の昆虫類などへの影響を低減できる。</p>	<p>（照明の漏れ出しの抑制、環境保全措置の効果） <u>専門家の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けないような配慮による漏れ光の抑制、昆虫類の誘引効果が少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行う</u>ことで、走光性の<u>重要な昆虫類等の生息環境</u>への影響を低減できる。</p>
	<p>（照明の漏れ出しの抑制、効果の不確実性） なし</p>	<p>（照明の漏れ出しの抑制、効果の不確実性） <u>あり</u></p>
<p>p 9-110 表 9-7-9(4) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【生態系】</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 （影響要因） <u>工事の実施</u> <u>建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行並びに工事施工ヤードの設置</u> <u>（検討種）</u> <u>保全対象種</u> （影響） <u>工事に伴う生息環境への影響</u> （検討の視点） <u>工事に伴う生息環境への影響の低減</u> （環境保全措置） <u>防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用</u> （環境保全措置の効果） <u>防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音、振動の発生が抑えられることで、注目種（鳥類等）の生息環境への影響を低減できる。</u> （措置の区分） <u>低減</u> （実施主体） <u>a</u> （効果の不確実性） <u>なし</u> （他の環境要素への影響） <u>なし</u></p>
	<p>（重要な種の移植・播種、環境保全措置の効果） 発生土置き場の位置や形状の観点から、そこに生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境（植生、光及び水分等の条件）を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、専門家の助言を得ながら行うこと</p>	<p>（重要な種の移植・播種、環境保全措置の効果） 発生土置き場の位置や形状の観点から、<u>回避、低減のための環境保全措置を講じた上で、そこに生息・生育する重要な種の一部が、やむを得ず消失することとなる場合は、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境（植生、光及び水分等の条件）を持つ場所へ移植・播種を行うことで、重要な種の生息・生育環境への影響を代償することがで</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	で、効果が期待できる。	きる。なお、重要な種の移植・播種は、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。
p 9-112 表 9-7-11 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【人と自然との触れ合いの活動の場】	<p>（影響要因） 工事の実施 工事施工ヤードの設置及び存在 （影響） 人と自然との触れ合いの活動の場 （検討の視点） 人と自然との触れ合いの場の変化の低減 （環境保全措置） 工事施工ヤード外の工事用車両の進入禁止 （環境保全措置の効果） 工事施工ヤード以外の工事車両の進入禁止を徹底することにより、利用性への影響を緩和することができる。 （措置の区分） 低減 （実施主体） a （効果の不確実性） なし （他の環境要素への影響） なし</p> <p>（構造物の形式、色合いの検討、環境保全措置） 構造物の形式、色合いの検討</p> <p>（構造物の形式、色合いの検討、環境保全措置の効果） 構造物の形式、色合いを検討することにより、快適性への影響を緩和することができる。</p>	<p>削除</p> <p>（構造物の形状等の配慮、環境保全措置） 構造物の<u>形状等の配慮</u></p> <p>（構造物の形状等の配慮、環境保全措置の効果） 構造物の形状等の配慮により、快適性への影響を緩和することができる。</p>
p 9-113 表 9-7-12(1) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【温室効果ガス】	—	追記
p 9-114 表 9-7-12(2) 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果【温室効果ガス】	—	追記
p 10-1 10-1-2 事後調査の項目及び手法	事後調査の項目及び手法を表 10-1 に示す。	事後調査の項目及び手法を表 10-1 に示す。 <u>なお、調査地点等の詳細については、事業の詳細な計画の進捗にあわせて順次決定していく。</u>
p 10-3 表 10-1(1) 事後調査の項目等	（事後調査を行うこととした理由） 地下水の水位については、地質等調査の結果を踏まえ水文地質的に検討を行い予	（事後調査を行うこととした理由） 地下水の水位については、地質等調査の結果を踏まえ水文地質的に検討を行い、 <u>予測</u>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>測しているが、破砕帯を通過する地域及び洪積層の浅層部を通過する地域については、状況によって工事中に集中的な湧水が発生する可能性があり、一部の水道水源等に与える影響の予測に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</p>	<p>しているが、<u>本線トンネル及び非常口（山岳部）</u>において、破砕帯を通過する地域及び洪積層の浅層部を通過する地域については、状況によって工事中に集中的な湧水が発生する可能性があり、一部の水道水源等に与える影響の予測に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</p>
	<p>（水資源（地下水の水位）、調査範囲及び地点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測検討範囲内で、準備書における文献調査及び現地調査で把握した既存の井戸及び湧水等から調査地点を検討する。 ・予測検討範囲内で、上記の「井戸の利用状況等」の調査を踏まえ、井戸の分布状況、標高、地形や地質、トンネルとの位置関係等を考慮の上、一定の集落の単位で調査地点を検討する。 ・地域の意見を踏まえ、必要に応じて予測検討範囲の周囲についても調査地点を検討する。 ・自治体から調査の要請があった井戸についても検討する。 	<p>（水資源（地下水の水位）、調査範囲及び地点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>非常口（山岳部）も含む</u>予測検討範囲内で、準備書における文献調査及び現地調査で把握した既存の井戸及び湧水等から調査地点を検討する。 ・<u>非常口（山岳部）も含む</u>予測検討範囲内で、上記の「井戸の利用状況等」の調査を踏まえ、井戸の分布状況、標高、地形や地質、トンネルとの位置関係等を考慮の上、一定の集落の単位で調査地点を検討する。 ・<u>断層や破砕帯の性状や連続性、及び地域の意見を踏まえ、必要に応じて予測検討範囲の周囲についても調査地点を検討する。</u> ・自治体から調査の要請があった井戸についても検討する。
	<p>（水資源（河川の流量）、項目） 河川の流量 ①河川の流量、水温、pH、電気伝導率</p>	<p>（水資源（河川の流量）、項目） 河川の流量[※] ①河川の流量、水温、pH、電気伝導率</p> <p>注の追記 <u>※地表水の流量の測定にあたっては、専門家等の助言を踏まえて計測地点や計測頻度に係る計画を策定のうえで、実施する。</u></p>
	<p>（水資源（河川の流量）、工事着手前、調査範囲及び地点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測検討範囲内でトンネル計画路線周辺の主な河川を対象にその流域の下流地点等から調査地点を検討する。 	<p>（水資源（河川の流量）、工事着手前、調査範囲及び地点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>断層や破砕帯の性状や連続性も考慮の上、非常口（山岳部）も含む</u>予測検討範囲内でトンネル計画路線周辺の主な河川を対象にその流域の下流地点等から調査地点を検討する。
<p>p 10-5 表 10-1(2) 事後調査の項目等</p>	<p>—</p>	<p>追記</p>
<p>p 10-7 表 10-1(3) 事後調査の項目等</p>	<p>（動物・植物・生態系、事後調査時期及び頻度） 工事中及び工事後の繁殖期 各種の生活史及び生息特性等に応じて設定 各種の生活史及び生育特性等に応じて設定 工事中及び工事後の繁殖期</p>	<p>（動物・植物・生態系、事後調査時期及び頻度） 工事中及び工事後の繁殖期[※] 各種の生活史及び生息特性等に応じて設定[※] 各種の生活史及び生育特性等に応じて設定[※] 工事中及び工事後の繁殖期[※] <u>※期間や実施頻度は種によって異なるため、専門家等にも相談しながら、決定する。</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	—	<p>以下を追記 (動物、事後調査時期及び頻度) <u>工事中及び工事完了後*</u> (動物、事後調査を行うこととした理由) <u>一部の環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u> (動物、調査内容、項目) <u>①照明の漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況</u> (動物、調査内容、手法) <u>任意観察等による生息状況の確認</u> <u>※専門家の助言を踏まえながら実施する。</u></p>
	—	<p>以下を追記 (生態系、事後調査時期及び頻度) <u>工事中及び工事完了後*</u> (生態系、事後調査を行うこととした理由) <u>注目種であるオオタカなどの一部の環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u> (生態系、調査内容、項目) <u>①照明の漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況</u> (生態系、調査内容、手法) <u>任意観察等による生息状況の確認</u> <u>※専門家の助言を踏まえながら実施する。</u></p>
	<p>(生態系、事後調査を行うこととした理由) オオタカの一部の環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。 (生態系、工事中及び工事後の繁殖期*、項目) ①オオタカの生息状況調査(里地・里山の生態系：中津川市千旦林地区)</p>	<p>(生態系事後調査を行うこととした理由、項目) <u>注目種であるオオタカなどの一部の環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u> (生態系、工事中及び工事後の繁殖期*、項目) <u>②ハチクマ、オオタカ*、サンバの生息状況</u> (※里地・里山の生態系の注目種)</p>
	—	<p>以下を追記 (事後調査時期及び頻度) <u>各種の生活史及び生息・生育特性等に応じて設定*</u> (事後調査を行うこととした理由) <u>注目種であるオオタカなどの一部の環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u> (調査内容、項目) <u>③移植した動物の生息状況</u> <u>移植・播種した植物の生育状況</u> (調査内容、手法)</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	—	<p>現地調査（任意観察）による確認 <u>※専門家の助言を踏まえながら実施する。</u></p> <p>以下を追記 （事後調査時期及び頻度） <u>各種の生活史及び生息・生育特性等に応じて設定</u>[※] （事後調査を行うこととした理由） <u>一部の環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。</u> （調査内容、項目） ④創出した生育環境の状況 （調査内容、手法） 現地調査（任意観察）による確認 <u>※専門家の助言を踏まえながら実施する。</u></p>
<p>p 10-9 表 10-1(4) 事後調査の項目等事後調査の項目等（具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難な付帯施設（発生土置き場））</p>	<p>（動物・植物・生態系、事後調査時期及び頻度） 工事中、工事完了後 保全対象種の生活史及び生息特性等に応じて設定 工事中、工事完了後</p>	<p>（動物・植物・生態系、事後調査時期及び頻度） <u>保全対象種の生活史及び生息特性等に応じて設定</u>[※] <u>保全対象種の生活史及び生育特性等に応じて設定</u>[※] <u>保全対象種の生活史及び生息・生育特性等に応じて設定</u>[※] <u>※期間や実施頻度は種によって異なるため、専門家等にも相談しながら、決定する。</u></p>
<p>p 10-11 10-2 具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難な付帯施設に関する環境保全措置の内容をより詳細なものにするための調査</p>	<p>その上で、本評価書において具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難かつ環境への影響が大きい付帯施設である発生土置き場等を新たに当社が今後計画する場合には、場所の選定、関係者との調整を行った後に、以下の通り環境保全措置の内容を詳細なものにするための調査及び影響検討を、事後調査として実施する。</p>	<p>その上で、本評価書において具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難かつ環境への影響が大きい付帯施設である発生土置き場等を新たに当社が今後計画する場合には、場所の選定、関係者との調整を行った後に、以下の通り環境保全措置の内容を詳細なものにするための調査及び影響検討を、事後調査として実施する。<u>なお、場所の選定にあたっては、生物多様性の保全上重要な自然環境・地域を出来る限り避けるとともに、本章に示す調査及び影響検討を実施し、第9章に示す環境保全措置を詳細なものにしていく所存である。</u></p>
<p>p 10-25 10-2-5 結果の公表の方法</p>	<p>各調査結果、影響検討の結果、環境保全措置の計画、及び実施する場合の事後調査の計画については、関係自治体と調整のうえで、関係自治体及び地域にお住まいの住民の方への公表を行う。</p>	<p><u>発生土置き場の位置や規模、各調査結果、影響検討の結果、環境保全措置の計画、及び実施する場合の事後調査の計画については、関係自治体と調整のうえで、関係自治体及び地域にお住まいの住民の方への公表を行う。</u></p>
<p>p 11-3 表 11-1(1) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>（建設機械の稼働、環境保全措置） ①排出ガス対策型建設機械の稼働 ②工事規模に合わせた建設機械の設定 ③建設機械の使用時における配慮 ④建設機械の点検及び整備による性能維持 ⑤工事に伴う変更区域をできる限り小さ</p>	<p>（建設機械の稼働、環境保全措置） ①排出ガス対策型建設機械の稼働 ②工事規模に合わせた建設機械の設定 ③建設機械の使用時における配慮 ④建設機械の点検及び整備による性能維持 ⑤工事に伴う変更区域をできる限り小さ</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>くする</p> <p>⑥揮発性有機化合物（以下、「VOC」という。）の排出抑制</p> <p>（資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置）</p> <p>①資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持</p> <p>②資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮</p> <p>③環境負荷低減を意識した運転の徹底</p>	<p>くする</p> <p>⑥揮発性有機化合物（以下、「VOC」という。）の排出抑制</p> <p><u>⑦工事の平準化</u></p> <p><u>⑧工事従事者への講習・指導</u></p> <p>（資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置）</p> <p>①資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持</p> <p>②資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮</p> <p>③環境負荷低減を意識した運転の徹底</p> <p><u>④工事の平準化</u></p> <p><u>⑤工事従事者への講習・指導</u></p>
<p>p 11-5</p> <p>表 11-1(2)対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>（建設機械の稼働、環境保全措置）</p> <p>①工事規模に合わせた建設機械の設定</p> <p>②工事現場の清掃及び散水</p> <p>③仮囲いの設置</p> <p>④工事に伴う変更区域をできる限り小さくする。</p> <p>⑤工事の平準化</p> <p>（資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置）</p> <p>①荷台への防塵シート敷設及び散水</p> <p>②資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口や周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄</p> <p>③工事の平準化</p>	<p>（建設機械の稼働、環境保全措置）</p> <p>①工事規模に合わせた建設機械の設定</p> <p>②工事現場の清掃及び散水</p> <p>③仮囲いの設置</p> <p>④工事に伴う変更区域をできる限り小さくする</p> <p>⑤工事の平準化</p> <p><u>⑥工事従事者への講習・指導</u></p> <p>（資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置）</p> <p>①荷台への防塵シート敷設及び散水</p> <p>②資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口や周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄</p> <p>③工事の平準化</p> <p><u>④工事従事者への講習・指導</u></p>
<p>p 11-7</p> <p>表 11-1(3)対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>（建設機械の稼働、環境保全措置）</p> <p>①低騒音型建設機械の採用</p> <p>②仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策</p> <p>③工事規模に合わせた建設機械の設定</p> <p>④建設機械の使用時における配慮</p> <p>⑤建設機械の点検・整備による性能維持</p> <p>⑥工事の平準化</p> <p>（資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置）</p> <p>①資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持</p> <p>②資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮</p> <p>③環境負荷低減を意識した運転の徹底</p> <p>④工事の平準化</p>	<p>（建設機械の稼働、環境保全措置）</p> <p>①低騒音型建設機械の採用</p> <p>②仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策</p> <p>③工事規模に合わせた建設機械の設定</p> <p>④建設機械の使用時における配慮</p> <p>⑤建設機械の点検・整備による性能維持</p> <p>⑥工事の平準化</p> <p><u>⑦工事従事者への講習・指導</u></p> <p>（資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置）</p> <p>①資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持</p> <p>②資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮</p> <p>③環境負荷低減を意識した運転の徹底</p> <p>④工事の平準化</p> <p><u>⑤工事従事者への講習・指導</u></p>
<p>p 11-13</p> <p>表 11-1(6)対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>（建設機械の稼働、環境保全措置）</p> <p>①低振動型建設機械の採用</p> <p>②工事規模に合わせた建設機械の設定</p> <p>③建設機械の使用時における配慮</p>	<p>（建設機械の稼働、環境保全措置）</p> <p>①低振動型建設機械の採用</p> <p>②工事規模に合わせた建設機械の設定</p> <p>③建設機械の使用時における配慮</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	④建設機械の点検・整備による性能維持 ⑤工事の平準化	④建設機械の点検・整備による性能維持 ⑤工事の平準化 ⑥工事従事者への講習・指導
	(資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置) ①資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持 ②資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮 ③環境負荷低減を意識した運転の徹底 ④工事の平準化	(資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置) ①資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持 ②資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮 ③環境負荷低減を意識した運転の徹底 ④工事の平準化 ⑤工事従事者への講習・指導
p 11-21 表 11-1 (10) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価	(トンネルの工事、環境保全措置) ①工事排水の適切な処理 ②工事排水の監視 ③処理設備の点検・整備による性能維持	(トンネルの工事、環境保全措置) ①工事排水の適切な処理 ②工事排水の監視 ③処理設備の点検・整備による性能維持 ④放流時の放流箇所及び水温の調整
p 11-23 表 11-1 (11) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価	(トンネルの工事、環境保全措置) ①工事排水の適切な処理 ②工事排水の監視 ③処理設備の点検・整備による性能維持	(トンネルの工事、環境保全措置) ①工事排水の適切な処理 ②工事排水の監視 ③処理設備の点検・整備による性能維持 ④放流時の放流箇所及び水温の調整
p 11-33 表 11-1 (16) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価	(トンネルの工事及び鉄道施設 (トンネル) の存在、環境保全措置) ①工事排水の適切な処理 ②工事排水の監視 ③処理設備の点検・整備による性能維持 ④適切な構造及び工法の採用 ⑤薬液注入工法における指針の順守 ⑥地下水等の監視 ⑦応急措置の体制整備 ⑧代替水源の確保	(トンネルの工事及び鉄道施設 (トンネル) の存在、環境保全措置) ①工事排水の適切な処理 ②工事排水の監視 ③処理設備の点検・整備による性能維持 ④放流時の放流箇所及び水温の調整 ⑤適切な構造及び工法の採用 ⑥薬液注入工法における指針の順守 ⑦地下水等の監視 ⑧応急措置の体制整備 ⑨代替水源の確保
p 11-39 表 11-1 (19) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価	(トンネルの工事、予測結果) 未固結層部及び土被りが小さい区間等で地山が緩むおそれのある箇所では、地質の状況に応じて適切な補助工法を採用し、地山の安定を確保するため、地盤沈下が生じることはない予測する。	(トンネルの工事、予測結果) 未固結層部及び土被りが小さい区間等で地山が緩むおそれのある箇所では、地質の状況に応じて適切な補助工法を採用し、地山の安定を確保するため、地盤沈下は <u>小さい</u> と予測する。
	(トンネルの工事、事後調査計画) 計画しない。	(トンネルの工事、事後調査計画) ①地表面の沈下量
p 11-41 表 11-1 (20) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価	(切土工等又は既存の工作物の除去、環境保全措置) ①有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理 ②薬液注入工法における指針の順守 ③発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	(切土工等又は既存の工作物の除去、環境保全措置) ①有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理 ②薬液注入工法における指針の順守 ③発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底 ④仮置場における掘削土砂の適切な管理 ⑤工事排水の適切な処理
	(トンネルの工事、評価結果) トンネルの工事に伴う土壌汚染を回避又	(トンネルの工事、評価結果) トンネルの工事に伴う土壌汚染を回避さ

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>は低減させるため、定期的な発生土に含まれる重金属等の定期的な調査、仮置場における発生土の適切な管理等の環境保全措置を確実に実施することにより、事業者により実行可能な範囲内で回避が図られていると判断した。</p>	<p>せるため、発生土に含まれる重金属等の定期的な調査、仮置場における発生土の適切な管理等の環境保全措置を確実に実施することにより、事業者により実行可能な範囲内で回避が図られていると判断した。</p>
<p>p 11-47 表 11-1 (23) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>(調査結果) 【現地調査】 調査の結果、哺乳類 7 目 16 科 26 種、鳥類 17 目 45 科 128 種、爬虫類 2 目 7 科 14 種、両生類 2 目 6 科 14 種、昆虫類 21 目 381 科 3,142 種、魚類 5 目 10 科 30 種、底生動物 26 目 100 科 290 種、陸産貝類 3 目 18 科 55 種が確認された。 また、重要な種として、哺乳類 5 目 7 科 12 種、鳥類 17 目 31 科 56 種、爬虫類 1 目 2 科 3 種、両生類 2 目 5 科 10 種、昆虫類 8 目 40 科 90 種、魚類 8 目 11 科 26 種、底生動物 5 目 6 科 9 種、陸産貝類 1 目 6 科 22 種が確認された。</p> <p>(動物、環境保全措置) ①重要な種の生息地の全体又は一部を回避 ②工事に伴う変更区域をできる限り小さくする ③資材運搬等の適正化 ④代替巣等の設置 ⑤重要な種の移植 ⑥汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置 ⑦工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施 ⑧防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用 ⑨照明の漏れ出しの抑制 ⑩コンディショニングの実施 ⑪工事従事者への講習・指導</p> <p>(動物、評価結果) 大部分をトンネル構造にする等して、変更面積を極力小さくする計画とし、動物への影響の回避又は低減を図っている。一部の種については、生息環境の一部が保全されない可能性があるとして予測されたが、低騒音・低振動型の建設機械の使用等の環境保全措置を実施することで、影響の回避又は低減に努める。</p>	<p>(調査結果) <u>現地調査</u>において、哺乳類 7 目 16 科 26 種、鳥類 17 目 45 科 128 種、爬虫類 2 目 7 科 14 種、両生類 2 目 6 科 14 種、昆虫類 21 目 381 科 3,142 種、魚類 5 目 10 科 30 種、底生動物 26 目 100 科 290 種、陸産貝類 3 目 18 科 55 種が確認された。 また、<u>文献調査及び現地調査により確認された重要な種</u>として、哺乳類 5 目 7 科 12 種、鳥類 <u>15</u> 目 <u>28</u> 科 <u>49</u> 種、爬虫類 1 目 2 科 3 種、両生類 2 目 5 科 <u>9</u> 種、昆虫類 8 目 40 科 <u>88</u> 種、魚類 8 目 11 科 <u>25</u> 種、底生動物 5 目 6 科 <u>8</u> 種、陸産貝類 1 目 6 科 <u>20</u> 種が確認された。</p> <p>(動物、環境保全措置) ①重要な種の生息地の全体又は一部を回避 ②工事に伴う変更区域をできる限り小さくする ③<u>工事従事者への講習・指導</u> ④<u>資材運搬等の適正化</u> ⑤<u>工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施</u> ⑥汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置 ⑦放流時の放流箇所及び水温の調整 ⑧<u>照明の漏れ出しの抑制</u> ⑨防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用 ⑩<u>コンディショニングの実施</u> ⑪<u>重要な種の移植</u> ⑫<u>代替巣等の設置</u></p> <p>(動物、評価結果) 大部分をトンネル構造にする等して、変更面積を極力小さくする計画とし、動物への影響の回避又は低減を図っている。一部の種については、生息環境の一部が保全されない可能性があるとして予測されたが、低騒音・低振動型の建設機械の使用等の環境保全措置を実施することで、影響の回避又は低減に努める。<u>さらに、列車に関する騒音等が野生動物に及ぼす影響に関しては、現時点で十分な知見が蓄積されていないが、影響の把握や環境保全措置等について、整備新幹線での対応状況も見ながら検討を進めていく。</u> なお、照明の漏れ出しの抑制、コンディシ</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(動物、事後調査計画)</p> <p>①ハチクマ、オオタカ、サシバの生息状況調査</p> <p>②コガタブチサンショウウオ、コガムシ、マツカサガイ、ヒラヒダリマキマイマイの生息状況調査</p>	<p><u>ヨニングの実施、重要な種の移植及び代替巢等の設置は、環境保全措置の効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。</u></p> <p>(動物、事後調査計画)</p> <p>①<u>照明の漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況</u></p> <p>②ハチクマ、オオタカ、サシバの生息状況調査</p> <p>③コガタブチサンショウウオ、コガムシ、マツカサガイ、ヒラヒダリマキマイマイの生息状況調査</p>
<p>p 11-49 表 11-1 (24) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>(植物、調査結果)</p> <p>【現地調査】 調査の結果、高等植物 159 科 1,407 種、高等植物に係る群落 32 群落、土地利用 8 群落を確認された。 また、高等植物に係る重要な種は、74 科 222 種が確認され、高等植物に係る重要な群落は確認されなかった。</p> <p>(植物、事後調査計画)</p> <p>①重要な種の生育環境の全体又は一部を回避</p> <p>②工事に伴う改変区域をできる限り小さくする</p> <p>③重要な種の生育環境の創出</p> <p>④工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施</p> <p>⑤重要な種の移植・播種</p> <p>⑥汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置</p> <p>⑦工事従事者への講習・指導</p> <p>⑧外来種の拡大抑制</p>	<p>(植物、調査結果)</p> <p><u>現地調査において</u>、高等植物 159 科 1,407 種、高等植物に係る群落 32 群落、土地利用 8 群落が確認された。 また、<u>文献調査及び現地調査により確認された高等植物に係る重要な種は、70 科 206 種が確認され</u>、高等植物に係る重要な群落は確認されなかった。</p> <p>(植物、事後調査計画)</p> <p>①重要な種の生育環境の全体又は一部を回避</p> <p>②工事に伴う改変区域をできる限り小さくする</p> <p>③<u>外来種の拡大抑制</u></p> <p>④<u>工事従事者への講習・指導</u></p> <p>⑤<u>工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施</u></p> <p>⑥汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置</p> <p>⑦<u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u></p> <p>⑧<u>重要な種の移植・播種</u></p> <p>⑨<u>重要な種の生育環境の創出</u></p>
<p>p 11-51 表 11-1 (25) 対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>(生態系、事後調査計画)</p> <p>①注目種等の生息・生育地の全体又は一部を回避</p> <p>②工事に伴う改変区域をできる限り小さくする</p> <p>③資材運搬等の適正化</p> <p>④防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用</p> <p>⑤重要な種の移植・播種</p> <p>⑥汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置</p> <p>⑦工事施工ヤード等の林縁保護植栽の実施</p> <p>⑧照明の漏れ出しの抑制</p> <p>⑨コンディショニングの実施</p> <p>⑩工事従事者への講習・指導</p>	<p>(生態系、事後調査計画)</p> <p>①注目種等の生息・生育地の全体又は一部を回避</p> <p>②工事に伴う改変区域をできる限り小さくする</p> <p>③<u>外来種の拡大抑制</u></p> <p>④<u>工事従事者への講習・指導</u></p> <p>⑤<u>資材運搬等の適正化</u></p> <p>⑥<u>工事施工ヤード等の林縁保護植栽等の実施</u></p> <p>⑦<u>汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置</u></p> <p>⑧<u>放流時の放流箇所及び水温の調整</u></p> <p>⑨<u>照明の漏れ出しの抑制</u></p> <p>⑩<u>防音シート、防音扉、低騒音・低振動型の建設機械の採用</u></p> <p>⑪<u>コンディショニングの実施</u></p> <p>⑫<u>重要な種の移植・播種</u></p> <p>⑬<u>重要な種の生育環境の創出</u></p> <p>⑭<u>代替巢等の設置</u></p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>(生態系、事後調査計画)</p> <p>①オオタカの生息状況調査(里地・里山の生態系：中津川市千旦林地区)</p>	<p>(生態系、事後調査計画)</p> <p>①<u>照明の漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況</u></p> <p>②<u>ハチクマ、オオタカ※、サシバの生息状況調査</u> (※里地・里山の生態系の注目種)</p> <p>③<u>移植した動物の生息状況</u></p> <p>④<u>移植した植物の生育状況</u></p> <p>④<u>創出した生育環境の状況</u></p>
<p>p 11-55 表 11-1(27)対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>(切土工等又は既存の工作物の除去、環境保全措置)</p> <p>①建設発生土の再利用</p> <p>②建設汚泥の脱水処理</p> <p>③副産物の分別・再資源化</p>	<p>(切土工等又は既存の工作物の除去、環境保全措置)</p> <p>①建設発生土の再利用</p> <p>②建設汚泥の脱水処理</p> <p>③副産物の分別・再資源化</p> <p>④<u>発生土を有効利用する事業者への情報提供</u></p>
<p>p 11-57 表 11-1(28)対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>(トンネルの工事、環境保全措置)</p> <p>①建設発生土の再利用</p> <p>②建設汚泥の脱水処理</p> <p>③副産物の分別・再資源化</p>	<p>(廃棄物等、環境保全措置)</p> <p>①建設発生土の再利用</p> <p>②建設汚泥の脱水処理</p> <p>③副産物の分別・再資源化</p> <p>④<u>発生土を有効利用する事業者への情報提供</u></p>
<p>p 11-59 表 11-1(29)対象事業に係る環境影響の総合的な評価</p>	<p>(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、予測結果)</p> <p>工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)に伴い発生する温室効果ガス排出量は、35,081tCO₂/年であり、本事業における温室効果ガス年平均排出量は、岐阜県における1年間あたりの温室効果ガス16,305千tCO₂/年と比較すると0.22%程度である。</p> <p>(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、環境保全措置)</p> <p>①低炭素型建設機械の選定</p> <p>②高負荷運転の抑制</p> <p>③工事規模に合わせた建設機械の設定</p> <p>④建設機械の点検・整備による性能維持</p> <p>⑤資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持</p> <p>⑥低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化</p> <p>(鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用、予測結果)</p> <p>鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用に伴い発生する温室効果ガス排出量は159,068tCO₂/年であり、本事業における温室効果ガス年平均排出量は、岐阜県における1年間あたりの温室効果ガス</p>	<p>(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、建設資材の使用及び廃棄物の発生、予測結果)</p> <p>工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、<u>建設資材の使用及び廃棄物の発生</u>)に伴い発生する温室効果ガス排出量は、<u>100,095tCO₂/年</u>である。</p> <p>(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、建設資材の使用及び廃棄物の発生、環境保全措置)</p> <p>①低炭素型建設機械の選定</p> <p>②高負荷運転の抑制</p> <p>③工事規模に合わせた建設機械の設定</p> <p>④建設機械の点検・整備による性能維持</p> <p>⑤資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持</p> <p>⑥低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化</p> <p>⑦<u>工事従事者への講習・指導</u></p> <p>⑧<u>副産物の分別・再資源化</u></p> <p>(鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用、予測結果)</p> <p>鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用に伴い発生する温室効果ガス排出量は159,068tCO₂/年である。</p>

補正後の環境影響評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>16,305千tCO₂/年と比較すると0.98%程度である。</p> <p>(鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用、環境保全措置)</p> <p>①省エネルギー型製品の導入</p> <p>②温室効果ガスの排出抑制に留意した施設の整備や管理</p> <p>③設備機器の点検・整備による性能維持</p> <p>④鉄道施設(車両基地)の緑化・植栽</p>	<p>(鉄道施設(駅、車両基地、換気施設)の供用、環境保全措置)</p> <p>①省エネルギー型製品の導入</p> <p>②温室効果ガスの排出抑制に留意した施設の整備や管理</p> <p>③設備機器の点検・整備による性能維持</p> <p>④鉄道施設(車両基地)の緑化・植栽</p> <p><u>⑤廃棄物の分別・再資源化</u></p> <p><u>⑥廃棄物の処理・処分の円滑化</u></p>

■資料編

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
事 3-3-2 表 3-3-1(1) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-4 表 3-3-1(2) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (橋梁・2 下部工) バックホウ、25t (橋梁・6 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (橋梁・2 下部工) バックホウ、 <u>0.8 m³</u> (橋梁・6 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-6 表 3-3-1(3) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-8 表 3-3-1(4) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t (橋梁・2 下部工) バックホウ、25t (橋梁・6 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t (橋梁・2 下部工) バックホウ、 <u>0.8 m³</u> (橋梁・6 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-10 表 3-3-1(5) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t (変電施設・3 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、250t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t (変電施設・3 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、250t
事 3-3-12 表 3-3-1(6) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (地上駅・5 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (地上駅・5 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-14 表 3-3-1(7) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (車両基地・4 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、250t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (車両基地・4 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、250t
事 3-3-16 表 3-3-1(8) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (高架橋①・6 電気機械設備工、建設機械) ラフテレーンクレーン、400t (山岳トンネル①・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (高架橋①・6 電気機械設備工、建設機械) <u>クローラー</u> クレーン、400t (山岳トンネル①・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-18 表 3-3-1(9) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (高架橋②・6 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t (山岳トンネル②・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (高架橋②・6 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t (山岳トンネル②・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t

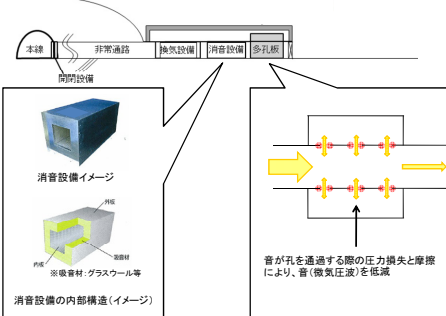
評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
事 3-3-20 表 3-3-1(10) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (橋梁・6 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t (非常口・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (橋梁・6 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t (非常口・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-22 表 3-3-1(11) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル①・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t (高架橋・6 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (7 電気機械設備工、建設機械) <u>クローラー</u> クレーン、400t (高架橋・6 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-24 表 3-3-1(12) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル②・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル②・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-26 表 3-3-1(13) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-28 表 3-3-1(14) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル①・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t (高架橋・6 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル①・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t (高架橋・6 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-30 表 3-3-1(15) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル②・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (山岳トンネル②・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-32 表 3-3-1(16) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (高架橋①・6 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t (山岳トンネル①・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (高架橋①・6 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t (山岳トンネル①・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-34 表 3-3-1(17) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (高架橋②・6 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t (山岳トンネル②・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (高架橋②・6 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t (山岳トンネル②・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-36 表 3-3-1(18) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (非常口・7 電気機械設備工) <u>クローラー</u> クレーン、400t
事 3-3-38 表 3-3-1(19) 建設機械の台数	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (変電施設・3 電気設備工) ラフテレーンクレーン、250t	建設機械 (名称), 建設機械 (規格) (変電施設・3 電気設備工) <u>クローラー</u> クレーン、250t

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
事 3-3-40 表 3-3-1(20)建設機械 の台数	建設機械(名称),建設機械(規格) (非常口・7 電気機械設備工) ラフテレーンクレーン、400t	建設機械(名称),建設機械(規格) (非常口・7 電気機械設備工) クローラークレーン、400t
事 7-1 7 これまでに実施した 地質調査の概要	—	「7 これまでに実施した地質調査の概 要」を追記
事 8-1 8 工事着手までの流れ と関係地域住民への説 明について	—	「8 工事着手までの流れと関係地域住民 への説明について」を追記
環 1-1-2 表 1-1-1(2)大気質排 出量	—	以下を追記 (建設機械) クローラークレーン (規格) 250t (定格出力) 253 (NOX 排出係数) 805 (SPM 排出係数) 24 (平均稼働率) 0.729
環 1-1-2 表 1-1-1(2)大気質排 出量	—	以下を追記 (建設機械) クローラークレーン (規格) 250t(一次排出ガス対策型) (定格出力) 254 (NOX 排出係数) 808 (SPM 排出係数) 24 (平均稼働率) 0.729
環 1-1-2 表 1-1-1(2)大気質排 出量	—	以下を追記 (建設機械) クローラークレーン (規格) 400t (定格出力) 448 (NOX 排出係数) 1,426 (SPM 排出係数) 42 (平均稼働率) 0.729

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
環 1-1-2 表 1-1-1(2) 大気質排出量	(建設機械) <u>ラフテレーンクレーン</u> (規格) <u>250t (一次排出ガス対策型)</u> (定格出力) <u>257</u> (NOX 排出係数) <u>521</u> (SPM 排出係数) <u>21</u> (平均稼働率) <u>0.721</u>	削除
環 1-1-2 表 1-1-1(2) 大気質排出量	(建設機械) <u>ラフテレーンクレーン</u> (規格) <u>250t</u> (定格出力) <u>257</u> (NOX 排出係数) <u>925</u> (SPM 排出係数) <u>27</u> (平均稼働率) <u>0.721</u>	削除
環 1-1-2 表 1-1-1(2) 大気質排出量	(建設機械) <u>ラフテレーンクレーン</u> (規格) <u>400t</u> (定格出力) <u>257</u> (NOX 排出係数) <u>925</u> (SPM 排出係数) <u>27</u> (平均稼働率) <u>0.721</u>	削除
環 1-5-1 使用する気象データの期間代表性及び地域代表性による誤差の程度について	—	大気質の予測にあたっては、年平均濃度を予測するため、予測地点および測定状況を踏まえ、下記の通り設定した。 ①予測対象地域において通年の現地調査を実施している場合は、現地調査で得られたデータを気象条件として用いた。 ②現地調査が4季連続1週間測定の予測地点については、周辺に一般環境大気測定局があり、現地調査結果との相関係数が0.7以上の場合は、一般環境大気測定局の通年データを現地測定結果で補正し、気象条件として用いた。 ③現地調査が4季連続1週間測定の予測地点のうち、周辺に一般環境大気測定局

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>がない場合及び周辺にあっても相関係数が0.7を下回る場合は、現地調査で得られた4季連続1週間のデータを用いた。</p> <p>このうち、②および③については、①の場合に比べて誤差のレベルが問題とならないかの検証を行った。まず、②の場合について、現地調査の4季連続1週間のデータによる予測結果と、一般環境測定局の通年データ（風向・風速）のうち同じ期間分のデータ、すなわち4季1週間のデータを抜き出して補正係数（一般環境測定局の風速が現地調査の風速の何倍になるかを計算してとめたもの）を乗じ、そのデータによる予測結果との誤差を比較することで、補正した一般環境測定局のデータが現地の地域の気象を代表するものとして用いることができるかを地域代表性と定義して、検討を行った。</p> <p>次に、③の場合について、4季1週間のデータが通年のデータを代表できるかを期間代表性と定義して検討を行った。具体的には、通年データのある現地調査箇所又は一般環境大気測定局において、通年データによる予測結果と、4季1週間分のデータのみを抜き出しそれによる予測結果との誤差を比較し検証を行った。以下にそれらの内容を示す。</p>
<p>環 2-1-2 表 2-1-1 (1) 建設機械 騒音原単位一覧</p>	<p>—</p>	<p>以下を追記 （建設機械） <u>クローラークレーン</u> （規格） <u>250t</u> （PWL（dB）） <u>107</u> （基準点振動 出典No.） <u>⑦</u></p>
<p>環 2-1-3 表 2-1-1 (2) 建設機械 騒音原単位一覧</p>	<p>（建設機械） <u>ラフテレーンクレーン</u> （規格） <u>250t</u> （PWL（dB）） <u>107</u> （基準点振動 出典No.） <u>⑦</u></p>	<p>削除</p>

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	(建設機械) <u>ラフテレーンクレーン</u> (規格) <u>400t</u> (PWL (dB)) <u>107</u> (基準点振動 出典No.) <u>⑦</u>	削除
環 2-10-1 2-10 地下の走行に伴う騒音について	<p>また、非常口においてはトンネルから地上への換気経路となる部分に、必要に応じて開閉設備、消音設備、多孔板を設置している。このうち開閉設備は列車が通過する前に扉を遮断し、列車通過時の騒音を低減するものであり、山梨リニア実験線で約 10dB の騒音低減効果があることを確認している。また、開閉設備の稼働に伴い発生する音はモータで駆動する音が主体であり、列車通過音と比較すると騒音や低周波音の影響は非常に小さいこと、数秒の動作時間をかけて扉を遮断するものであり、稼働に伴う微気圧波も発生しないことを確認している。消音設備は主に換気施設のファンの騒音を低減させるために設置するものであり、多孔板は主に微気圧波を低減させるためのものであるが、これらはファンの騒音や列車走行により発生する騒音の低減にも寄与する。これらの設備の設置により、非常口の外においては、列車が地下のトンネルを走行する際の騒音の影響はない。</p> <p>なお、山梨リニア実験線での試験結果から開閉設備透過後のパワーレベルを設定 (約 120dB) し、消音設備、多孔板の減衰効果 (評価書 表 8-1-2-31~32) を考慮した上で、評価書 p. 8-1-2-48~49 に記載の「3) 鉄道施設 (換気施設) の供用、b) 予測式」と同様の予測式を用いて、計算を行った。その結果、地下の走行に伴い非常口から発生する列車走行騒音は、約 23dB (換気口中心から 20m 離れ、1.2m 高さ) と予測し、列車走行に伴う騒音の影響はないと考える。</p>	<p>また、非常口 (山岳部) においてはトンネルから地上への換気経路となる部分に、必要に応じて開閉設備、消音設備、多孔板を設置している。このうち開閉設備は列車が通過する前に扉を遮断し、列車通過時の騒音を低減するものであり、山梨リニア実験線で約 10dB の騒音低減効果があることを確認している。また、開閉設備の稼働に伴い発生する音はモータで駆動する音が主体であり、列車通過音と比較すると騒音や低周波音の影響は非常に小さいこと、数秒の動作時間をかけて扉を遮断するものであり、稼働に伴う微気圧波も発生しないことを確認している。消音設備は主に換気施設のファンの騒音を低減させるために設置するものであり、多孔板は主に微気圧波を低減させるためのものであるが、これらはファンの騒音や列車走行により発生する騒音の低減にも寄与する。これらの設備の設置により、非常口 (山岳部) の外においては、列車が地下のトンネルを走行する際の騒音の影響はない。</p> <p><u>以上より、地下における列車の走行騒音については評価項目に選定しない。</u></p> <p>なお、山梨リニア実験線での試験結果から開閉設備透過後のパワーレベルを設定 (約 120dB) し、消音設備、多孔板の減衰効果 (評価書 表 8-1-2-31~32) を考慮した上で、評価書 p. 8-1-2-48~49 に記載の「3) 鉄道施設 (換気施設) の供用、b) 予測式」と同様の予測式を用いて、計算を行った。その結果、地下の走行に伴い非常口 (山岳部) から発生する列車走行騒音は、約 23dB (換気口中心から 20m 離れ、1.2m 高さ) と予測し、列車走行に伴う騒音の影響はないと考える。</p> <p><u>開閉設備透過後のパワーレベルの設定にあたっては、山梨リニア実験線模擬立坑の開閉設備の寸法が約 12m²であるのに対し、営業線での開閉設備の寸法が約 50m²であるため、透過後のパワーレベルが開閉設備の面積に比例すると考え以下の補正式にて、開閉設備透過後のパワーレベルを補正した。</u></p>

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		$\Delta L_s = 10 \log (S1/S2)$ S1: 営業線における開閉設備面積 S2: 実験線における開閉設備面積
環 2-10-2 図 2-10-1 開閉設備の配置		
環 2-10-2 図 2-10-3 多孔板のイメージ	—	追記
環 3-1-2 表 3-1-1 (1) 基準点振動レベル	—	以下を追記 (建設機械) <u>クローラークレーン</u> (規格) <u>250t</u> (基準点振動 (7m) (dB)) <u>40</u> (基準点振動 出典No.) <u>②</u>
	—	以下を追記 (建設機械) <u>クローラークレーン</u> (規格) <u>400t</u> (基準点振動 (7m) (dB)) <u>40</u> (基準点振動 出典No.) <u>②</u>
環 3-1-3 表 3-1-1 (2) 基準点振動レベル	(建設機械) ラフテレーンクレーン (規格) 250t (基準点振動 (7m) (dB)) 40 (基準点振動 出典No.) ②	削除
	(建設機械) ラフテレーンクレーン (規格) 400t (基準点振動 (7m) (dB)) 40 (基準点振動 出典No.) ②	削除
環 3-2-1 3-2 環境振動現地調査結果	環境振動の現地調査結果を表 3-2-1 に示す。	環境振動の現地調査結果を表 3-2-1 に示す。なお地盤の状況については、「道路環境影響評価の技術手法」に基づく予測

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<u>に必要となる、地盤種別について調査を行った。</u>
環 3-3-1 3-3 道路交通振動現地調査結果	道路交通振動の現地調査結果を表 3-3-1 に示す。なお、調査地点の断面図は騒音と同様である。	道路交通振動の現地調査結果を表 3-3-1 に示す。なお、調査地点の断面図は騒音と同様である。 <u>また、地盤の状況については、「道路環境影響評価の技術手法」に基づく予測に必要となる、地盤種別及び地盤卓越振動数について調査を行った。</u>
環 3-11-1 3-11 地盤等の条件の違いによる影響について	—	追記
環 4-3-1 4-3-1 緩衝工	山梨リニア実験線では数値解析や走行試験等によって開発を推進し緩衝工の効果を検証しており、中央新幹線では図 4-3-1-2 に示す円形の形状の緩衝工を設置することを計画している。	山梨リニア実験線では数値解析や走行試験等によって開発を推進し緩衝工の効果を検証しており、中央新幹線では図 4-3-1-2 に示す円形の形状の緩衝工を設置することを計画している。 <u>山梨リニア実験線においても、緩衝工を設置することで微気圧波を低減できることを確認している。また、試験的に入口緩衝工の延長を約 3 倍にした場合、微気圧波が約 5 割低減できることを確認していることから、緩衝工を延長することで微気圧波を低減できると考える。</u>
環 4-7-1 4-7 多孔板の延長による効果について	—	「4-7 多孔板の延長による効果について」を追記
環 5-1-1 5-1 列車走行に伴う低周波音について	これは、建物のガタつきに関する目安値である「トンネル坑口緩衝工の設置基準（案）」（山岳トンネル設計施工標準・同解説、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、平成 20 年 4 月）の、「民家近傍で微気圧波のピーク値が 20Pa 以上」を下回っており、沿線への影響は小さく低周波音に関する苦情は発生していない。	これは、建物のガタつきに関する目安値である「トンネル坑口緩衝工の設置基準（案）」（山岳トンネル設計施工標準・同解説、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、平成 20 年 4 月）の、「民家近傍で微気圧波のピーク値が 20Pa 以上」を下回っており、沿線への影響は小さく低周波音に関する苦情は発生していない。 <u>なお、万が一、列車走行により線路近傍の民家において建具のガタつきが発生した場合、列車走行との因果関係を把握し、必要に応じて適切な対応を行う。</u>
環 7-4-1 7-4 環境保全措置の具体的な内容	—	「7-4 環境保全措置の具体的な内容」を追記
環 8-1-1 8-1-1 実験線区間の水資源等への影響検討について	山梨リニア実験線においては、工事に先立ち、実験線区間のトンネル掘削に伴う水資源等への影響検討を行っており、その結果は表 8-1-1-1 のとおりである。	山梨リニア実験線においては、工事に先立ち、実験線区間のトンネル掘削に伴う <u>代表的な水資源等への影響検討</u> を行っており、その結果は表 8-1-1-1 のとおりである。
環 8-1-1 表 8-1-1-1 影響検討結果		以下を追記 「水資源の減少、枯渇等の状況」

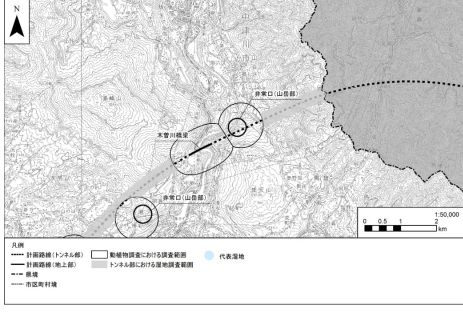
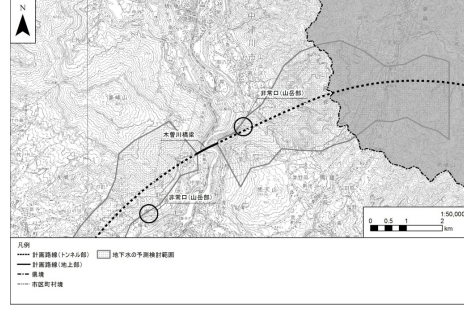
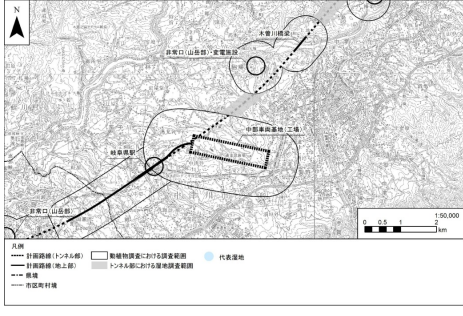
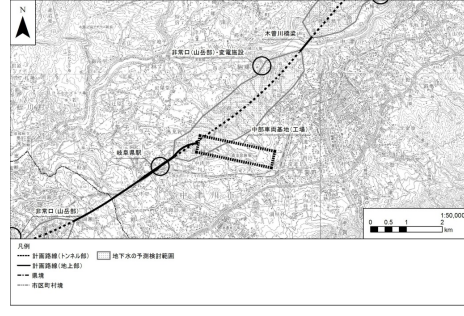
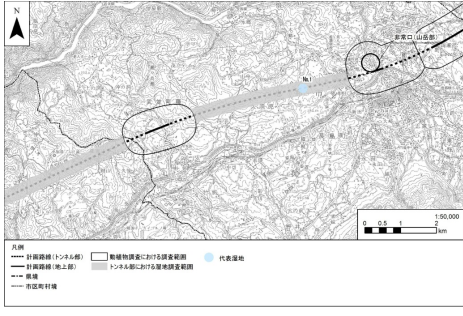
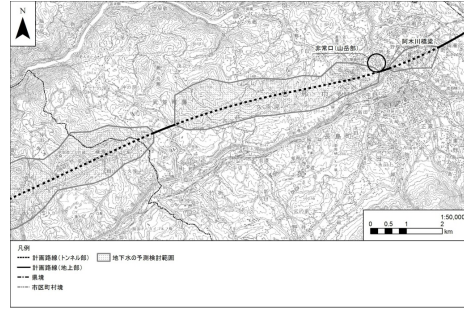
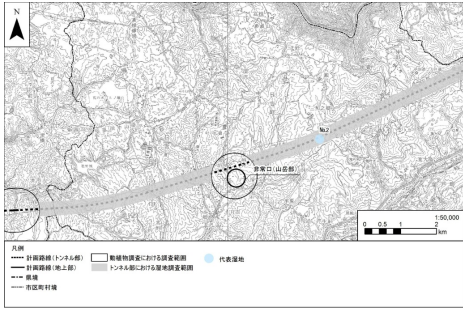
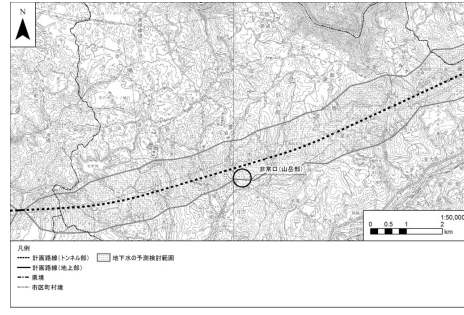
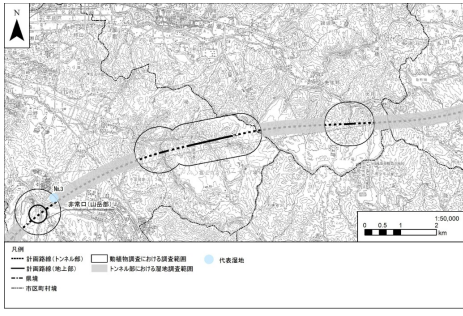
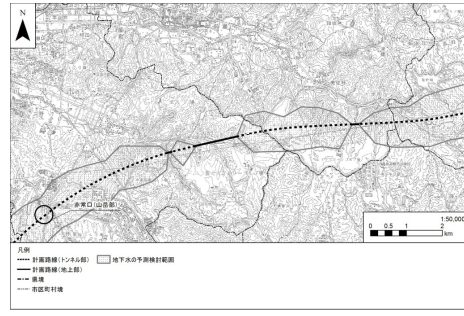
評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書																																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>位置・場所</th> <th>影響検討結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>境川村～御坂町 ①竹居～上黒駒間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、基盤層に亀裂が発達しており、地下水水位の施工となるため、地下水位の低下が予測され、路線周辺の井戸等の一部に影響が与ることが予測される。</td> </tr> <tr> <td>御坂町～大月市笹子町 ②上黒駒～奥野沢間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、基盤層は採まれており、トンネル掘削に伴う地下水位の低下により特選野川の流量が影響をうけ減少すると予測される。</td> </tr> <tr> <td>大月市笹子町～都留市小形山 ③奥野沢～丸田沢間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、基盤層は採まれており、割れ目も発達し、それに沿って粘土化している。トンネル掘削に伴う地下水位の低下により奥野沢、穴沢及び日影沢の流量が影響をうけ減少すると予測される。</td> </tr> <tr> <td>大月市笹子町～都留市小形山 ④丸田沢～中谷間のトンネル</td> <td>この区間の地質は比較的固結度がよく透水性も小さい。また、この区間の沢は降雨量に左右され、付替が可能ことから影響はほとんどないものと考えられる。</td> </tr> <tr> <td>都留市小形山～朝日曾雌 ⑤丸鬼～大平間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。</td> </tr> <tr> <td>都留市小形山～朝日曾雌 ⑥大平～朝日曾雌間のトンネル</td> <td>この区間の地質は比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。</td> </tr> <tr> <td>朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑦朝日曾雌～大の入川間のトンネル</td> <td>この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。</td> </tr> <tr> <td>朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑧大の入川～安寺沢間のトンネル</td> <td>この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。</td> </tr> </tbody> </table>	位置・場所	影響検討結果	境川村～御坂町 ①竹居～上黒駒間のトンネル	この区間の地質は、基盤層に亀裂が発達しており、地下水水位の施工となるため、地下水位の低下が予測され、路線周辺の井戸等の一部に影響が与ることが予測される。	御坂町～大月市笹子町 ②上黒駒～奥野沢間のトンネル	この区間の地質は、基盤層は採まれており、トンネル掘削に伴う地下水位の低下により特選野川の流量が影響をうけ減少すると予測される。	大月市笹子町～都留市小形山 ③奥野沢～丸田沢間のトンネル	この区間の地質は、基盤層は採まれており、割れ目も発達し、それに沿って粘土化している。トンネル掘削に伴う地下水位の低下により奥野沢、穴沢及び日影沢の流量が影響をうけ減少すると予測される。	大月市笹子町～都留市小形山 ④丸田沢～中谷間のトンネル	この区間の地質は比較的固結度がよく透水性も小さい。また、この区間の沢は降雨量に左右され、付替が可能ことから影響はほとんどないものと考えられる。	都留市小形山～朝日曾雌 ⑤丸鬼～大平間のトンネル	この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。	都留市小形山～朝日曾雌 ⑥大平～朝日曾雌間のトンネル	この区間の地質は比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。	朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑦朝日曾雌～大の入川間のトンネル	この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。	朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑧大の入川～安寺沢間のトンネル	この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>位置・場所</th> <th>影響検討結果</th> <th>本資料の補正、補正等の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>境川村～御坂町 ①竹居～上黒駒間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、基盤層に亀裂が発達しており、地下水水位の施工となるため、地下水位の低下が予測され、路線周辺の井戸等の一部に影響が与ることが予測される。</td> <td>丸田沢流域において減湯水が確認された。</td> </tr> <tr> <td>御坂町～大月市笹子町 ②上黒駒～奥野沢間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、基盤層は採まれており、トンネル掘削に伴う地下水位の低下により特選野川の流量が影響をうけ減少すると予測される。</td> <td>特選野川流域のほか、百倉山流域、赤沢流域において減湯水が確認された。</td> </tr> <tr> <td>大月市笹子町～都留市小形山 ③奥野沢～丸田沢間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、基盤層は採まれており、割れ目も発達し、それに沿って粘土化している。トンネル掘削に伴う地下水位の低下により奥野沢、穴沢及び日影沢の流量が影響をうけ減少すると予測される。</td> <td>日影沢流域において減湯水が確認された。 奥野沢川流域、穴沢(穴沢)流域においては、明確な流量の減少は確認されなかった。</td> </tr> <tr> <td>大月市笹子町～都留市小形山 ④丸田沢～中谷間のトンネル</td> <td>この区間の地質は比較的固結度がよく透水性も小さい。また、この区間の沢は降雨量に左右され、付替が可能ことから影響はほとんどないものと考えられる。</td> <td>明確な流量の減少は確認されなかった。</td> </tr> <tr> <td>都留市小形山～朝日曾雌 ⑤丸鬼～大平間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。</td> <td>朝日小沢流域において減湯水が確認された。</td> </tr> <tr> <td>都留市小形山～朝日曾雌 ⑥大平～朝日曾雌間のトンネル</td> <td>この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。</td> <td>明確な流量の減少は確認されなかった。</td> </tr> <tr> <td>朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑦朝日曾雌～大の入川間のトンネル</td> <td>この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。</td> <td>崩入沢流域において減湯水が確認された。</td> </tr> <tr> <td>朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑧大の入川～安寺沢間のトンネル</td> <td>この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。</td> <td>善ヶ沢流域においては、明確な流量の減少は確認されなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	位置・場所	影響検討結果	本資料の補正、補正等の状況	境川村～御坂町 ①竹居～上黒駒間のトンネル	この区間の地質は、基盤層に亀裂が発達しており、地下水水位の施工となるため、地下水位の低下が予測され、路線周辺の井戸等の一部に影響が与ることが予測される。	丸田沢流域において減湯水が確認された。	御坂町～大月市笹子町 ②上黒駒～奥野沢間のトンネル	この区間の地質は、基盤層は採まれており、トンネル掘削に伴う地下水位の低下により特選野川の流量が影響をうけ減少すると予測される。	特選野川流域のほか、百倉山流域、赤沢流域において減湯水が確認された。	大月市笹子町～都留市小形山 ③奥野沢～丸田沢間のトンネル	この区間の地質は、基盤層は採まれており、割れ目も発達し、それに沿って粘土化している。トンネル掘削に伴う地下水位の低下により奥野沢、穴沢及び日影沢の流量が影響をうけ減少すると予測される。	日影沢流域において減湯水が確認された。 奥野沢川流域、穴沢(穴沢)流域においては、明確な流量の減少は確認されなかった。	大月市笹子町～都留市小形山 ④丸田沢～中谷間のトンネル	この区間の地質は比較的固結度がよく透水性も小さい。また、この区間の沢は降雨量に左右され、付替が可能ことから影響はほとんどないものと考えられる。	明確な流量の減少は確認されなかった。	都留市小形山～朝日曾雌 ⑤丸鬼～大平間のトンネル	この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。	朝日小沢流域において減湯水が確認された。	都留市小形山～朝日曾雌 ⑥大平～朝日曾雌間のトンネル	この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。	明確な流量の減少は確認されなかった。	朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑦朝日曾雌～大の入川間のトンネル	この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。	崩入沢流域において減湯水が確認された。	朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑧大の入川～安寺沢間のトンネル	この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。	善ヶ沢流域においては、明確な流量の減少は確認されなかった。
位置・場所	影響検討結果																																														
境川村～御坂町 ①竹居～上黒駒間のトンネル	この区間の地質は、基盤層に亀裂が発達しており、地下水水位の施工となるため、地下水位の低下が予測され、路線周辺の井戸等の一部に影響が与ることが予測される。																																														
御坂町～大月市笹子町 ②上黒駒～奥野沢間のトンネル	この区間の地質は、基盤層は採まれており、トンネル掘削に伴う地下水位の低下により特選野川の流量が影響をうけ減少すると予測される。																																														
大月市笹子町～都留市小形山 ③奥野沢～丸田沢間のトンネル	この区間の地質は、基盤層は採まれており、割れ目も発達し、それに沿って粘土化している。トンネル掘削に伴う地下水位の低下により奥野沢、穴沢及び日影沢の流量が影響をうけ減少すると予測される。																																														
大月市笹子町～都留市小形山 ④丸田沢～中谷間のトンネル	この区間の地質は比較的固結度がよく透水性も小さい。また、この区間の沢は降雨量に左右され、付替が可能ことから影響はほとんどないものと考えられる。																																														
都留市小形山～朝日曾雌 ⑤丸鬼～大平間のトンネル	この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。																																														
都留市小形山～朝日曾雌 ⑥大平～朝日曾雌間のトンネル	この区間の地質は比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。																																														
朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑦朝日曾雌～大の入川間のトンネル	この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。																																														
朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑧大の入川～安寺沢間のトンネル	この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。																																														
位置・場所	影響検討結果	本資料の補正、補正等の状況																																													
境川村～御坂町 ①竹居～上黒駒間のトンネル	この区間の地質は、基盤層に亀裂が発達しており、地下水水位の施工となるため、地下水位の低下が予測され、路線周辺の井戸等の一部に影響が与ることが予測される。	丸田沢流域において減湯水が確認された。																																													
御坂町～大月市笹子町 ②上黒駒～奥野沢間のトンネル	この区間の地質は、基盤層は採まれており、トンネル掘削に伴う地下水位の低下により特選野川の流量が影響をうけ減少すると予測される。	特選野川流域のほか、百倉山流域、赤沢流域において減湯水が確認された。																																													
大月市笹子町～都留市小形山 ③奥野沢～丸田沢間のトンネル	この区間の地質は、基盤層は採まれており、割れ目も発達し、それに沿って粘土化している。トンネル掘削に伴う地下水位の低下により奥野沢、穴沢及び日影沢の流量が影響をうけ減少すると予測される。	日影沢流域において減湯水が確認された。 奥野沢川流域、穴沢(穴沢)流域においては、明確な流量の減少は確認されなかった。																																													
大月市笹子町～都留市小形山 ④丸田沢～中谷間のトンネル	この区間の地質は比較的固結度がよく透水性も小さい。また、この区間の沢は降雨量に左右され、付替が可能ことから影響はほとんどないものと考えられる。	明確な流量の減少は確認されなかった。																																													
都留市小形山～朝日曾雌 ⑤丸鬼～大平間のトンネル	この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。	朝日小沢流域において減湯水が確認された。																																													
都留市小形山～朝日曾雌 ⑥大平～朝日曾雌間のトンネル	この区間の地質は、比較的固結度もよく透水性も小さいため、影響はほとんどないと考えられる。	明確な流量の減少は確認されなかった。																																													
朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑦朝日曾雌～大の入川間のトンネル	この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。	崩入沢流域において減湯水が確認された。																																													
朝日曾雌～南都留郡秋山村 ⑧大の入川～安寺沢間のトンネル	この区間の地質は全体的には良好である。しかし、付近の断層の影響により一部基盤が風化していることも考えられ、崩入沢の影響を受けることが予測される。	善ヶ沢流域においては、明確な流量の減少は確認されなかった。																																													
<p>環 8-1-2 8-1-2 工事中の影響及び対応</p>	<p>地元と協議の上、測定箇所を選定して継続的に流量観測を行い、減水の兆候を事前に把握するよう努めた。また、より精緻な調査のため一部の地区については、観測用の井戸を設けるなどの対応をとった。その結果、竹居～上黒駒間のトンネル、上黒駒～奥野沢間のトンネル、朝日曾雌～大の入川間のトンネル、大の入川～安寺沢間のトンネルにおいて流量の減少等が観測されたが、住民（水利用者）の生活に支障をきたさぬよう、応急対策を実施しており、その後も流量観測を継続し、住民の皆様と協議をしながら、必要な恒久対策を実施している。</p>	<p><u>実験線の影響予測においては、一部において影響があると予測されたこと、代表的な河川を抽出しており、それ以外の河川に減湯水が生じる可能性もあることから</u>地元と協議の上、測定箇所を選定して継続的に流量観測を行い、減水の兆候を事前に把握するよう努めた。また、より精緻な調査のため一部の地区については、観測用の井戸を設けるなどの対応をとった。その結果、竹居～上黒駒間のトンネル、上黒駒～奥野沢間のトンネル、朝日曾雌～大の入川間のトンネル、大の入川～安寺沢間のトンネルにおいて流量の減少等が観測されたが、住民（水利用者）の生活に支障をきたさぬよう、応急対策を実施しており、その後も流量観測を継続し、住民の皆様と協議をしながら、必要な恒久対策を実施している。</p>																																													
<p>環 8-1-2 8-1-3 トンネル工事実施時の水資源に対する対応の基本的な考え方</p>	<p>施工中は河川流量、井戸水位観測、水質調査等の水文調査を継続的に行い、トンネル掘削に伴う湧水で地表水の枯渇減少等により地表水利用に対する影響監視を継続的に実施する。工事中に減水・湧水などの兆候が認められた地区については、住民（水利用者）の生活に支障をきたさぬよう、応急対策を実施する。具体的には、揚水井戸を設け水道設備に供給したり、トンネル湧水を簡易水道に供給したりする等の対策を実施する。</p>	<p><u>山梨リニア実験線区間での影響検討と、本評価書における予測は、ともに水文・地質学的検討を基本に定性的に行っており、水収支解析を実施し定量的に予測している南アルプス区間を除き予測の考え方には基本的に違いはない。</u>そのため<u>施工中は河川流量、井戸水位観測、水質調査等の水文調査を継続的に行い、トンネル掘削に伴う湧水で地表水の枯渇減少等により地表水利用に対する影響監視を継続的に実施する。工事中に減水・湧水などの兆候が認められた地区については、住民（水利用者）の生活に支障をきたさぬよう、応急対策を実施する。具体的には、揚水井戸を設け水道設備に供給</u></p>																																													

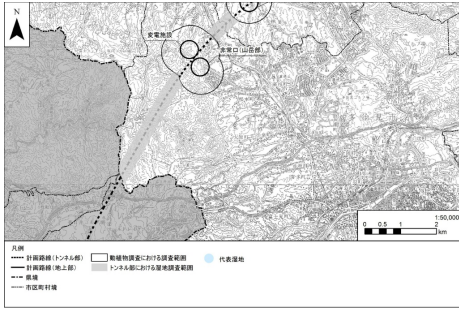
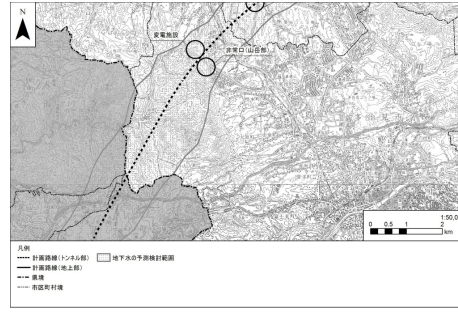
評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
環 9-1-1 9-1 掘削土に含まれる 自然由来重金属等の調 査について	また、汚染のおそれのある掘削土が確認された場合においては、現場内および周辺への重金属等の拡散を防止するために、被覆、遮水工等の適切かつ合理的な対策工を立案し、施工管理を行うとともに、「汚染土壌の運搬に関するガイドライン（環境省）」等を踏まえながら、土壌汚染対策法等の関係法令を遵守し、適切に運搬、処理を実施していく。	したり、トンネル湧水を簡易水道に供給したりする等の対策を実施する。 また、汚染のおそれのある掘削土が確認された場合においては、現場内および周辺への重金属等の拡散を防止するために、被覆、遮水工等の適切かつ合理的な対策工を立案し、施工管理を行うとともに、「汚染土壌の運搬に関するガイドライン（環境省）」等を踏まえながら、土壌汚染対策法等の関係法令を遵守し、適切に運搬、処理を実施していく。 <u>工事中において基準不適合土壌が発生した場合は、その都度、岐阜県及び関係市町に報告するとともに、地元の方々にもお知らせし、適切な対策を講じる。</u>
環 9-2-2 図 9-2-1 旧動燃のボー リング位置図		
環 12-2-1 12 岐阜県指定天然記 念物「大実カヤの木」 について	—	追記
環 13-1-2 13-1-2 国際非電離放 射線防護委員会 (ICNIRP) の基準につ いて	なお、低レベルの磁界の長期曝露の影響については、世界保健機関（WHO）及び ICNIRP によりレビューが行われたが、明確な影響の証拠といえるものはなく、WHO は 2007 年 6 月のファクトシート No. 322 において、恣意的に低いばく露制限値を採用する政策は是認されるべきではないことを述べている。	なお、低レベルの磁界の長期曝露の影響については、世界保健機関（WHO）及び ICNIRP によりレビューが行われたが、明確な影響の証拠といえるものはなく、WHO は 2007 年 6 月のファクトシート No. 322 において、恣意的に低いばく露制限値を採用する政策は是認されるべきではないことを述べている。 <u>長期曝露の影響については、今後も知見の収集に努めていく。</u>
環 13-8-1 13-8 磁界の測定結果 について	<p>山梨リニア実験線で計測した磁界を付属資料 1～11 に示す。各付属資料の内容およびその測定箇所については下記のとおりである。なお、この測定作業は、平成 25 年 12 月 5 日に沿線各都県市（東京都、神奈川県、川崎市、横浜市、相模原市、山梨県、静岡県、静岡市、長野県、岐阜県、愛知県、名古屋市）の環境審査会と自治体担当者の計 20 名及び報道各社の立会のもと、公開した。</p> <p>付属資料 1 超電導リニアの磁界測定データについて 付属資料 2 測定地点図 付属資料 3 測定地点 I—都留保守基地・環境影響評価準備書に記載の実測値測</p>	<p><u>山梨リニア実験線の沿線における磁界の測定データについては、環境影響評価準備書において、測定点 1（超電導磁石から水平 6m の位置：付属資料 4 を参照）で 0.19mT、測定点 2（高架下 8m の位置：付属資料 8 を参照）で 0.02mT という結果を提示した。本測定データ自体は、平成 9 年 3 月に山梨県及び山梨大学の立会のもとに当社が計測したものであり、平成 10 年 6 月の（公財）鉄道総合技術研究所の論文” Environmental Magnetic Fields in the Yamanashi Test Line, T. SASAKAWA et al, QR of RTRI, Vol.39, No.2”（付属資料 1 を参照）にて報告された公知のものである。</u></p> <p>また、山梨リニア実験線において、平</p>

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>定点1（超電導磁石から水平6m地点） 付属資料4 測定地点Ⅱ一車両基地近傍 ・浅深度地下トンネル模擬点・・・トンネル上の土被り約2m地点の地上高さ0.5m 付属資料5 測定地点Ⅲ一乗降装置・車内 ・駅の乗降装置内（高さ0.5、1.0、1.5mの最大値） ・超電導リニア車両内（出入口、貫通路、客室2か所の各箇所における高さ0.3、1.0、1.5mでの最大値） 付属資料6 測定地点Ⅳ一都留市大原 ・環境影響評価準備書に記載の予測値予測地点02・・・高架橋高さ約25m地点の地上高さ1.5m 付属資料7 測定地点Ⅴ一犬伏市初狩 ・環境影響評価準備書に記載の予測値予測地点03・・・高架橋高さ約5m地点の地上高さ1.5m ・環境影響評価準備書に記載の実測値測定点2（高架下8m地点） 付属資料8 測定地点Ⅵ一犬伏市黒野田 ・大深度地下トンネル模擬点・・・トンネル上の土被り約37m地点の地上高さ0.5m 付属資料9（参考資料1）磁界に関わる法令等及び当社の考え方 付属資料10（参考資料2）使用した磁界の測定機器と数値の読み取り 付属資料11（参考資料3）磁界測定作業公開時の配布資料に記載した12/4測定データ</p> <p>なお、心臓ペースメーカー等への対応について、当日の測定結果をもとに整理した結果を付属資料12に示す。</p> <p>付属資料12（参考資料4）心臓ペースメーカー等への対応について</p>	<p>平成25年12月5日に沿線各都県市（東京都、神奈川県、川崎市、横浜市、相模原市、山梨県、静岡県、静岡市、長野県、岐阜県、愛知県、名古屋市）の環境審査会と自治体担当者の計20名及び報道各社の立会のもと、公開で実施した測定作業において計測した磁界を付属資料2～12に示す。測定方法については、鉄道に関する技術上の基準を定める省令等の解釈基準の一部改正について（平成24年8月1日国鉄技第42号）によって通達された「特殊鉄道告示の解釈基準」に規定されたIEC62110(2009)及びIEC/TS62597(2011)に則っている。</p> <p>平成25年12月5日の磁界測定公開時の測定結果の有効性については、付属資料2にも記載があるが、次のように公知の事実となっている。</p> <p>・当社の測定方法が国際基準に則った適切なものであることを、電磁気学の専門家にご確認頂いた、具体的には愛知県環境影響評価審査会リニア中央新幹線部会委員の藤原修・名古屋工業大学名誉教授（電磁環境工学）から、国際基準に則った方法により測定していること、測定方法に問題ないとのコメントを頂いており新聞等で報道もなされている。</p> <p>また、環境影響評価準備書における実測値の有効性についても、次の事実から明らかである。</p> <p>・環境影響評価準備書の測定点1（超電導磁石から水平6mの位置：付属資料4を参照）及び測定点2（高架下8mの位置：付属資料8を参照）の山梨県及び山梨大学立ち会いによる実測値に対して、上記のとおり測定方法の有効性が確認された中で行われた平成25年12月5日の磁界測定の公開における測定値は同等（測定点1=0.19mT（準備書）、0.19mT（公開時測定値）、測定点2=0.02mT（準備書）、0.021mT（公開時測定値））であり、値が一貫していることを確認し、準備書に記載の実測値についても改めて有効性を確認した。</p> <p>なお、各付属資料の内容およびその測定箇所については下記のとおりである。</p> <p>付属資料1 山梨リニア実験線における沿線磁界に関する論文 付属資料2 超電導リニアの磁界測定デ</p>

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>ータについて</p> <p>付属資料 3 測定地点図</p> <p>付属資料 4 測定地点Ⅰ—都留保守基地 ・環境影響評価準備書に記載の実測値測定点1（超電導磁石から水平6m地点）</p> <p>付属資料 5 測定地点Ⅱ—車両基地近傍 ・浅深度地下トンネル模擬点・・・トンネル上の土被り約2m地点の地上高さ0.5m</p> <p>付属資料 6 測定地点Ⅲ—乗降装置・車内 ・駅の乗降装置内（高さ0.5、1.0、1.5mの最大値） ・超電導リニア車両内（出入台、貫通路、客室2か所の各箇所における高さ0.3、1.0、1.5mでの最大値）</p> <p>付属資料 7 測定地点Ⅳ—都留市大原 ・環境影響評価準備書に記載の予測値予測地点02・・・高架橋高さ約25m地点の地上高さ1.5m</p> <p>付属資料 8 測定地点Ⅴ—大月市初狩 ・環境影響評価準備書に記載の予測値予測地点03・・・高架橋高さ約5m地点の地上高さ1.5m ・環境影響評価準備書に記載の実測値測定点2（高架下8m地点）</p> <p>付属資料 9 測定地点Ⅵ—大月市黒野田 ・大深度地下トンネル模擬点・・・トンネル上の土被り約37m地点の地上高さ0.5m</p> <p>付属資料 10（参考資料1）磁界に関わる法令等及び当社の考え方</p> <p>付属資料 11（参考資料2）使用した磁界の測定機器と数値の読み取り</p> <p>付属資料 12（参考資料3）磁界測定作業公開時の配布資料に記載した12/4測定データ</p> <p><u>資料の測定結果のうち、×印を付している箇所は運営上の時間的な制約から、12/4及び12/5の測定を行わなかった箇所である。</u></p> <p>なお、心臓ペースメーカ等への対応について、当日の測定結果をもとに整理した結果を付属資料 13 に示す。</p> <p>付属資料 13（参考資料4）心臓ペースメーカ等への対応について</p>
環 13-8-3 付属資料 1 山梨リニア実験線における沿線磁界に関する論文	—	「付属資料 1 山梨リニア実験線における沿線磁界に関する論文」を追記
環 13-9-1 13-9 磁界に関する基本的な内容について	—	「13-9 磁界に関する基本的な内容について」を追記

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
環 14-4-1 14-4 確認調査（動物）の結果	—	「14-4 確認調査（動物）の結果」を追記
環 15-5-1 15-5 重要な種のの生息環境の創出の事例	15-4 ビオトープ概要 植物における環境保全措置「重要な種の生育環境の創出」として、下記に示すビオトープのようなものを設置することを考えている。	15-5 重要な種のの生息環境の創出の事例 「本編 8-4-2 植物」に記載のとおり、中部車両基地においては、重要な種への生育環境への影響を回避、低減するための環境保全措置を講じた上で、やむを得ず一部の重要な種の生育地が消失することとなる場合、環境保全措置である「重要な種の移植・播種」を実施した上で、専門家の助言を踏まえ、以下に示すビオトープの整備事例も参考に「重要な種の生育環境の創出」を実施することを考えている。
環 15-6-1 15-6 外来種の拡大抑制に関する事例	—	「15-6 外来種の拡大抑制に関する事例」を追記
環 15-7-1 15-7 林縁保護植栽の成功事例	—	「15-7 林縁保護植栽の成功事例」を追記
環 15-8-1 15-8 確認調査（植物）の結果	—	「15-8 確認調査（植物）の結果」を追記
環 16-2-1 16-2 生態系におけるハビタットの機能等の変化に対する予測について	—	「16-2 生態系におけるハビタットの機能等の変化に対する予測について」を追記
環 16-3-1 16-3 山岳トンネル上部における湿地環境の調査結果	当該地域には、日本の重要湿地に選定されている沖ノ洞・上ノ洞、大湫以外にも湧水湿地が多数存在しているものの、その実態が不詳である。そのため、山岳トンネル区間における湿地の分布と概況、重要な種の分布と生息・生育環境、湿地の形成に関わる水文・地質の状況等について現状を把握した（表 16-2-1-1）。	削除
環 16-3-1 16-3 山岳トンネル上部における湿地環境の調査結果	表 16-2-1-1 湿地環境の調査の内容	削除
環 16-3-1 16-3-1 調査範囲	16-2-1 調査地点 湿地概況調査は、山岳トンネル区間において、文献調査を基に現地確認された湿地を調査対象とした。 湿地概況調査の対象とした湿地の内、東濃地域の代表的な湿地である湧水湿地及び遷移が進行していない初期の段階、重要種が多く確認されている湿地環境の良好な地点で、地域の分布バランスを踏まえ、代表湿地を3地点選定し、水文・	16-3-1 調査範囲 <u>山岳トンネル上部における湿地の状況を把握するため、現地踏査を実施した。</u> <u>調査範囲は、「本編 8-2-3 地下水の水質及び水位」に示す高橋の水文学的方法による地下水の予測検討範囲とした。</u> 調査範囲を図 16-3-1-1 に示す。

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>地質等に関わる調査を実施した。 調査地点を図 16-2-1-1 に示す。</p>	
<p>環 16-3-2 図 16-3-1-1(1) 調査位置図</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 動物物産区における調査範囲 計画路線(地上部) トンネル部における動物物産区 道路 境界線 調査点 代表産地</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 地下水の予測範囲 計画路線(地上部) 道路 境界線 調査点</p>
<p>環 16-3-3 図 16-3-1-1(2) 調査位置図</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 動物物産区における調査範囲 計画路線(地上部) トンネル部における動物物産区 道路 境界線 調査点 代表産地</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 地下水の予測範囲 計画路線(地上部) 道路 境界線 調査点</p>
<p>環 16-3-4 図 16-3-1-1(3) 調査位置図</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 動物物産区における調査範囲 計画路線(地上部) トンネル部における動物物産区 道路 境界線 調査点 代表産地</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 地下水の予測範囲 計画路線(地上部) 道路 境界線 調査点</p>
<p>環 16-3-5 図 16-3-1-1(4) 調査位置図</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 動物物産区における調査範囲 計画路線(地上部) トンネル部における動物物産区 道路 境界線 調査点 代表産地</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 地下水の予測範囲 計画路線(地上部) 道路 境界線 調査点</p>
<p>環 16-3-6 図 16-3-1-1(5) 調査位置図</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 動物物産区における調査範囲 計画路線(地上部) トンネル部における動物物産区 道路 境界線 調査点 代表産地</p>	 <p>凡例 計画路線(トンネル部) 地下水の予測範囲 計画路線(地上部) 道路 境界線 調査点</p>

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
環 16-3-7 図 16-3-1-1(6) 調査位置図		
環 16-3-8 (1) 現地踏査で確認した湿地について	—	追記
環 16-3-11 (2) 湿地の成り立ちと遷移段階による区分について	<p>(1) 湿地の確認状況と湿地のタイプ区分 山岳トンネル区間の現地調査において、計 12 箇所の湿地を現地確認した。</p> <p>東濃地域でみられる湿地は、「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して」（平成 19 年 3 月、愛知県環境部）、「里山の生態学」（平成 14 年 3 月、広木詔三）等によると、湿地は湧水・泥炭・沼沢湿地に分けられ、湧水湿地は形成場所や湧水形式により、発散型と収束型に区分される。また、湿地の遷移過程について、初期段階ではコケ類や食虫植物等が生育し、その後一年性草本を中心とした低茎草本類が生育し、さらに進行に応じて高茎草地、さらに樹林へと遷移する。現地確認した湿地のタイプを表 16-2-2-1 に示す。</p>	<p>(2) 湿地の成り立ちと遷移段階による区分について</p> <p>東濃地域でみられる湿地は、「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して」（平成 19 年 3 月、愛知県環境部）、「里山の生態学」（平成 14 年 3 月、広木詔三、財団法人名古屋大学出版会）等によると、表 16-3-2-2 のとおり、<u>湿地はその成り立ちの違いにより湧水湿地、泥炭湿地、沼沢湿地、その他に区分することができる。</u></p> <p><u>また湿地は、植物相の遷移の過程上で一時的に形成されるものであり、地表面の乾燥化や周辺の樹林化などに伴って、自然と縮小していく。遷移の初期段階においては、貧栄養な環境であり、コケ類や食虫植物等が生育し、その後、一年性草本を中心とした低茎草本類が生育する。初期段階から遷移が進行すると、年を追って多年生草本が量を増やし、次第に背の高い高茎草本類が生育する。さらに遷移が進行すると、湿地部に樹木が侵入し、その成長は蒸発散量の増加に伴う湿地部の乾燥化に加え、根の発達により地中への漏水を生じ、さらに遷移を進行させる大きな要因となり、時間の経過とともに樹林へと移り変わる(図 16-3-2-1 参照)。</u></p> <p><u>現地踏査で確認した湿地を、その湿地の成り立ちと遷移段階の区分によって、表 16-3-2-3 に示すとおり区分した。その結果、泥炭湿地に該当するものはなく、山地内の緩斜面や丘陵地内の溪流の谷頭、谷底低地などに位置し、湧水湿地に区分されるものが、全体の約 2/3 を占めた。また、遷移の初期段階であるコケ類や食虫植物などの貧栄養な環境である湿地は、全体で約 1/4 程度しかなく、そのほとんどが湧水湿地の発散型に存在することが確認された。</u></p>

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書																																																																																					
環 16-3-12 図 16-2-2-1 湿地の遷移の段階	—	追記																																																																																					
環 16-3-12 表 16-3-2-3 湿地の成り立ちと遷移段階ごとの湿地箇所数	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">タイプ</th> <th>遷移の段階</th> <th>箇所数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">湧水湿地 (約 67%)</td> <td rowspan="3">発散型</td> <td>初期</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>やや進行</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>進行(樹林)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">収束型</td> <td>初期</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>やや進行</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>進行(樹林)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">泥炭湿原 (0%)</td> <td>高層</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中層(中間)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>低層</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">沼沢湿原 (約 8%)</td> <td>初期</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>やや進行</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>進行(樹林)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">その他 (25%) (土捨て場、休耕田等)</td> <td>初期</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>やや進行</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>進行(樹林)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td></td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	タイプ		遷移の段階	箇所数	湧水湿地 (約 67%)	発散型	初期	3	やや進行	0	進行(樹林)	1	収束型	初期	0	やや進行	0	進行(樹林)	4	泥炭湿原 (0%)	高層	0	中層(中間)	0	低層	0	沼沢湿原 (約 8%)	初期	0	やや進行	1	進行(樹林)	0	その他 (25%) (土捨て場、休耕田等)	初期	1	やや進行	1	進行(樹林)	1	計			12	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">湿地の成り立ち</th> <th colspan="3">遷移段階</th> <th colspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>初期</th> <th>やや進行</th> <th>進行(樹林)</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>湧水湿地</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>16</td> <td>30 (約 67%)</td> </tr> <tr> <td>沼沢湿地</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>沼沢湿地</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>(約 27%)</td> </tr> <tr> <td>その他 (土捨て場、休耕田等)</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>(約 7%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11 (約 25%)</td> <td>15 (約 33%)</td> <td>19 (約 42%)</td> <td>45</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	湿地の成り立ち	遷移段階			計		初期	やや進行	進行(樹林)			湧水湿地	9	6	1	16	30 (約 67%)	沼沢湿地	0	4	10	14		沼沢湿地	0	5	7	12	(約 27%)	その他 (土捨て場、休耕田等)	2	0	1	3	(約 7%)	計	11 (約 25%)	15 (約 33%)	19 (約 42%)	45	
タイプ		遷移の段階	箇所数																																																																																				
湧水湿地 (約 67%)	発散型	初期	3																																																																																				
		やや進行	0																																																																																				
		進行(樹林)	1																																																																																				
	収束型	初期	0																																																																																				
		やや進行	0																																																																																				
		進行(樹林)	4																																																																																				
泥炭湿原 (0%)	高層	0																																																																																					
	中層(中間)	0																																																																																					
	低層	0																																																																																					
沼沢湿原 (約 8%)	初期	0																																																																																					
	やや進行	1																																																																																					
	進行(樹林)	0																																																																																					
その他 (25%) (土捨て場、休耕田等)	初期	1																																																																																					
	やや進行	1																																																																																					
	進行(樹林)	1																																																																																					
計			12																																																																																				
湿地の成り立ち	遷移段階			計																																																																																			
	初期	やや進行	進行(樹林)																																																																																				
湧水湿地	9	6	1	16	30 (約 67%)																																																																																		
沼沢湿地	0	4	10	14																																																																																			
沼沢湿地	0	5	7	12	(約 27%)																																																																																		
その他 (土捨て場、休耕田等)	2	0	1	3	(約 7%)																																																																																		
計	11 (約 25%)	15 (約 33%)	19 (約 42%)	45																																																																																			
環 16-3-13 (3) 湿地の地質構造のタイプによる区分について	—	「(3) 湿地の地質構造のタイプによる区分について」を追記																																																																																					
環 16-3-15 (4) 東濃地域における山岳トンネル上部の湿地について	—	「(4) 東濃地域における山岳トンネル上部の湿地について」を追記																																																																																					
環 16-3-16 (5) 今後の進め方について	<p>(4) その他</p> <p>東濃地域の湧水湿地は、文献調査及び現地調査結果より、地層中の不透水層並びに難透水層の存在が湧水及び湿地環境を創出していることから、不透水層等の下を通過するトンネルによる影響はほとんどなく、保全されると予測する(図 16-2-2-1 参照)。</p> <p>なお、東濃地域の湧水湿地については、「本編 8-2-3 地下水の水質及び水位」に示す予測検討範囲のうち、湿地環境及び専門家の助言を踏まえ、指標となる種の生息・生育状況より、一定の地域の単位で地点を選定し、モニタリングを実施する。</p>	<p>(5) 今後の進め方について</p> <p><u>平成 24 年の現地踏査にて確認された湿地については動植物調査を実施しているが、平成 26 年の現地踏査で確認された湿地については、工事の着手までに動植物調査を実施する。</u></p> <p>また、「本編 8-2-3 地下水の水質及び水位」に示す予測検討範囲内の湿地のうち、湿地環境及び専門家の助言を踏まえ、指標となる種の生息・生育状況を勘案して、一定の地域の単位で地点を選定し、モニタリングを実施する。</p> <p><u>また、工事中は、「本編 8-2-4 水資源」において環境影響評価法に基づく事後調査として実施する河川や沢の流量調査とともに、トンネルの湧水を測定して、減水の傾向が認められ、湿地への影響の可能性が考えられる場合には、その影響の程度や範囲に応じた指標となる種の状況確認を行い、重要種への影響が確認された場合は、「重要な種の移植」などの環境保全措置を講じる。</u></p>																																																																																					
環 16-3-17、19 (参考資料 1) 湧水湿地で確認された重要な種	<p>(2) 湿地で確認された重要な種</p> <p>現地調査により確認された昆虫類に関わる重要な種は、4 科 4 種であった。また、高等植物に関わる重要な種は、10 科 14 種であった。</p> <p>現地で確認された昆虫類及び高等植物に関わる重要な種とその選定基準を、表 16-2-2-2 及び表 16-2-2-3 に、また、代</p>	<p>(参考資料 1) 湿地で確認された重要な種</p> <p><u>平成 24 年の現地踏査にて確認された湿地 (32 箇所) において、平成 24 年 4 月～平成 25 年 5 月に動植物調査を実施した。現地調査により確認された昆虫類に関わる重要な種は、2 目 4 科 4 種であった。また、高等植物に関わる重要な種は、17 科 23 種であった。</u></p>																																																																																					

<p>評価書の該当箇所</p>	<p>補正前の環境影響評価書</p> <p>表湿地で確認された重要な種を表16-2-2-4に示す。</p>	<p>補正後の環境影響評価書</p> <p>現地で確認された昆虫類及び高等植物に関わる重要な種とその選定基準を、表-1及び表-2に示す。また、<u>湿地の成り立ち</u>区分別に、確認された重要な種の湿地1箇所あたりの平均確認種数と主な種を表-3に示す。</p> <p>現地調査により、湧水湿地の発散型はミミカキグサ類などの食虫植物が多く見られ、昆虫類であるヒメタイコウチも確認された。湧水湿地の収束型や沼沢湿地、その他の湿地は、シデコブシなどの木本類が主に確認された。また、確認された湿性の昆虫類、植物の重要種の確認種数の傾向から、湧水湿地は沼沢湿地や休耕田などのその他の湿地よりも多様な重要種が生息・生育しやすい環境であり、特に湧水湿地の発散型は生物多様性に富んでいるものと考えられる。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
<p>環 16-3-18 表-2 湿地で確認された重要種（高等植物）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th rowspan="2">科名</th> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="12">選定基準</th> </tr> <tr> <th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>⑦</th><th>⑧</th><th>⑨</th><th>⑩</th><th>⑪</th><th>⑫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>カバノキ</td><td>サクラバハヒノキ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>モクレン</td><td>シデコブシ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>キンボウグ</td><td>カザグルマ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>メギ</td><td>ヘビノボラズ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>モウセンゴケ</td><td>イシモチソウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>トウカヨモクセンゴケ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>タヌキモ</td><td>ミミカキグサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td>ホウキノミミカキグサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td>ムラサキミミカキグサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>キク</td><td>スイラン</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>ユリ</td><td>イワショウブ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>ミカワバエイトソウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>ホシクサ</td><td>シラタマホシクサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>イネ</td><td>ヒメコスガサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>ラン</td><td>サギソウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計</td> <td>11科</td> <td>15種</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>13</td><td>9</td><td>12</td><td>13</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </tbody> </table>	No.	科名	種名	選定基準												①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	1	カバノキ	サクラバハヒノキ							○	NT	NT	○						2	モクレン	シデコブシ							○	NT	NT	○						3	キンボウグ	カザグルマ							○	NT	NT	○						4	メギ	ヘビノボラズ							○	NT	NT	○						5	モウセンゴケ	イシモチソウ								NT	NT	○						6		トウカヨモクセンゴケ							○	NT	NT	○						7	タヌキモ	ミミカキグサ							○	NT	NT	○						8		ホウキノミミカキグサ							○	NT	NT	○						9		ムラサキミミカキグサ							○	NT	NT	○						10	キク	スイラン							○	NT	NT	○						11	ユリ	イワショウブ							○	NT	NT	○						12		ミカワバエイトソウ							○	NT	NT	○						13	ホシクサ	シラタマホシクサ							○	NT	NT	○						14	イネ	ヒメコスガサ							○	NT	NT	○						15	ラン	サギソウ							○	NT	NT	○						計	11科	15種	0	0	0	0	0	0	13	9	12	13	0	0	0	0	0	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th rowspan="2">科名</th> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="12">選定基準</th> </tr> <tr> <th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>⑦</th><th>⑧</th><th>⑨</th><th>⑩</th><th>⑪</th><th>⑫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ヒカゲノカズラ</td><td>セチスギラン</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td></tr> <tr><td>2</td><td>カバノキ</td><td>サクラバハヒノキ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>モクレン</td><td>シデコブシ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>キンボウグ</td><td>カザグルマ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>メギ</td><td>ヘビノボラズ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>モウセンゴケ</td><td>イシモチソウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>トウカヨモクセンゴケ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>ユキノシタ</td><td>タメシバ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>ヒメハギ</td><td>ヒナノカサギ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td></tr> <tr><td>10</td><td>カエデ</td><td>ハナノキ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td></tr> <tr><td>11</td><td>ゴマノハダサ</td><td>ミカワシロガサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>タヌキモ</td><td>ミミカキグサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>ホウキノミミカキグサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td>ムラサキミミカキグサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>キク</td><td>スイラン</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>オキザリ</td><td>アザミ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>17</td><td>ユリ</td><td>イワショウブ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td></tr> <tr><td>18</td><td></td><td>ミカワバエイトソウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>19</td><td>ホシクサ</td><td>シラタマホシクサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td></td><td>タメシバ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td></tr> <tr><td>21</td><td>イネ</td><td>ヒメコスガサ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td></tr> <tr><td>22</td><td></td><td>ヒナノキ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td></tr> <tr><td>23</td><td>ラン</td><td>サギソウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>NT</td><td>NT</td><td>○</td></tr> <tr> <td>計</td> <td>11科</td> <td>23種</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>0</td> </tr> </tbody> </table>	No.	科名	種名	選定基準												①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	1	ヒカゲノカズラ	セチスギラン														○	NT	2	カバノキ	サクラバハヒノキ										○	NT	NT	○			3	モクレン	シデコブシ										○	NT	NT	○			4	キンボウグ	カザグルマ										○	NT	NT	○			5	メギ	ヘビノボラズ										○	NT	NT	○			6	モウセンゴケ	イシモチソウ											○	NT	NT	○		7		トウカヨモクセンゴケ											○	NT	NT	○		8	ユキノシタ	タメシバ											○	NT	NT	○		9	ヒメハギ	ヒナノカサギ												○	NT	NT	○	10	カエデ	ハナノキ												○	NT	NT	○	11	ゴマノハダサ	ミカワシロガサ								○		○	NT	NT	○			12	タヌキモ	ミミカキグサ										○	NT	NT	○			13		ホウキノミミカキグサ										○	NT	NT	○			14		ムラサキミミカキグサ										○	NT	NT	○			15	キク	スイラン											○	NT	NT	○		16	オキザリ	アザミ											○	NT	NT	○		17	ユリ	イワショウブ												○	NT	NT	○	18		ミカワバエイトソウ											○	NT	NT	○		19	ホシクサ	シラタマホシクサ											○	NT	NT	○		20		タメシバ												○	NT	NT	○	21	イネ	ヒメコスガサ												○	NT	NT	○	22		ヒナノキ												○	NT	NT	○	23	ラン	サギソウ												○	NT	NT	○	計	11科	23種	0	0	0	0	0	0	15	15	15	15	15	15	15	15	0
No.	科名				種名	選定基準																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		①	②	③		④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1	カバノキ	サクラバハヒノキ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2	モクレン	シデコブシ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
3	キンボウグ	カザグルマ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
4	メギ	ヘビノボラズ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
5	モウセンゴケ	イシモチソウ								NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
6		トウカヨモクセンゴケ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
7	タヌキモ	ミミカキグサ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
8		ホウキノミミカキグサ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
9		ムラサキミミカキグサ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
10	キク	スイラン							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
11	ユリ	イワショウブ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
12		ミカワバエイトソウ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13	ホシクサ	シラタマホシクサ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14	イネ	ヒメコスガサ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
15	ラン	サギソウ							○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
計	11科	15種	0	0	0	0	0	0	13	9	12	13	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
No.	科名	種名	選定基準																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1	ヒカゲノカズラ	セチスギラン														○	NT																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2	カバノキ	サクラバハヒノキ										○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
3	モクレン	シデコブシ										○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
4	キンボウグ	カザグルマ										○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
5	メギ	ヘビノボラズ										○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
6	モウセンゴケ	イシモチソウ											○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
7		トウカヨモクセンゴケ											○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
8	ユキノシタ	タメシバ											○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
9	ヒメハギ	ヒナノカサギ												○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
10	カエデ	ハナノキ												○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
11	ゴマノハダサ	ミカワシロガサ								○		○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
12	タヌキモ	ミミカキグサ										○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
13		ホウキノミミカキグサ										○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
14		ムラサキミミカキグサ										○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
15	キク	スイラン											○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
16	オキザリ	アザミ											○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
17	ユリ	イワショウブ												○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
18		ミカワバエイトソウ											○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
19	ホシクサ	シラタマホシクサ											○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
20		タメシバ												○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
21	イネ	ヒメコスガサ												○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
22		ヒナノキ												○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
23	ラン	サギソウ												○	NT	NT	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
計	11科	23種	0	0	0	0	0	0	15	15	15	15	15	15	15	15	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
<p>環 16-3-19 表-3 重要種の確認種数の傾向（昆虫類、植物）</p>	<p>—</p>	<p>追記</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
<p>環 16-3-20 1) 調査対象湿地（代表湿地）の選定</p>	<p>—</p>	<p>1) 調査対象湿地（代表湿地）の選定</p> <p>地質・水文調査の対象とする湿地は、平成24年の現地踏査にて確認された湿地（32箇所）の内、湿地の成り立ちの区分が「湧水湿地」であり、湿地の衰退期を迎えている遷移段階の「進行（樹林）」を除く14箇所から選定した。</p> <p>動植物調査の結果（参考資料1）を踏まえた上で、湧水湿地の「発散型」と「収束型」から、一定以上の規模（400m²）を有し、重要な種の確認種数が多い箇所を、調査対象湿地（代表湿地 No. 3、代表湿地 No. 5）として選定した。また、専門家意見を踏まえて、湧水湿地の発散型に区分される湿地から、一定以上の規模（400m²）を有し、東海丘陵要素植物⁽¹⁾に含まれる重要な種の確認個体数を考慮し、調査対象湿地（代表湿地 No. 1、代表湿地 No. 2、代表湿地 No. 4）を選定した。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書																																																																				
環 16-3-20 表-1 調査対象湿地（代表湿地）の選定	—	追記																																																																				
環 16-3-20 脚注	—	(1)「東海丘陵要素植物～郷土の宝の植物たち～」(2007年、(財)日本野鳥の会)																																																																				
環 16-3-21 表-2 代表湿地の概要	表 16-2-2-4 代表湿地で確認された重要な種 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">湿地タイプ</th> <th colspan="3">湧水湿地</th> </tr> <tr> <th colspan="3">初期</th> </tr> <tr> <th>遷移の段階</th> <th colspan="3">遷移の段階</th> </tr> <tr> <th>遷移地%</th> <th>No. 1</th> <th>No. 2</th> <th>No. 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高等植物 (優性の重要な種)</td> <td>ヘビノハダマ オシロイソトコ イソノハダマ シロハダマ オシロイソトコ</td> <td>シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ イソノハダマ オシロイソトコ</td> <td>シダコ シダコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ</td> </tr> <tr> <td>昆虫類 (優性の重要な種)</td> <td>ヒメハダマ オシロイソトコ</td> <td>ヒメハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ</td> <td>ヒメハダマ</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td>草本密生</td> <td>一部にイソノハダマ、オシロイソトコ等</td> <td>一部にイソノハダマ等</td> </tr> </tbody> </table>	湿地タイプ	湧水湿地			初期			遷移の段階	遷移の段階			遷移地%	No. 1	No. 2	No. 3	高等植物 (優性の重要な種)	ヘビノハダマ オシロイソトコ イソノハダマ シロハダマ オシロイソトコ	シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ イソノハダマ オシロイソトコ	シダコ シダコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	昆虫類 (優性の重要な種)	ヒメハダマ オシロイソトコ	ヒメハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	ヒメハダマ	備考	草本密生	一部にイソノハダマ、オシロイソトコ等	一部にイソノハダマ等	表-2 調査対象湿地（代表湿地）の概要 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">遷移の段階</th> <th colspan="5">湧水湿地</th> </tr> <tr> <th colspan="2">初期段階</th> <th colspan="2">遷移段階</th> <th>後遷移段階</th> </tr> <tr> <th>代表地%</th> <th>No. 1</th> <th>No. 2</th> <th>No. 3</th> <th>No. 4</th> <th>No. 5</th> </tr> <tr> <th>市町村名</th> <th>東郷町</th> <th>東郷町</th> <th>東郷町</th> <th>東郷町</th> <th>東郷町</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昆虫類 (優性の重要な種)</td> <td>ヒメハダマ オシロイソトコ</td> <td>なし</td> <td>ヒメハダマ オシロイソトコ</td> <td>ヒメハダマ オシロイソトコ</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>高等植物 (優性の重要な種)</td> <td>ヘビノハダマ イソノハダマ オシロイソトコ</td> <td>シダコ シダコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ</td> <td>シダコ ヘビノハダマ イソノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ</td> <td>シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ</td> <td>シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ</td> </tr> <tr> <td>地質構造 タイプ</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>	遷移の段階	湧水湿地					初期段階		遷移段階		後遷移段階	代表地%	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	市町村名	東郷町	東郷町	東郷町	東郷町	東郷町	昆虫類 (優性の重要な種)	ヒメハダマ オシロイソトコ	なし	ヒメハダマ オシロイソトコ	ヒメハダマ オシロイソトコ	なし	高等植物 (優性の重要な種)	ヘビノハダマ イソノハダマ オシロイソトコ	シダコ シダコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	シダコ ヘビノハダマ イソノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	地質構造 タイプ	A	B	A	A	A
湿地タイプ	湧水湿地																																																																					
	初期																																																																					
遷移の段階	遷移の段階																																																																					
遷移地%	No. 1	No. 2	No. 3																																																																			
高等植物 (優性の重要な種)	ヘビノハダマ オシロイソトコ イソノハダマ シロハダマ オシロイソトコ	シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ イソノハダマ オシロイソトコ	シダコ シダコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ																																																																			
昆虫類 (優性の重要な種)	ヒメハダマ オシロイソトコ	ヒメハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	ヒメハダマ																																																																			
備考	草本密生	一部にイソノハダマ、オシロイソトコ等	一部にイソノハダマ等																																																																			
遷移の段階	湧水湿地																																																																					
	初期段階		遷移段階		後遷移段階																																																																	
代表地%	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5																																																																	
市町村名	東郷町	東郷町	東郷町	東郷町	東郷町																																																																	
昆虫類 (優性の重要な種)	ヒメハダマ オシロイソトコ	なし	ヒメハダマ オシロイソトコ	ヒメハダマ オシロイソトコ	なし																																																																	
高等植物 (優性の重要な種)	ヘビノハダマ イソノハダマ オシロイソトコ	シダコ シダコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	シダコ ヘビノハダマ イソノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ	シダコ ヘビノハダマ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ オシロイソトコ																																																																	
地質構造 タイプ	A	B	A	A	A																																																																	
環 16-3-22 2)地質調査結果	—	「2) 地質調査結果」を追記																																																																				
環 16-3-22 2)地質調査結果	(3) 代表湿地の水文・地質環境	削除																																																																				
環 16-3-23 3)水文調査結果	—	「3) 水文調査結果」を追記																																																																				
環 16-3-25 4)湿地形成環境について	代表湿地は、主に土岐砂礫層の分布域の緩斜面に形成されており、それを涵養する湧水は、いずれも土岐砂礫層又は崖錐堆積物の風化部、新鮮部境界、粘性土境界などが露出する斜面の崩れた箇所から滲み出していた。また、湧水点は、いずれも複数存在しており、これにより湿地形成面を面的に涵養している。 代表湿地を涵養する湧水の水質は、pH5.2～6.5、電気伝導率1.4～2.2mS/mであり、全リン及び硝酸性窒素も低い値を示しているため、一般にいわれる湧水湿地の水質（弱酸性、貧栄養）と同様の特徴が見られた。また、湧水は、表 16-2-2-6 に示す水分中の主溶存成分を図化したヘキサダイアグラムの細長い形状から見ても、溶存成分量が少ないことから、地中に長期間滞水しているような地下水（「資料編 7-3 地下水の水質組成及び電気伝導率について」参照）とは異なり、降水が地表付近の土壤に浸透して、すぐに湧出するような宙水に近い表層の地下水であると推定される。さらに、湿地を形成する表層地質は、シルトなどの細粒分を多く含み、また、ボーリング孔の調査結果により、土岐砂礫層の透水係数は1.7	4) 湿地形成環境について 地質調査、水文調査の結果より、代表湿地は、主に土岐砂礫層の分布域の緩斜面に形成されており、それを涵養する湧水は、いずれも土岐砂礫層又は崖錐堆積物の風化部、新鮮部境界、粘性土境界などが露出する斜面の崩れた箇所から滲み出していた。また、湧水点は、いずれも複数存在しており、これにより湿地形成面を面的に涵養していた。 湿地を涵養している湧水は、深層の地下水起源と考える深層地下水や下流域の河川水の pH や電気伝導率と異なり、「資料編 7-3 地下水の水質組成及び電気伝導率について」に示す地下水のヘキサダイアグラムの形状とも異なる形を示していることから、降水が地表付近の土壤に浸透して、すぐに湧出するような宙水に近い表層の地下水であると考えられる。 また、代表湿地 No. 1、No. 3、No. 4 は、土岐砂礫層内のシルトなどの細粒分を多く含む難透水層が表層地下水と深層地下水を隔てるように機能しており、表層地下水が下層に浸透し難く、表層地下水が地表に湧出しているものと推察される。																																																																				

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>×10⁻⁷～7.0×10⁻⁸m/s とおおむね難透水性を示している。このことから、地表付近に分布するシルトなどが不透水層並びに難透水層の役割を果たし、降水が地中深くに浸透し難く、斜面の崩れた箇所から不透水層等を境に湧水が滲み出していると推定される。</p> <p>また、「里山の生態学」(平成14年3月、広木詔三)によると、湧水湿地は、水を浸透させにくい粘土質の層と水を浸透させやすい砂礫質の層が積み重なった場所で、水を浸透しにくい粘土層の上に形成された地下水脈が地表に湧出して、地表が剥がれた場所を湧水が涵養することにより形成されると述べられている。したがって、東濃地域の代表的な湿地である湧水湿地は、不透水層等が存在する環境下で、宙水に近い表層の地下水によって、湿地環境が維持されていると推定される。</p>	<p>また、代表湿地 No. 2 は、断層運動による粘土化帯が確認されており、断層破砕帯による濃飛流紋岩類(凝灰岩)の粘土化帯が表層地下水と深層地下水を隔てるように難透水層として機能しており、表層地下水が地表に湧出しているものと推察される。代表湿地 No. 5 は、崖錐堆積物周辺部に分布する土岐砂礫層内の難透水層が表層地下水と深層地下水を隔てるように機能しており、表層地下水が地表に湧出しているものと推察される。</p> <p>さらに湿地を形成する表層の地質は、シルトなどの細粒分を多く含む土岐砂礫層や崖錐堆積物であり、粘土化した土壤層が確認されていること、主要な地質である土岐砂礫層の透水係数がボーリング孔の調査結果により、1.7×10⁻⁷～7.0×10⁻⁸m/s とおおむね難透水性を示していることから、降水や湧水が地中深くに浸透し難く、緩傾斜で地表面に水が溜りやすい環境であると考えられる。</p> <p>また、「里山の生態学」⁽²⁾によると、湧水湿地は、水を浸透させにくい粘土質の層と水を浸透させやすい砂礫質の層が積み重なった場所で、水を浸透しにくい粘土層の上に形成された地下水脈が地表に湧出して、地表が剥がれた場所を湧水が涵養することにより形成されると述べられている(図-1 参照)。</p> <p>このことから、東濃地域の代表的な湿地である湧水湿地は、不透水層等が存在する環境下で、宙水に近い表層の地下水によって、湿地環境が維持されていると考えられる。</p>
環 16-3-25 脚注	⁽²⁾ 「里山の生態学」(平成14年3月、広木詔三)	⁽²⁾ 「里山の生態学」(平成14年3月、広木詔三、財団法人名古屋大学出版会)
環 16-3-27 (参考資料 3-2) 植物 群落組成 植生調査票	—	追記
環 16-3-28 (参考資料 3-3) 植物 群落組成 植生調査票	(調査地点、特記事項) 代表湿地 No. 2	(調査地点、特記事項) 代表湿地 No. 3、 ・湿地の中央部。礫が多く水がしみだし常に湿った状態。 ・直径数 cm～こぶし大の礫が約 60%を占める
環 16-3-29 (参考資料 3-4) 植物 群落組成 植生調査票	(調査地点) 代表湿地 No. 3	(調査地点) 代表湿地 No. 4
環 16-3-30 (参考資料 3-5) 植物 群落組成 植生調査票	—	追記
環 17-1-16 3)長大橋梁の設計検討	【久々利高架橋】 広い田園地帯を通過するため、見通し	【久々利高架橋】 久々利大萱地区については、重要な遺

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
	<p>の確保の観点からスパンの大きい桁式高架橋とするとともに、橋梁全体のスパン割りが目立つことから、径間のバランスに配慮した。</p> <p>また、地形条件と線形の関係から切土や坑口の改変が大きくなる懸念があることから、施工を工夫する方向性を定めた。</p>	<p><u>跡としての古窯跡が点在することから、それらの文化的な景観と超電導リニアの構造物との対比による調和を考慮して検討を行った。検討においては、谷あい広がる水田を中心とした里山を路線が通過するため、周辺景観とコントラストを持つ水平線としての構成、安定感を確保するための水平線と垂直線の均衡の観点に着目して検討を行い、見通しの確保できるスパンを等間隔で確保した桁式高架橋とするとともに、道路交差部の長大スパンとなる箇所については、径間のバランスに配慮した。</u></p> <p><u>なお、久々利高架橋の詳細な検討にあたっては今後、以下の点に留意していくこととした。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>用地柵等の地表付近の設備については、自治体側の史跡の環境整備に合わせ、構造物の周辺に植栽を施すなど、目線レベルでの修景を施していく。</u> ・<u>今後の文化財の調査等において橋脚位置の変更があった場合もスパンの等間隔性や長大スパンとなる部分の橋梁のバランスの確保を図ることで、現在の計画で確保されている水平線の構成、及び、水平線と垂直線の均衡を確保する。</u> ・<u>坑口付近の切土については、改変量を低減させて、できる限り目立たない形となるように施工法を検討していく。</u>
環 17-1-17 (2)環境影響評価の手法	3) 予測評価手法	2) 予測評価手法
環 17-1-18 (3)景観検討会における意見の概要	—	「(3)景観検討会における意見の概要」を追記
環 17-1-20 4)岐阜県内の視点の選定過程	(2) 環境影響評価の手法 2) 岐阜県内の視点の選定過程	(3) 景観検討会における意見の概要 4) 岐阜県内の視点の選定過程
環 18-1-1 18-1-1 建設工事に伴う工種ごとの副産物発生量	—	18-1-1 建設工事に伴う工種ごとの副産物発生量
環 18-1-1 18-1-2 建設工事に伴う発生箇所ごとの副産物発生量	—	「18-1-2 建設工事に伴う発生箇所ごとの副産物発生量」を追記
環 18-1-2 18-1-3 トンネルの工事に伴う年別・地区別の建設発生土量	—	「18-1-3 トンネルの工事に伴う年別・地区別の建設発生土量」を追記
環 18-2-1 18-2-1 建設工事に伴う副産物	18-2-1 建設副産物	18-2-1 建設工事に伴う副産物
環 18-2-2 18-2-1 供用時の廃棄物	18-2-2 供用時の発生量の算出方法	18-2-2 供用時の廃棄物

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
環 18-4-1 18-4 新たな発生土置き場の取扱い	18-3 新たな発生土置き場の取扱い	18- 4 新たな発生土置き場の取り扱い
環 18-5-1 18-5 建設発生土等の抑制	18-4 建設発生土等の抑制	18- 5 建設発生土等の抑制
環 18-5-1 18-5-1 建設発生土等を抑える工法選定及びその経緯	18-4-1 建設発生土等を抑える工法選定及びその経緯	18- 5 -1 建設発生土等を抑える工法選定及びその経緯
環 18-5-1 18-5-2 建設発生土の活用	18-4-2 建設発生土の活用	18- 5 -2 建設発生土の活用
環 18-5-1 8-5-3 山梨リニア実験線工事における建設発生土利用実績	18-4-3 山梨リニア実験線工事における建設発生土利用実績	18- 5 -3 山梨リニア実験線工事における建設発生土利用実績
環 18-6-1 18-6 建設発生土の不法投棄対策	18-4-4 建設発生土の不法投棄対策	18- 6 建設発生土の不法投棄対策
環 18-7-1 18-7 廃棄物の再生利用の方法と目標とする量	—	「18-7 廃棄物の再生利用の方法と目標とする量」を追記
環 19-1-1 表 19-1-1-1(1)建設機械の稼働に用いた原単位	(ホイールローダ、運転 1 時間あたり燃料消費量 (L/h) ^{注2)} 33.775	(ホイールローダ、運転 1 時間あたり燃料消費量 (L/h) ^{注2)} <u>29.529</u>
	(コンテナ式運搬車、運転 1 時間あたり燃料消費量 (L/h) ^{注2)} 14.300	(コンテナ式運搬車、運転 1 時間あたり燃料消費量 (L/h) ^{注2)} <u>14.280</u>
	(ダンプトラック、23 t、定格出力(kW) ^{注1)} 347	(ダンプトラック、23 t、定格出力(kW) ^{注1)} <u>170</u>
	(トラック (場内小運搬)、運転 1 時間あたり燃料消費量 (L/h) ^{注2)} 19.275	(トラック (場内小運搬)、運転 1 時間あたり燃料消費量 (L/h) ^{注2)} <u>12.850</u>
	—	以下を追記 (機械名) <u>クローラークレーン</u> (諸元 ^{注1)} <u>250t</u> (燃料 ^{注1)} <u>軽油</u> (定格出力(kW) ^{注1)} <u>253</u> (運転 1 時間あたり燃料消費率 (L/kWh) ^{注1)} <u>0.089</u> (運転 1 時間あたり燃料消費量 (L/h) ^{注2)} <u>22.517</u> (平均稼働率 ^{注3)} <u>0.729</u> (CO ₂ 排出係数 (kgCO ₂ /L) ^{注4)}

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<u>2.58</u> (N ₂ O 排出係数 (kgN ₂ O/L) 注4) <u>0.000064</u> (地球温暖化係数 (N ₂ O) 注5) <u>310</u>
環 19-1-2 表 19-1-1-1(2) 建設機 械の稼働に用いた原単 位	—	以下を追記 (機械名) <u>クローラークレーン</u> (諸元注1) <u>400t</u> (燃料注1) <u>軽油</u> (定格出力(kW)注1) <u>448</u> (運転1時間あたり燃料消費率 (L/kWh) 注1) <u>0.089</u> (運転1時間あたり燃料消費量 (L/h) 注 2) <u>39.872</u> (平均稼働率注3) <u>0.729</u> (CO ₂ 排出係数 (kgCO ₂ /L) 注4) <u>2.58</u> (N ₂ O 排出係数 (kgN ₂ O/L) 注4) <u>0.000064</u> (地球温暖化係数 (N ₂ O) 注5) <u>310</u>
	以下を追記 (機械名) <u>ラフテレーンクレーン</u> (諸元注1) <u>250t</u> (燃料注1) <u>軽油</u> (定格出力(kW)注1) <u>257</u> (運転1時間あたり燃料消費率 (L/kWh) 注1) <u>0.103</u> (運転1時間あたり燃料消費量 (L/h) 注 2) <u>26.471</u> (平均稼働率注3) <u>0.721</u> (CO ₂ 排出係数 (kgCO ₂ /L) 注4) <u>2.58</u> (N ₂ O 排出係数 (kgN ₂ O/L) 注4) <u>0.000064</u> (地球温暖化係数 (N ₂ O) 注5) <u>310</u>	削除

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
		<p>域の特性や発生土置き場の改変の規模等により変更する場合があります、必要により専門家の助言等を踏まえて実施し、結果について公表していく。</p> <p><u>なお、事業開始後に本事業に係る環境影響について、新たに対応すべき点が生じた場合には、モニタリング調査についても、必要に応じて項目や地点数を追加するなどの検討を行っていく。</u></p>
環 20-1 表 20-1(1) 工事期間中のモニタリングの計画	表 20-1(1) モニタリングの計画	表 20-1(1) <u>工事期間中の</u> モニタリングの計画
環 20-2 表 20-1(2) 工事期間中のモニタリングの計画	表 20-1(2) モニタリングの計画	表 20-1(2) <u>工事期間中の</u> モニタリングの計画
	—	<p>以下を追記 (調査項目) <u>水質</u> <u>水温</u> (調査地域・地点の考え方) <u>切土工、トンネル工事、工事施工ヤードの設置に伴い工事排水を放流する箇所の下流地点</u> (調査期間の考え方) <u>工事前に1回</u> <u>工事中に毎年1回渇水期に実施</u> <u>その他、排水放流時の水質については継続的に実施</u> (調査方法) <u>「地下水調査および観測指針(案)」に定める測定方法</u></p>
	(調査項目) 地盤沈下	削除
環 20-3 表 20-1(3) 工事期間中のモニタリングの計画	表 20-1(3) モニタリングの計画	表 20-1(3) <u>工事期間中の</u> モニタリングの計画
環 20-3 表 20-1(3) 工事期間中のモニタリングの計画	(調査項目、動物) 河川の周辺に生息する重要種	(調査項目、動物) 河川の周辺に生息する重要種 (<u>魚類、底生動物を含む</u>)
環 20-3 20 モニタリングについて	—	<p><u>資材及び機械の運搬に用いる車両の主要なルートに追加や変更があった場合には、必要に応じて調査地点の追加や変更を行う。</u></p> <p><u>動物に関するモニタリングについては、調査範囲を種ごとの特性、生息環境に応じ、専門家等の助言を踏まえて設定していく。</u></p> <p><u>また、その結果について必要に応じて専門家の助言を得て、適切な環境保全措置を検討する。</u></p> <p><u>なお、工事中のモニタリングの結果により、必要となる場合には追加的な環境保全措置の検討を行う。</u></p>
環 20-4 表 20-2 完成後のモニ	表 20-2 完成後の測定の計画	表 20-2 完成後の <u>モニタリング(測定)</u> の計画

評価書の該当箇所	補正前の環境影響評価書	補正後の環境影響評価書
タリング（測定）の計画		
環 20-4 20 モニタリングについて	—	<p><u>モニタリングの結果、列車走行騒音について「新幹線鉄道騒音に係る環境基準」との整合が図られていない場合及び列車走行振動について「環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について（勧告）」に示す勧告値を上回った場合には因果関係を把握し、必要な環境保全措置を講じていく。</u></p> <p><u>また、列車走行に係る微気圧波についても、測定値が予測地を大幅に上回り、衝撃音（ドン音）や周辺家屋の窓枠や戸が著しく振動する場合には因果関係を把握し、必要な環境保全措置を講じていく。</u></p>
環 20-5 表 20-3（1）発生土置き場に関するモニタリングの計画	—	<p>以下を追記 （調査項目） 水質 <u>水素イオン濃度（pH）</u> （調査地域・地点の考え方） <u>発生土置き場の工事排水を放流する箇所の下流地点</u> （調査期間の考え方） <u>工事前に 1 回</u> <u>工事中に毎年 1 回渇水期に実施</u> <u>その他、排水放流時の水質については継続的に実施</u> （調査方法） <u>「水質汚濁に係る環境基準」に定める測定方法</u></p>
環 20-6 20 モニタリングについて	モニタリングや供用開始後の測定の結果については、岐阜県と調整のうえで公表を行うとともに、今後「岐阜県環境影響評価条例」に基づいて進める事後調査手続きにおいて報告を行っていく。	<p><u>モニタリングの具体的な内容については、事業の詳細な計画の進捗にあわせて順次決定していくことになるが、モニタリングの結果については、岐阜県と調整のうえで公表を行うとともに、今後「岐阜県環境影響評価条例」に基づいて進める事後調査手続きにおいて報告を行っていく。</u></p>